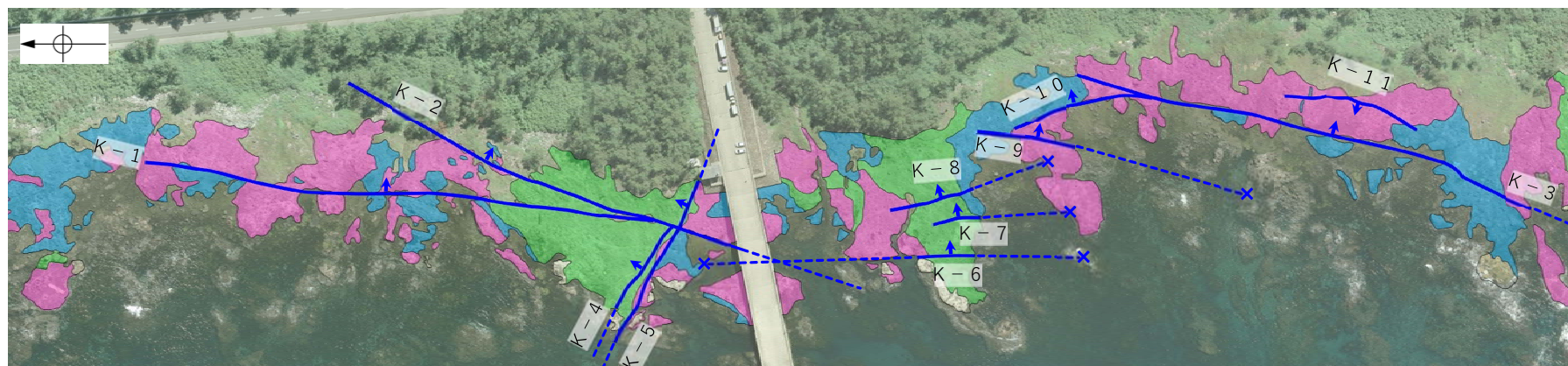
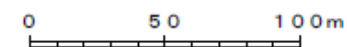
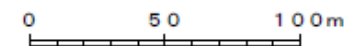




海岸部 写真



海岸部 地質図



凡例

- 穴水累層 安山岩(均質)
- 穴水累層 安山岩(角礫質)
- 穴水累層 凝灰角礫岩

- 断層(地表面)
(破線はさらに延長する可能性のある箇所)
- 断層延長部の露岩域で断層が認められないことを確認したもの
- 断層端部を確認していないもの

実線矢印(▲)の向きは断層の傾斜方向を示す

海岸部では、断層が11条確認される。

(4) 防潮堤基礎掘削法面

1. 既往スケッチ・写真データの整理 (P.2.1-1-35～2.1-1-75)

H29.3.10審査会合において提示した防潮堤基礎部のスケッチ・写真データを整理した。

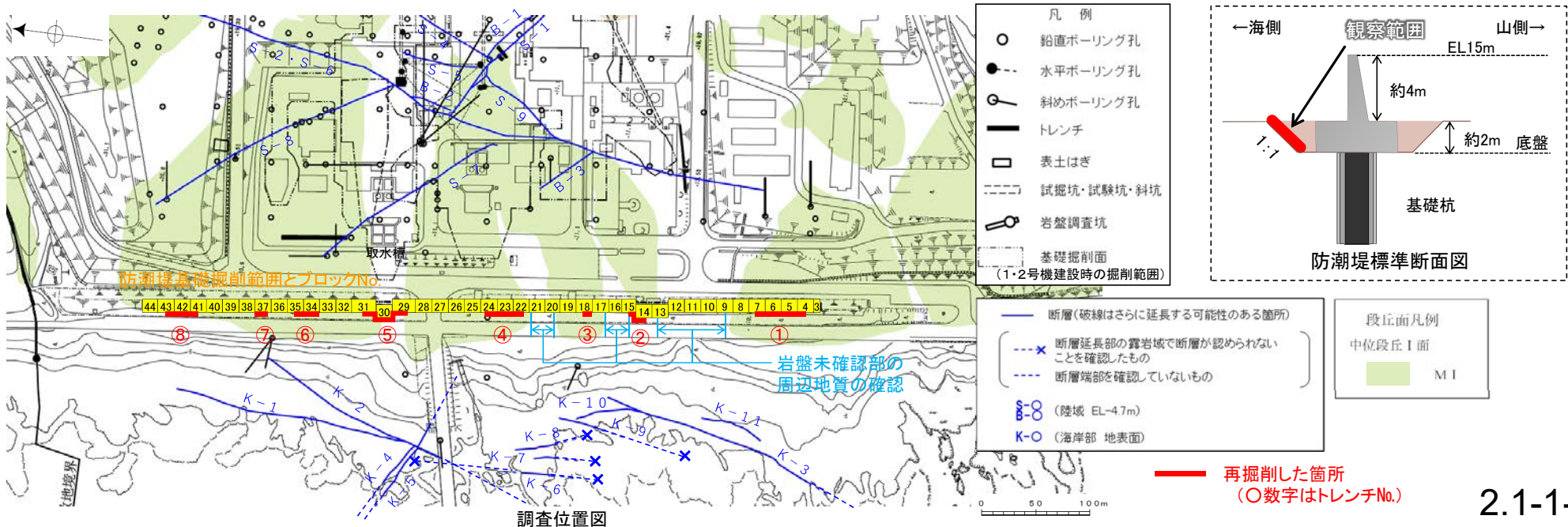
2. トレンチ(①～⑧)再掘削調査 (P.2.1-1-76～2.1-1-98)

H29.3.10審査会合におけるコメント(Ⅰ)～(Ⅲ)を踏まえ、トレンチ(①～⑧)再掘削調査により、地質状況の再確認(14箇所)を行った。

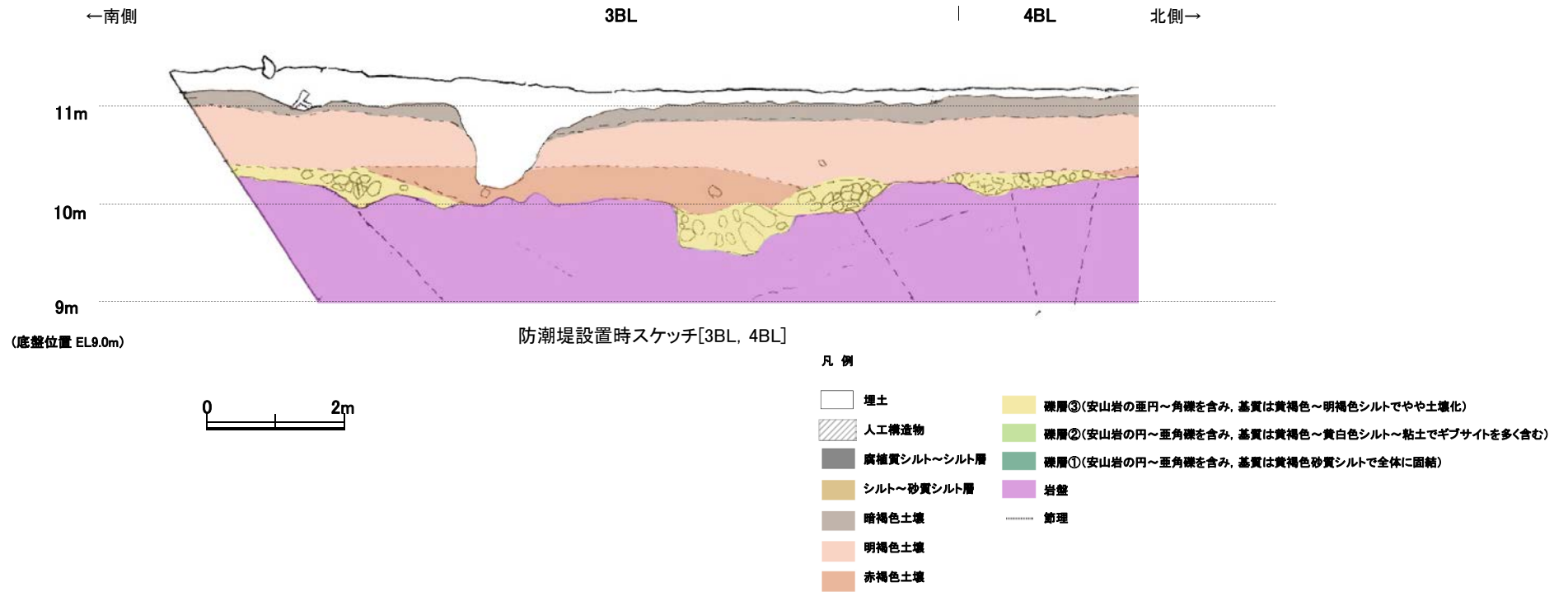
3. 岩盤未確認部の周辺地質の確認 (P.2.1-1-99～2.1-1-102)

中位段丘I面分布域外にあたり、基盤岩が確認できなかった箇所について、周辺地質からの検討(3箇所)を行った。

コメントの内容		地質状況を再確認した箇所 (全17箇所)	調査結果
(Ⅰ)	割れ目に沿って基盤上面が凹んでいる	【トレンチ再掘削調査】 4箇所 (Ⅰ-1～4) 6BL, 7BL, 18BL, 22BL	・基盤上面が凹んでいる箇所の直下に分布する割れ目が連続するものではなく、断層がないことを確認した。
(Ⅱ)	基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す	【トレンチ再掘削調査】 7箇所 (Ⅱ-1～7) 4BL, 5BL, 14BL, 24BL, 37BL, 41BL, 42BL	・礫層の下位の岩盤中に断層がないことを確認した。
(Ⅲ)	基盤岩が確認されていない	【トレンチ再掘削調査】 3箇所 (Ⅲ-4～6) 29～30BL, 31BL, 34～35BL	・2号機取水路トンネルの直上に位置する29～30BL, 中位段丘I面分布域の31BL及び34～35BLにおいて、基盤岩が確認されていない箇所について、防潮堤基礎よりもさらに深く掘削し基盤岩を露出させた結果、当該区間に断層がないことを確認した。
		【岩盤未確認部の周辺地質の確認】 3箇所 (Ⅲ-1～3) 10～13BL, 16BL, 20～21BL	・中位段丘I面分布域外で基盤岩が確認されていない箇所は、開析谷が横断する区間であり、侵食により基盤上面が削られて低くなっているものと判断される。 ・開析谷の延長方向の1・2号機基礎掘削面及び海岸部露岩域には、断層は認められない。



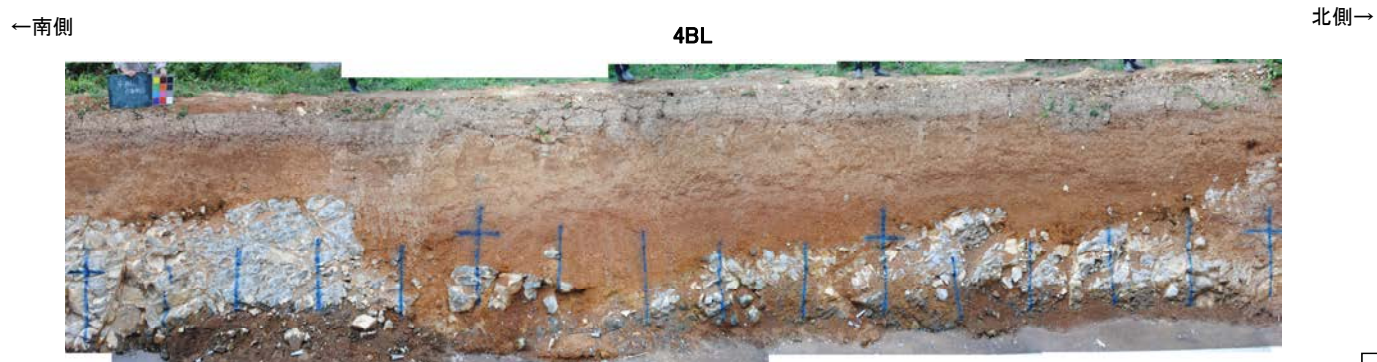
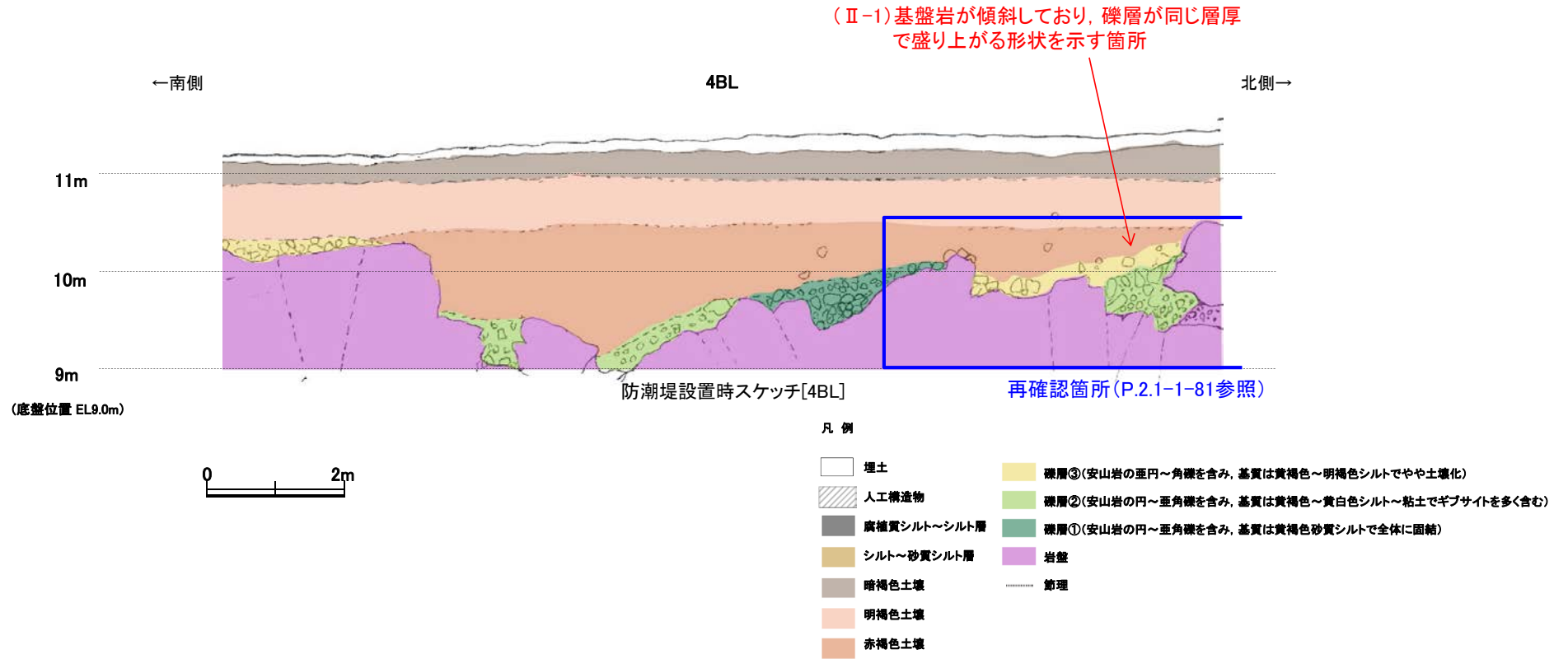
(4) -1 既往スケッチ・写真データの整理



・防潮堤基礎[3BL]には、断層は認められない。

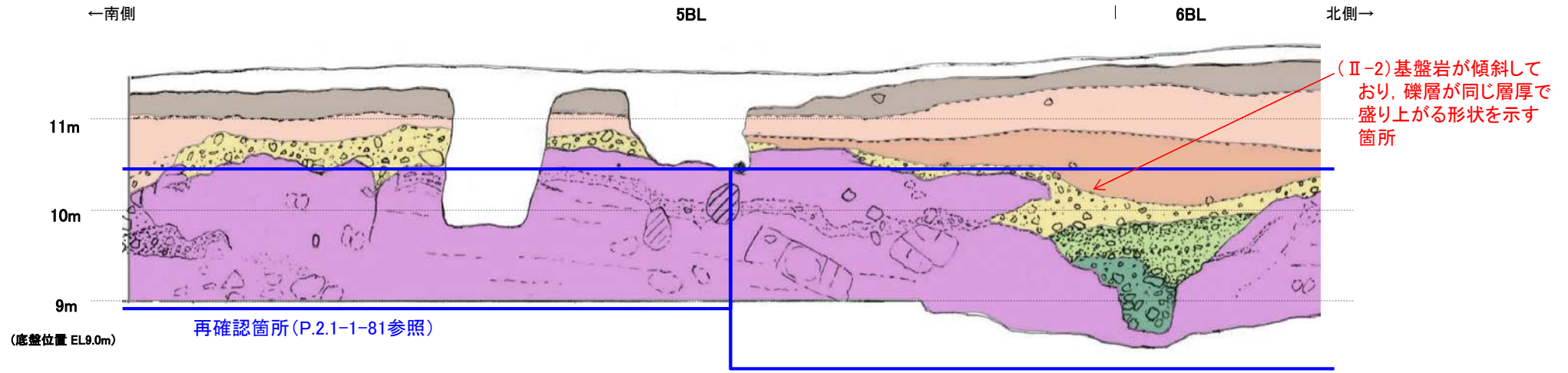
防潮堤設置時写真[3BL, 4BL]

防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時) スケッチ・写真[4BL]



・防潮堤基礎[4BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時) スケッチ・写真 [5BL, 6BL]①



防潮堤設置時スケッチ[5BL, 6BL]①



凡例

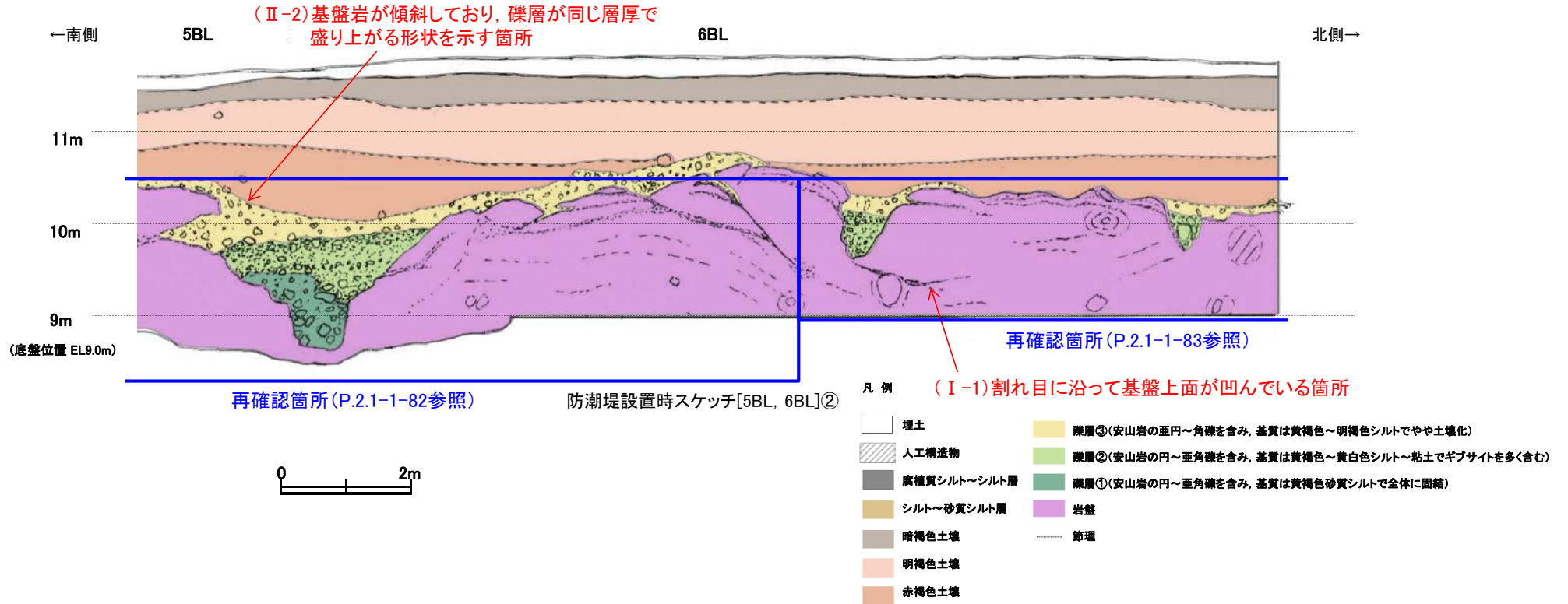
- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む) |
| 廣植質シルト~シルト層 | 礫層①(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト~砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



防潮堤設置時写真[5BL, 6BL]①

・防潮堤基礎[5BL]には、断層は認められない。

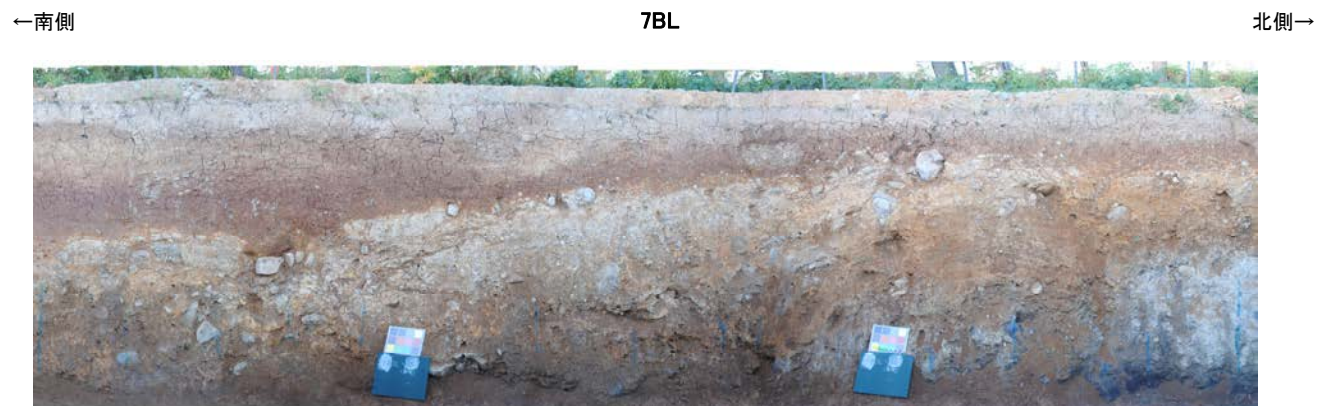
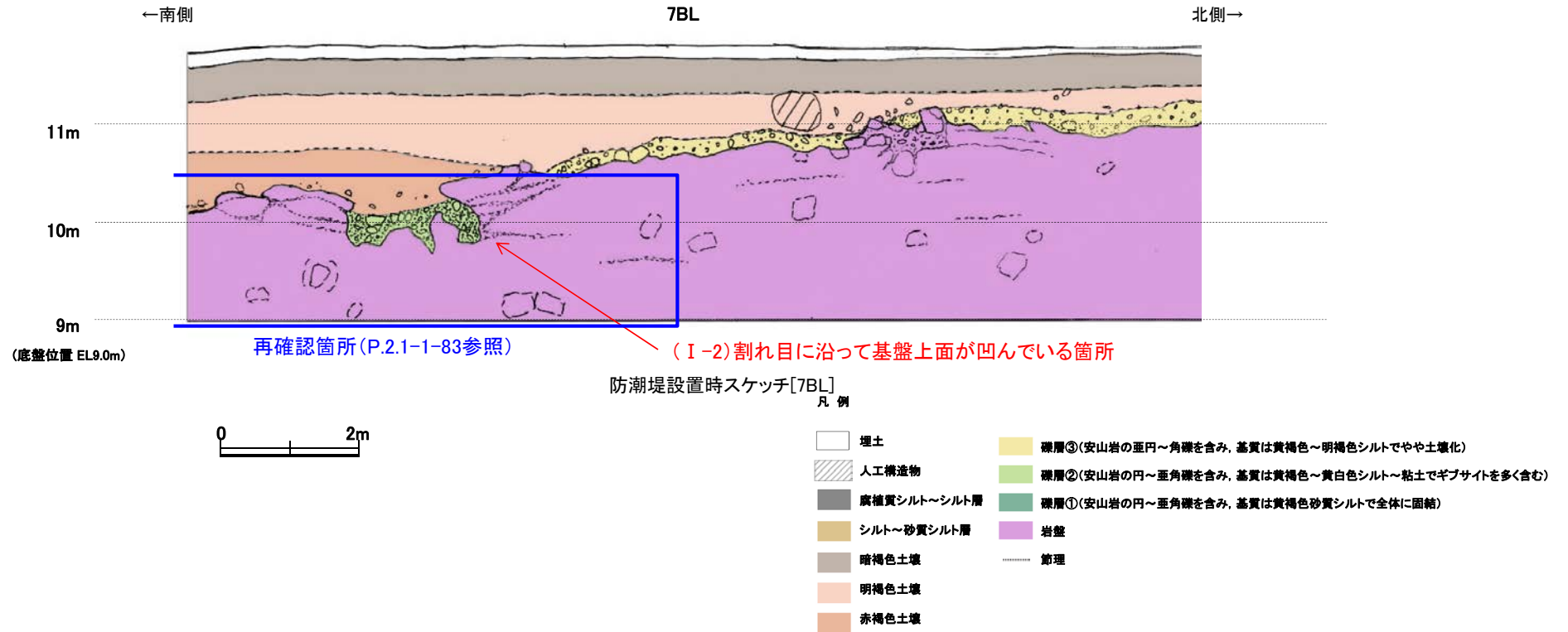
防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時) スケッチ・写真 [5BL, 6BL]②



防潮堤設置時写真[5BL, 6BL]②

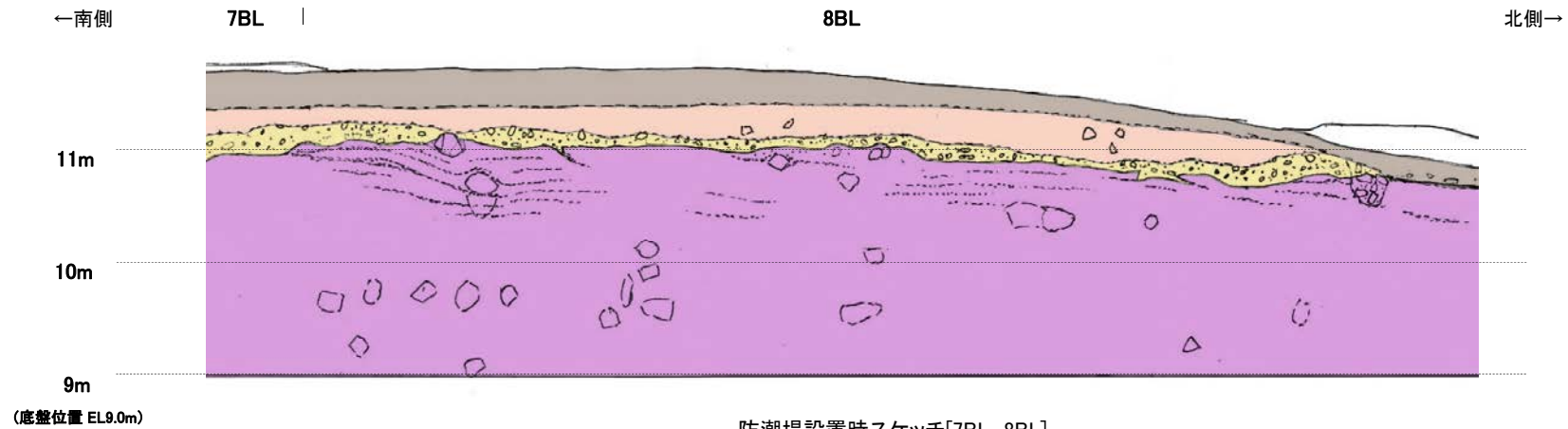
・防潮堤基礎[6BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [7BL]



防潮堤設置時写真[7BL]

・防潮堤基礎[7BL]には、断層は認められない。

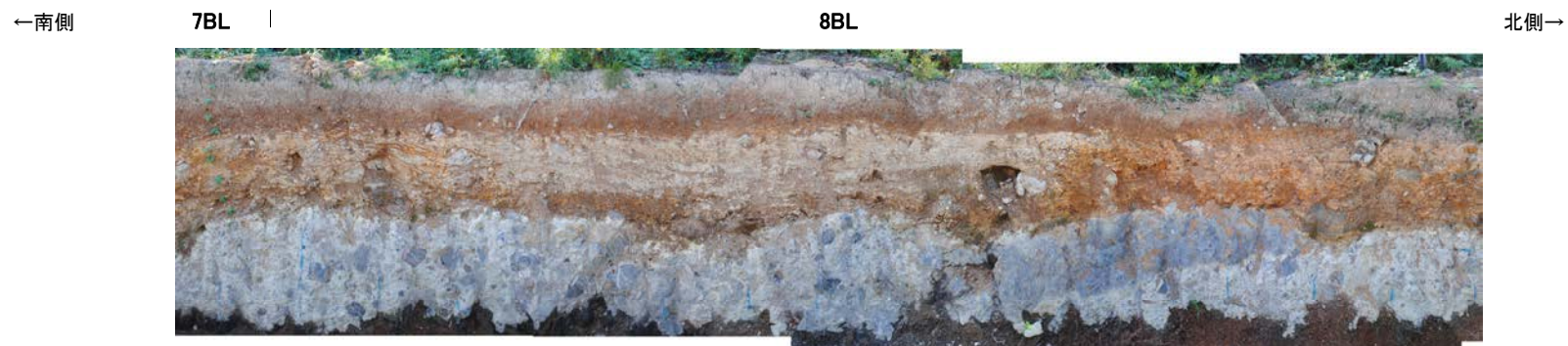


防潮堤設置時スケッチ[7BL, 8BL]



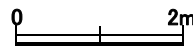
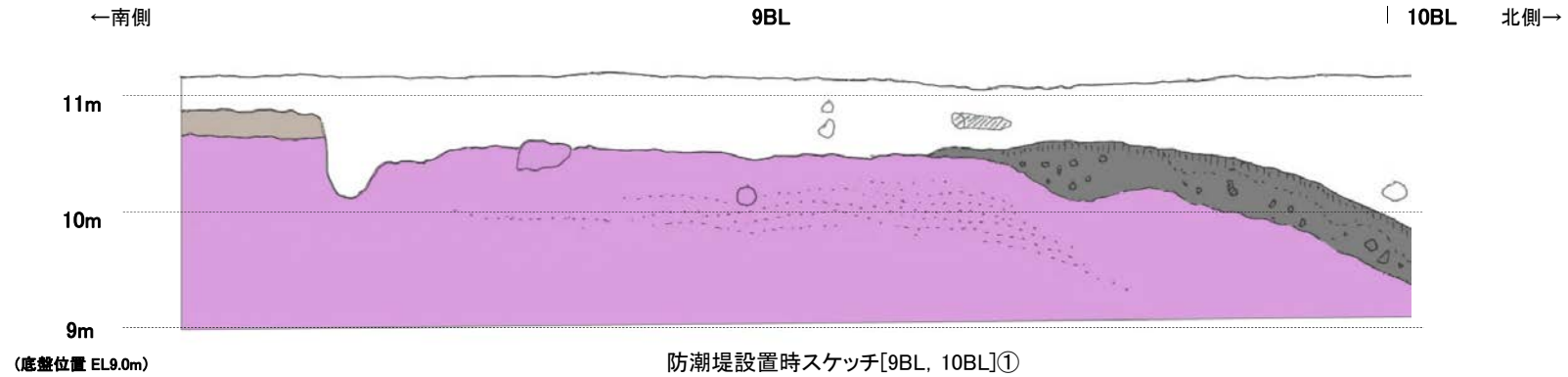
凡例

- | | |
|-------------|--|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み, 基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円~垂角礫を含み, 基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト~シルト層 | 礫層①(安山岩の円~垂角礫を含み, 基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト~砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



防潮堤設置時写真[7BL, 8BL]

・防潮堤基礎[8BL]には、断層は認められない。



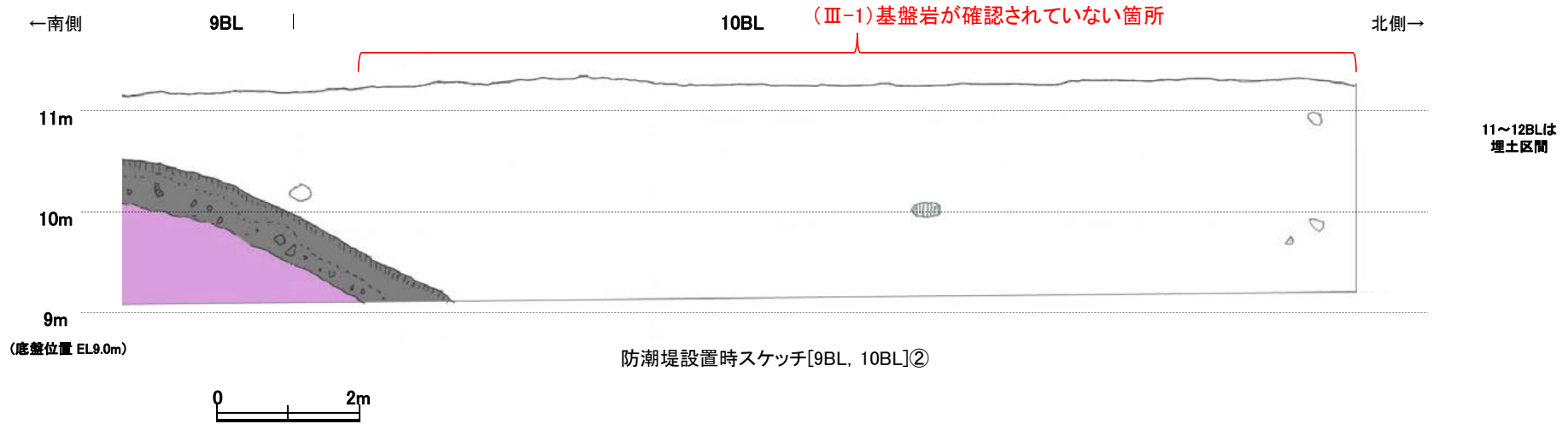
凡例

- | | | | |
|--|-------------|--|---|
| | 埋土 | | 礫層③(安山岩の歪円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| | 人工構造物 | | 礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| | 腐植質シルト～シルト層 | | 礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| | シルト～砂質シルト層 | | 岩盤 |
| | 暗褐色土壌 | | 節理 |
| | 明褐色土壌 | | |
| | 赤褐色土壌 | | |



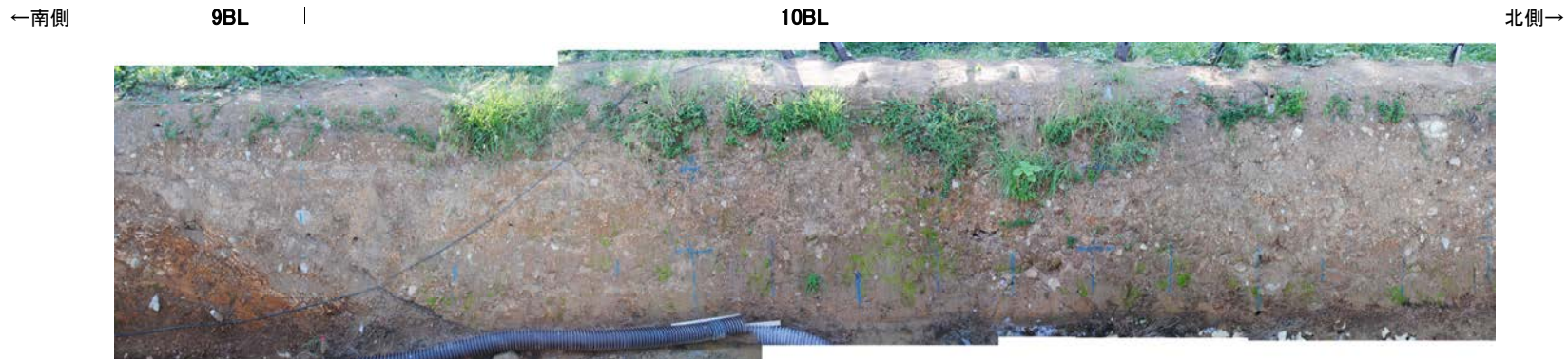
防潮堤設置時写真[9BL, 10BL]①

・防潮堤基礎[9BL]には、
断層は認められない。



凡例

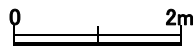
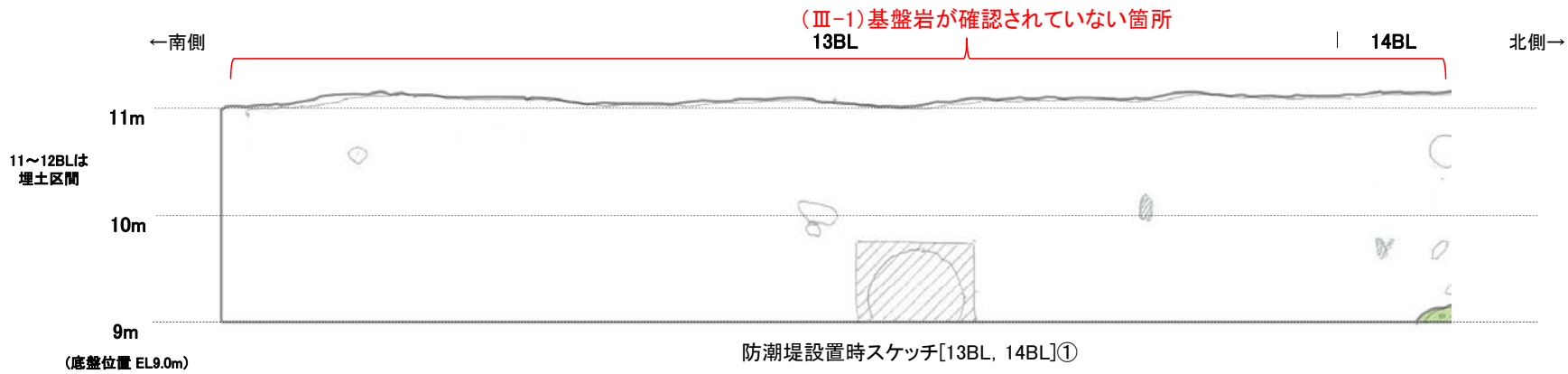
- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む) |
| 廣楯質シルト~シルト層 | 礫層①(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト~砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



防潮堤設置時写真[9BL, 10BL]②

・防潮堤基礎[10BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [13BL, 14BL]①



凡例

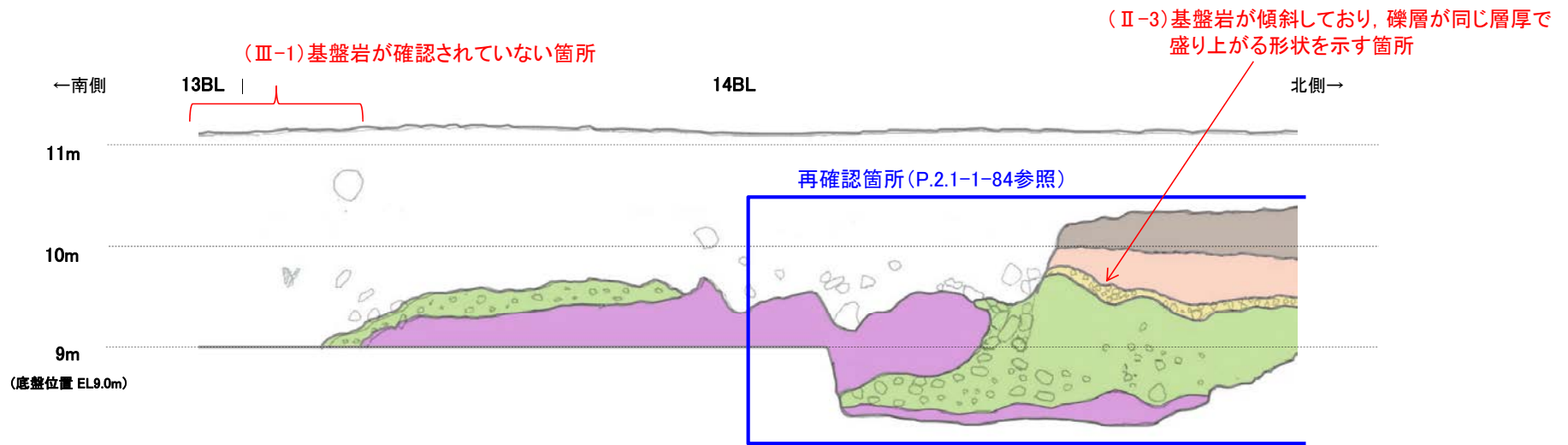
- | | |
|-------------|--|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の垂円～角礫を含み, 基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み, 基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み, 基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



防潮堤設置時写真[13BL, 14BL]①

・防潮堤基礎[13BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時) スケッチ・写真 [13BL, 14BL]②



防潮堤設置時スケッチ[13BL, 14BL]②

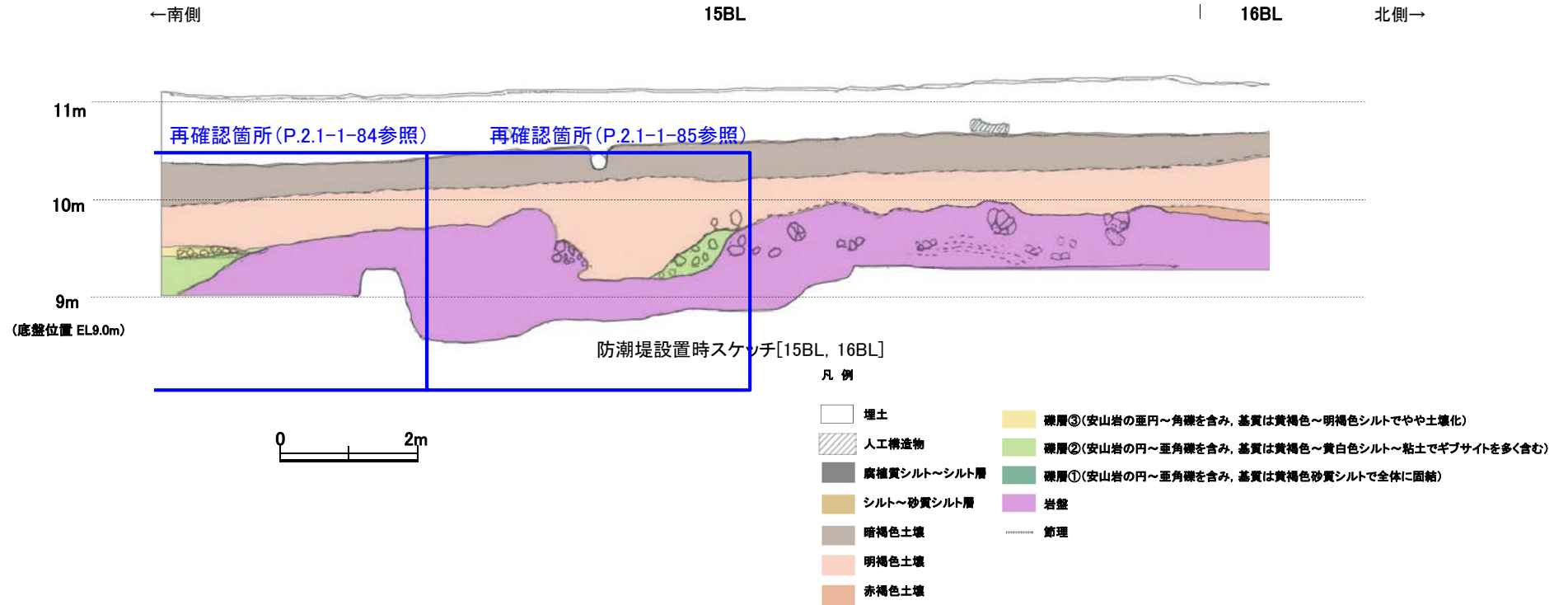
凡例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト~シルト層 | 礫層①(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト~砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



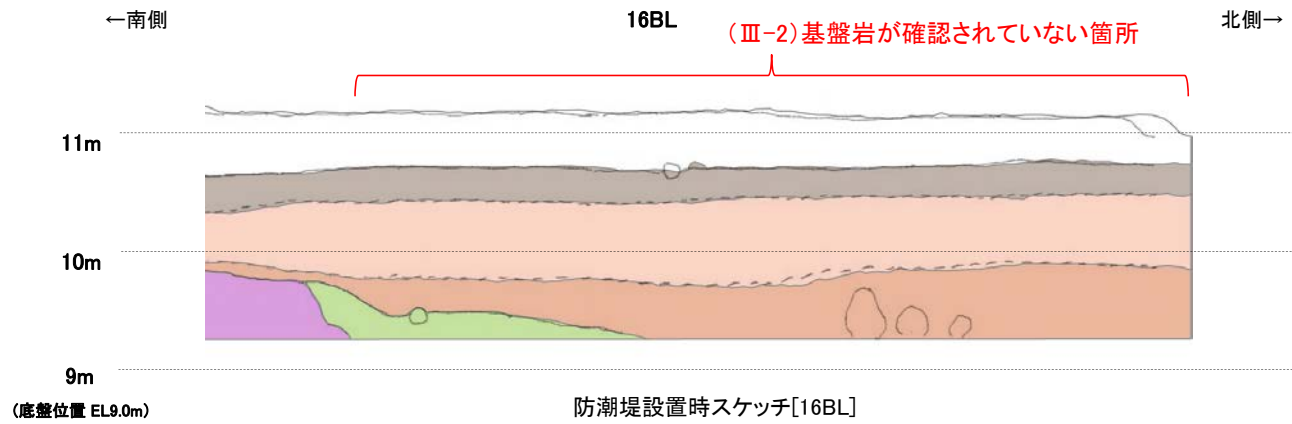
防潮堤設置時写真[13BL, 14BL]②

・防潮堤基礎[14BL]には、断層は認められない。



防潮堤設置時写真[15BL, 16BL]

・防潮堤基礎[15BL]には、断層は認められない。



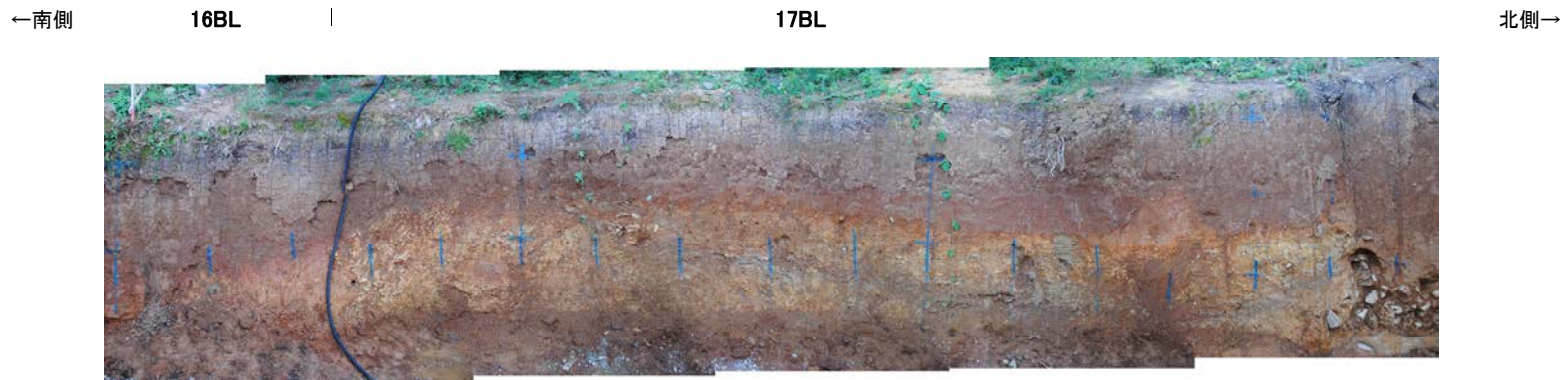
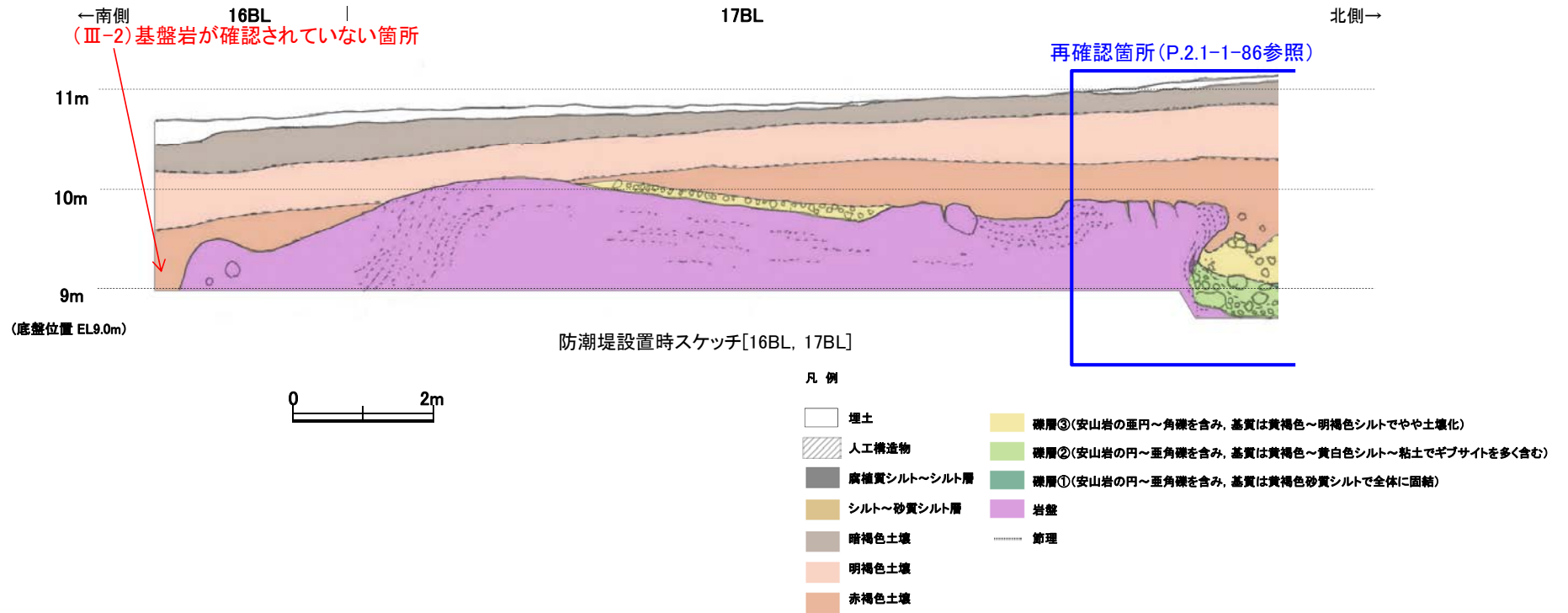
凡例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の垂円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円~垂角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト~シルト層 | 礫層①(安山岩の円~垂角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト~砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



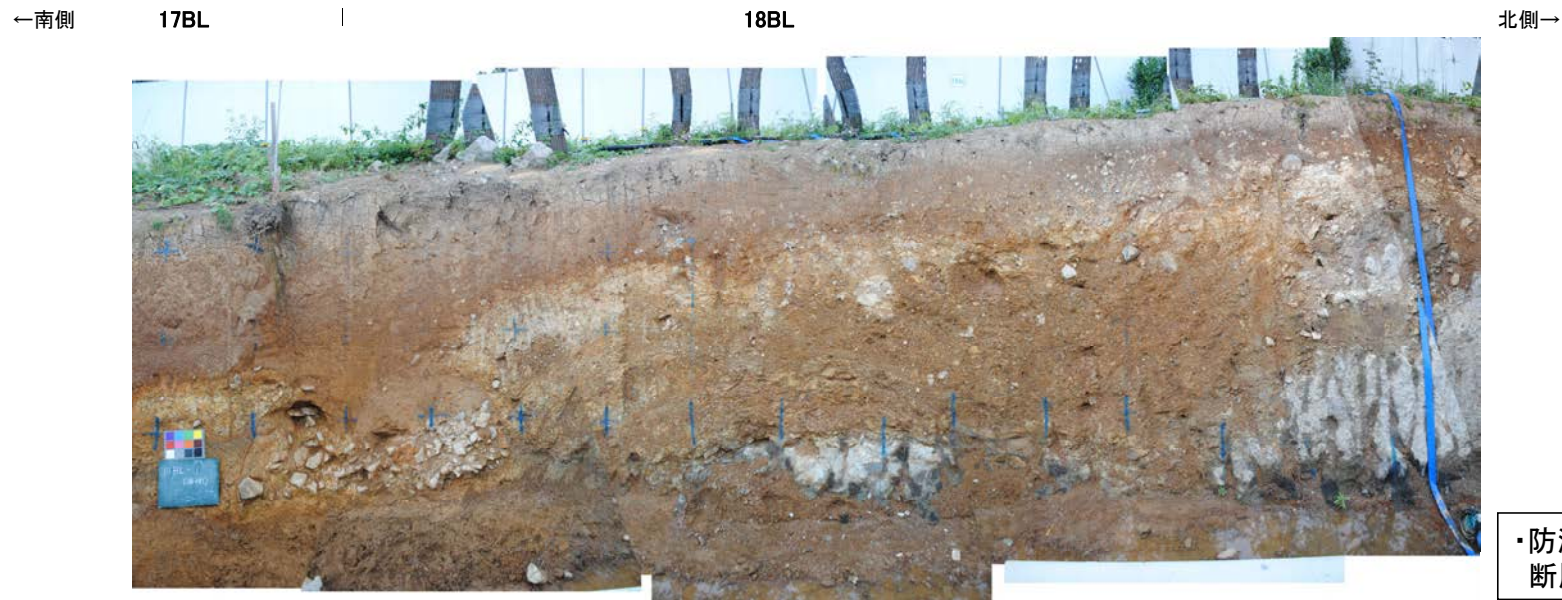
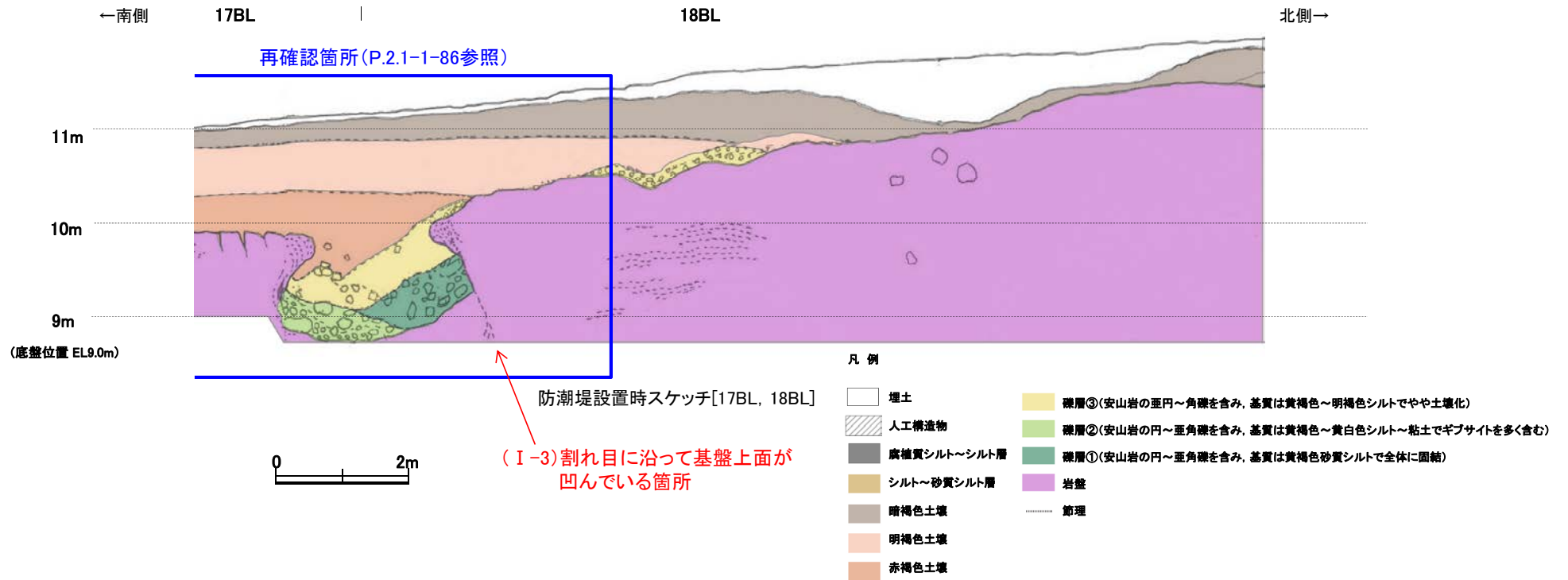
防潮堤設置時写真[16BL]

・防潮堤基礎[16BL]には、断層は認められない。



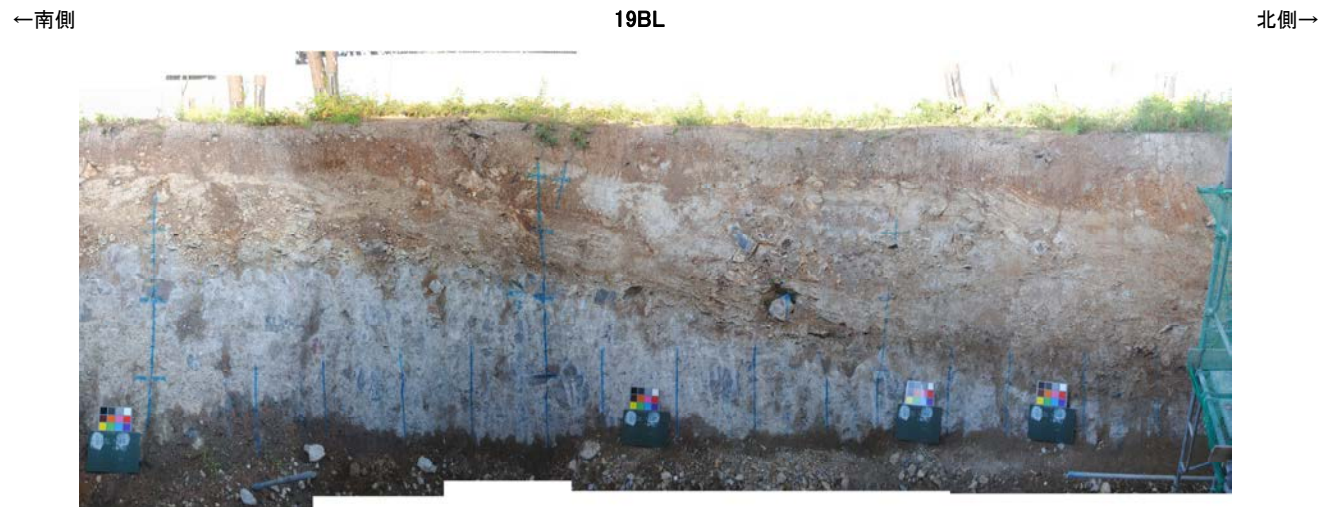
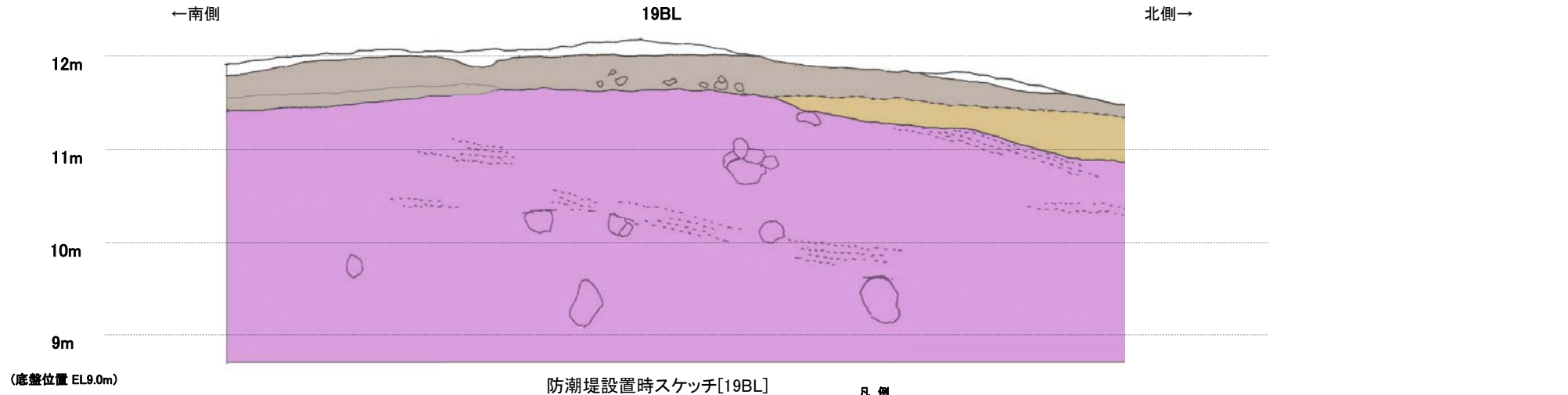
防潮堤設置時写真[16BL, 17BL]

・防潮堤基礎[17BL]には、断層は認められない。



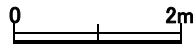
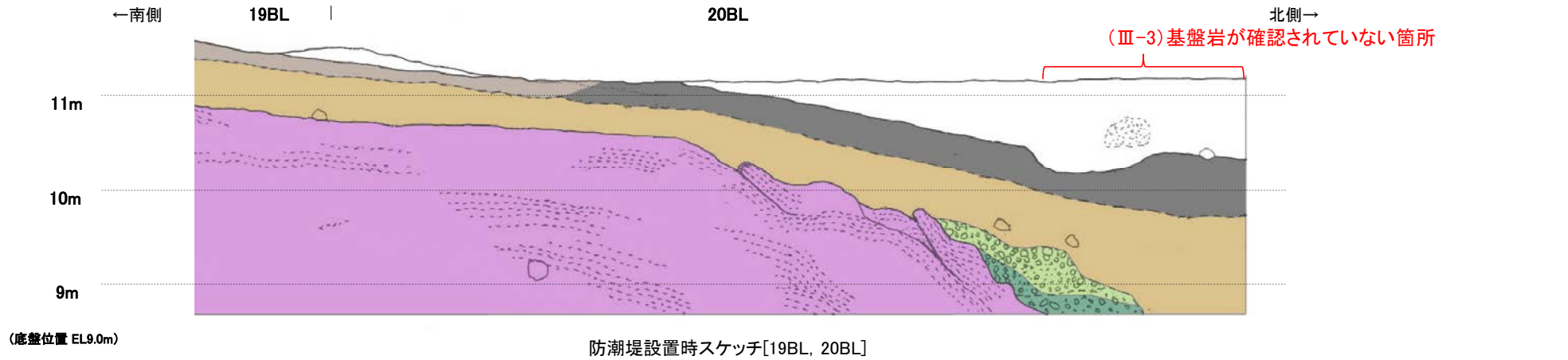
防潮堤設置時写真[17BL, 18BL]

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [19BL]



防潮堤設置時写真[19BL]

・防潮堤基礎[19BL]には、断層は認められない。



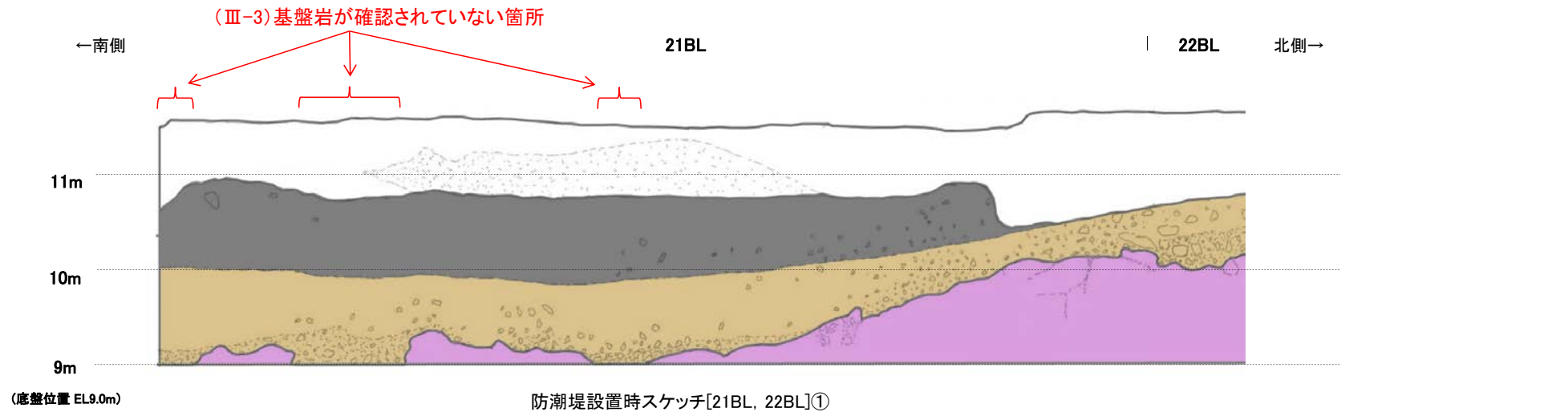
凡例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の垂円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円~垂角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト~シルト層 | 礫層①(安山岩の円~垂角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト~砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



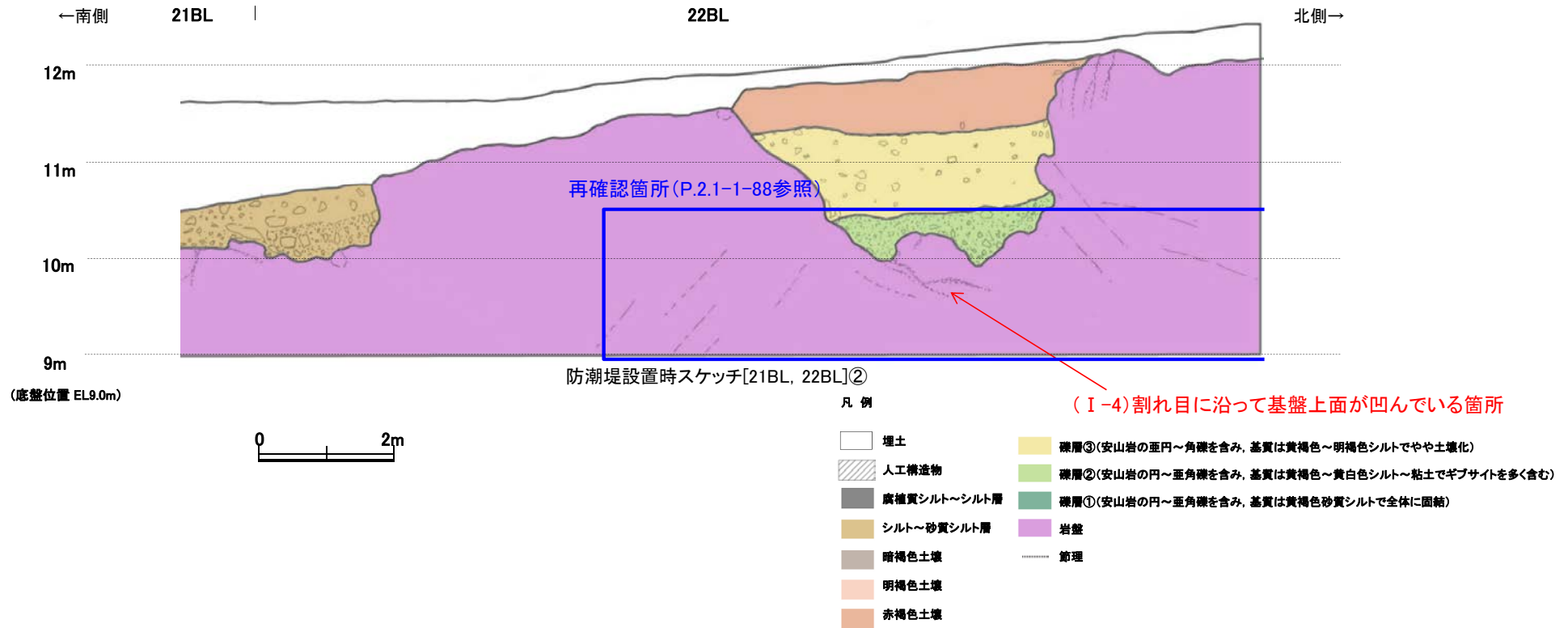
・防潮堤基礎[20BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [21BL, 22BL]①



防潮堤設置時写真[21BL, 22BL]①

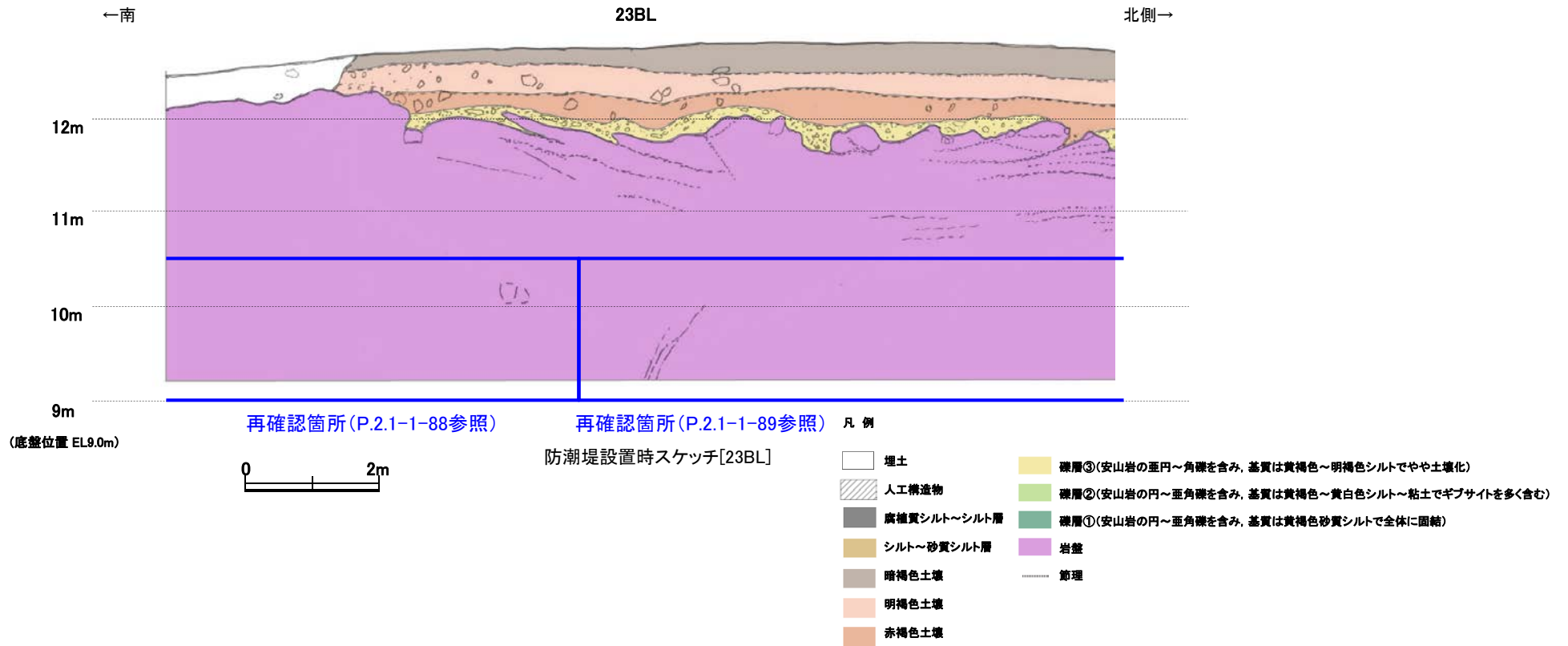
・防潮堤基礎[21BL]には、断層は認められない。



・防潮堤基礎[22BL]には、断層は認められない。

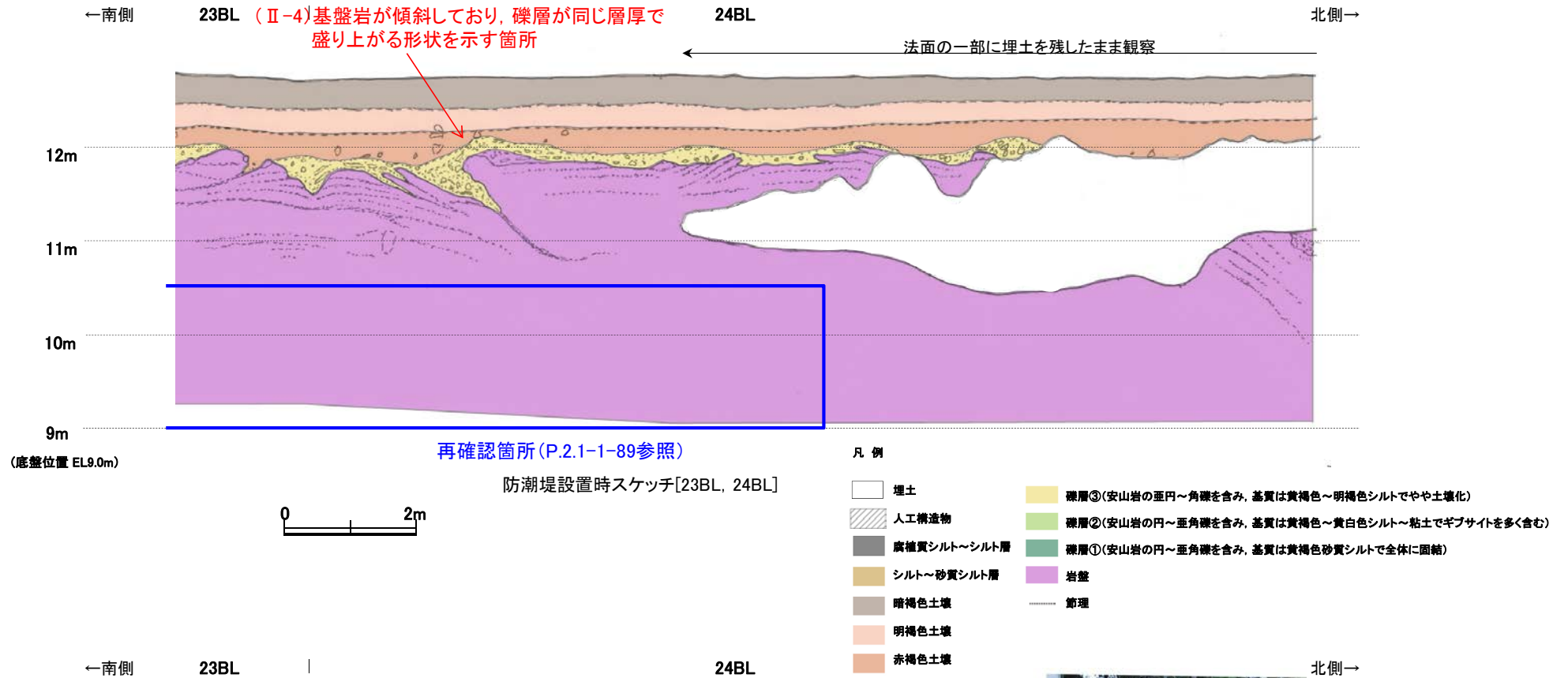
防潮堤設置時写真[21BL, 22BL]②

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [23BL]



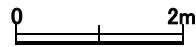
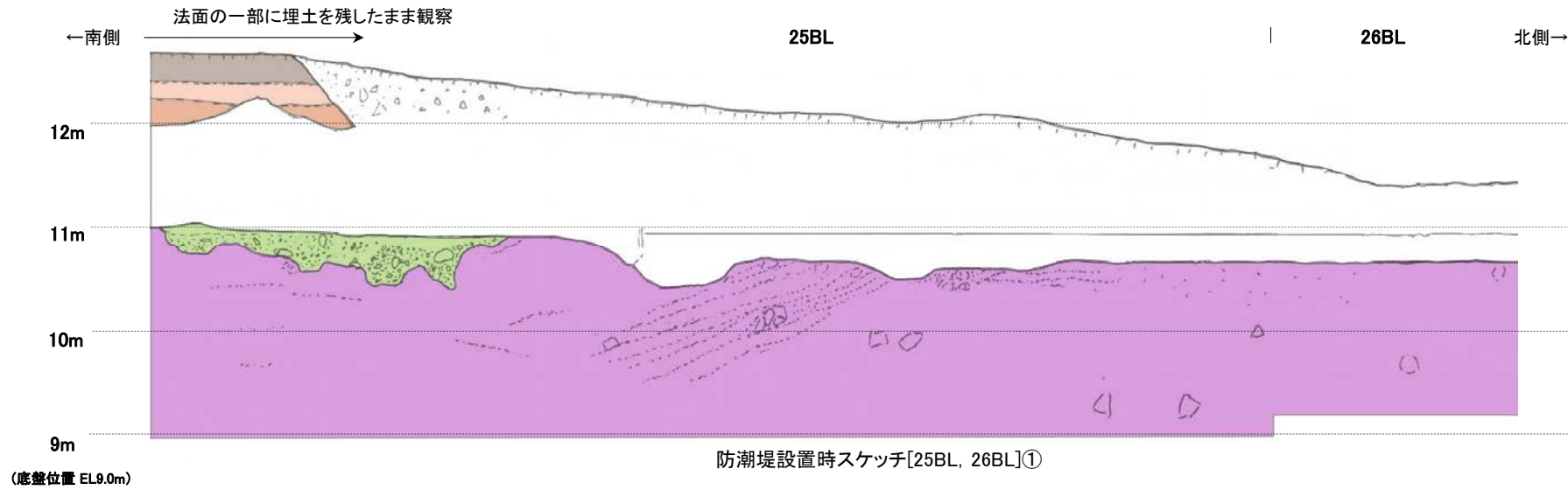
・防潮堤基礎[23BL]には、
断層は認められない。

防潮堤設置時写真[23BL]



・防潮堤基礎[24BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時) スケッチ・写真 [25BL, 26BL]①



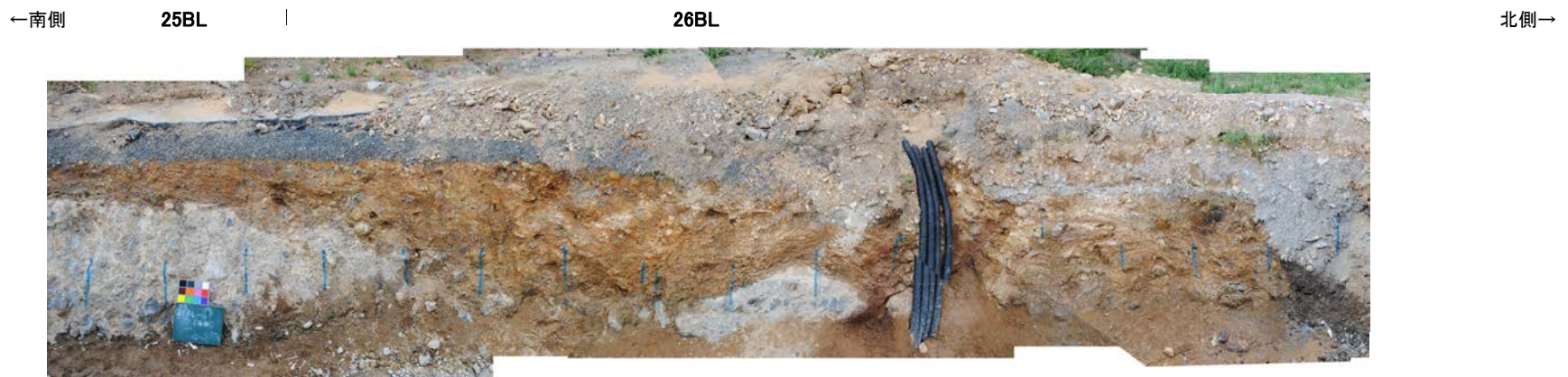
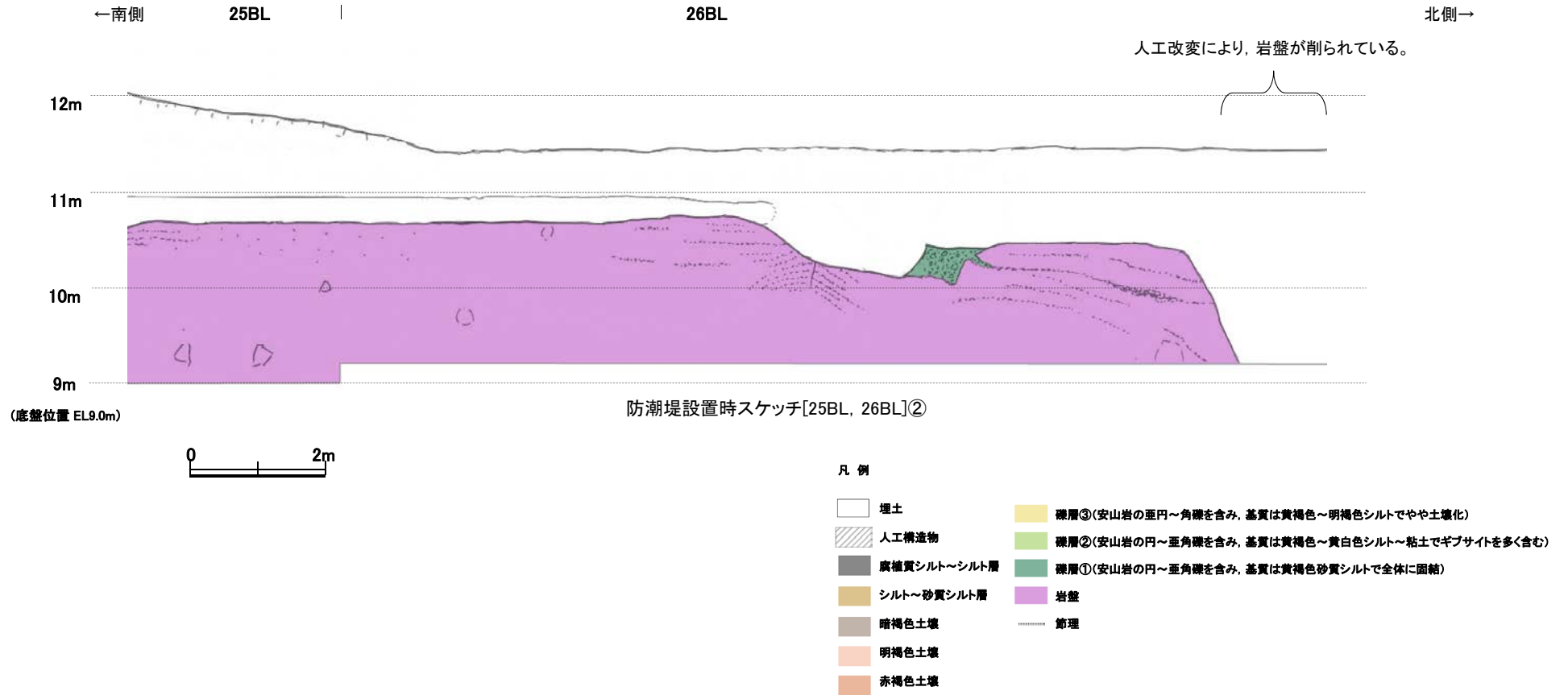
凡例

- | | |
|-------------|--|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円～角礫を含み, 基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み, 基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 廣植質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み, 基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



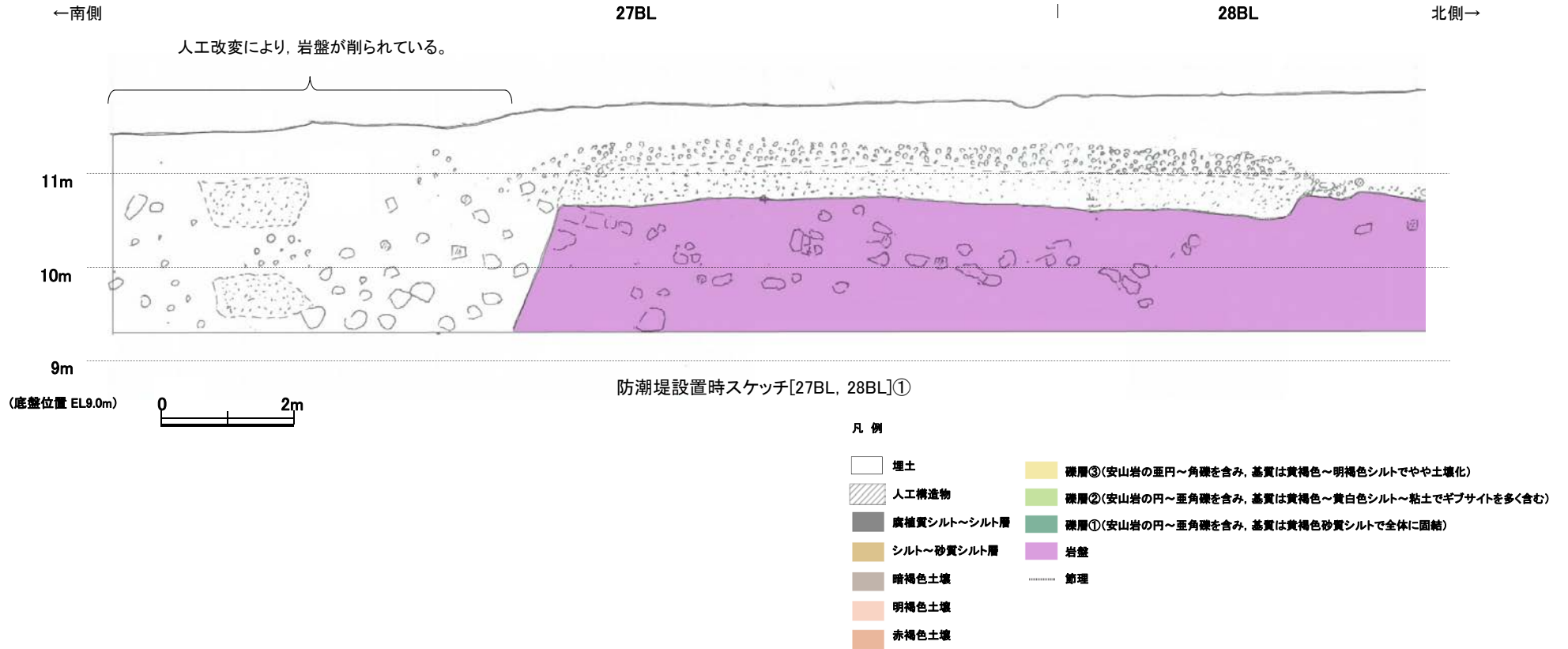
防潮堤設置時写真[25BL, 26BL]①

・防潮堤基礎[25BL]には、断層は認められない。



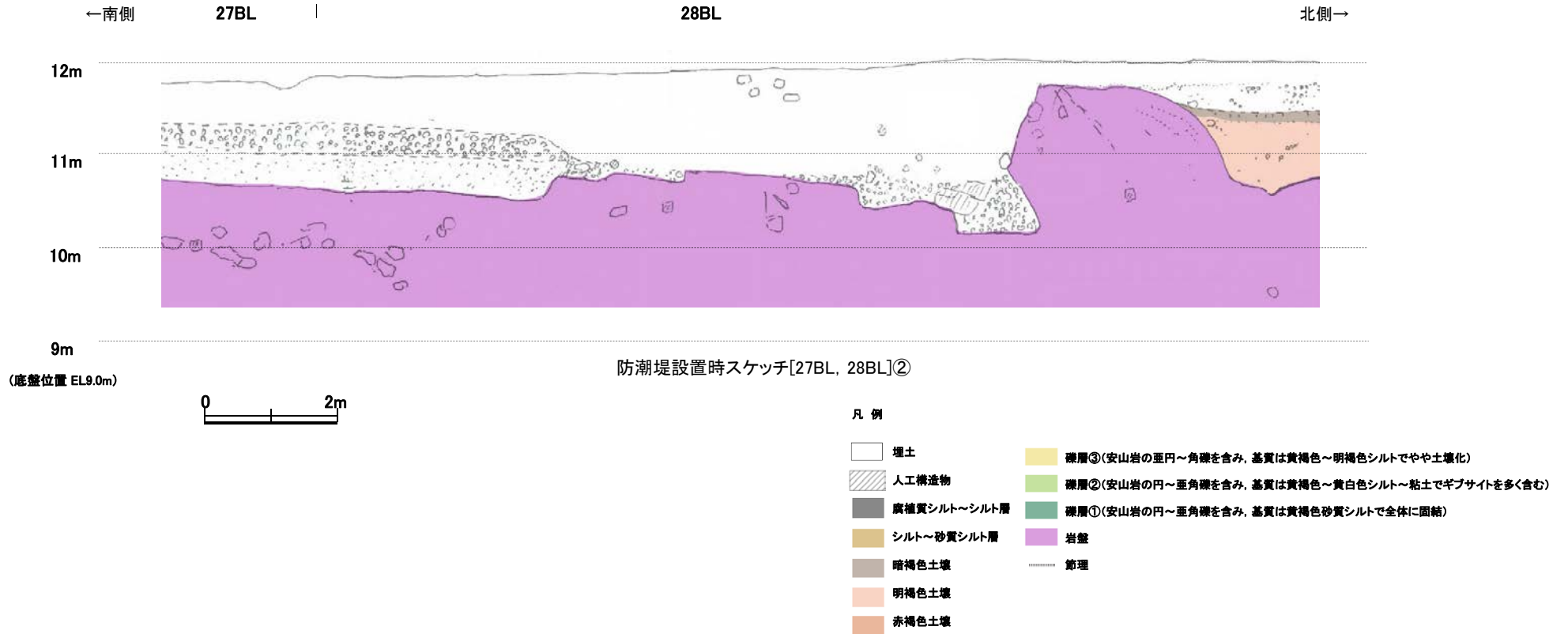
防潮堤設置時写真[25BL, 26BL]②

・防潮堤基礎[26BL]には、断層は認められない。



防潮堤設置時写真[27BL, 28BL]①

・防潮堤基礎[27BL]には、
断層は認められない。



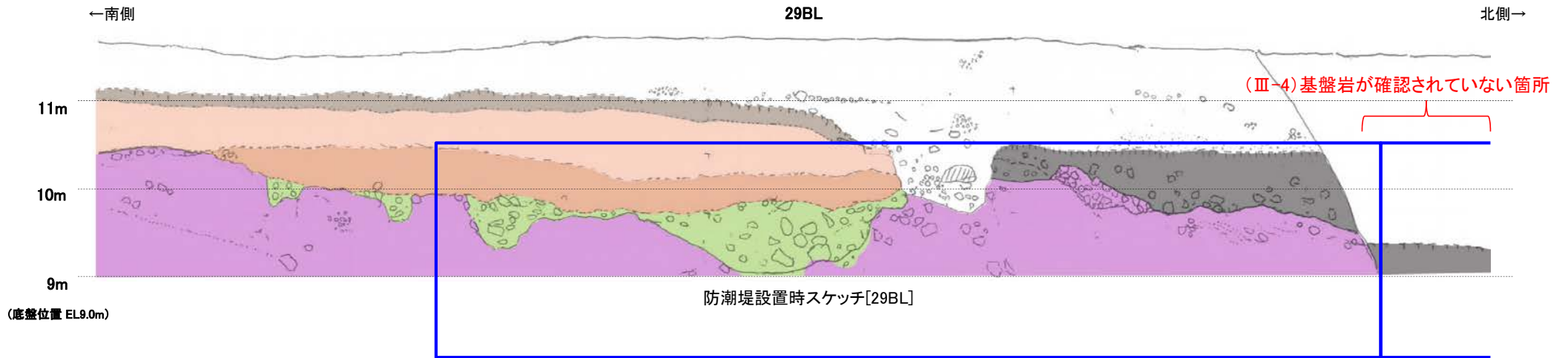
防潮堤設置時スケッチ[27BL, 28BL]②



防潮堤設置時写真[27BL, 28BL]②

・防潮堤基礎[28BL]には、
断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [29BL]



再確認箇所 (P.2.1-1-91参照)

再確認箇所 (P.2.1-1-92参照)



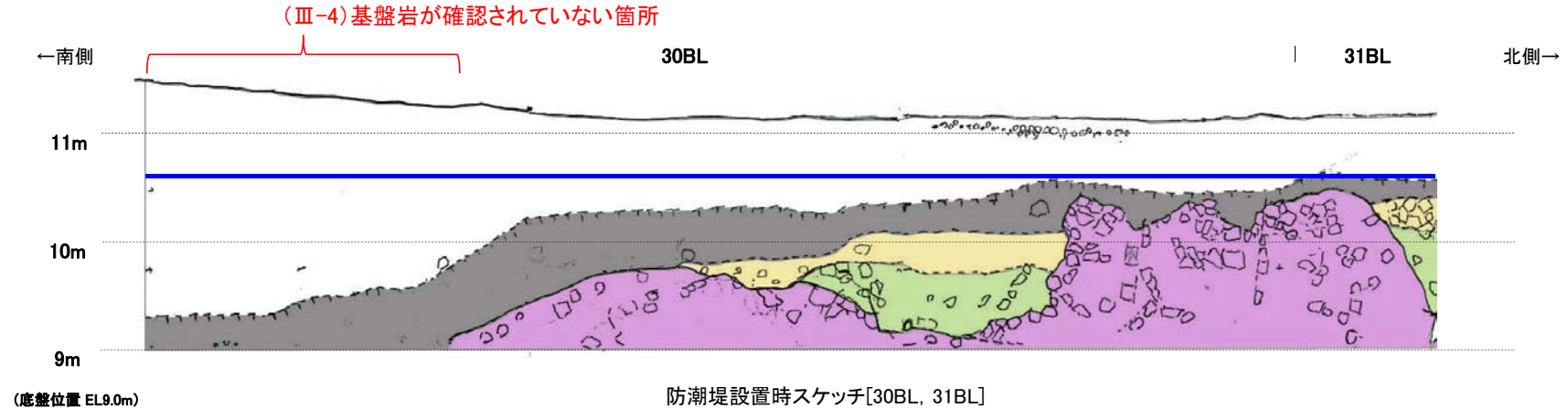
凡例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 廣植質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



防潮堤設置時写真[29BL]

・防潮堤基礎[29BL]には、断層は認められない。



凡例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |

再確認箇所(P.2.1-1-92参照)

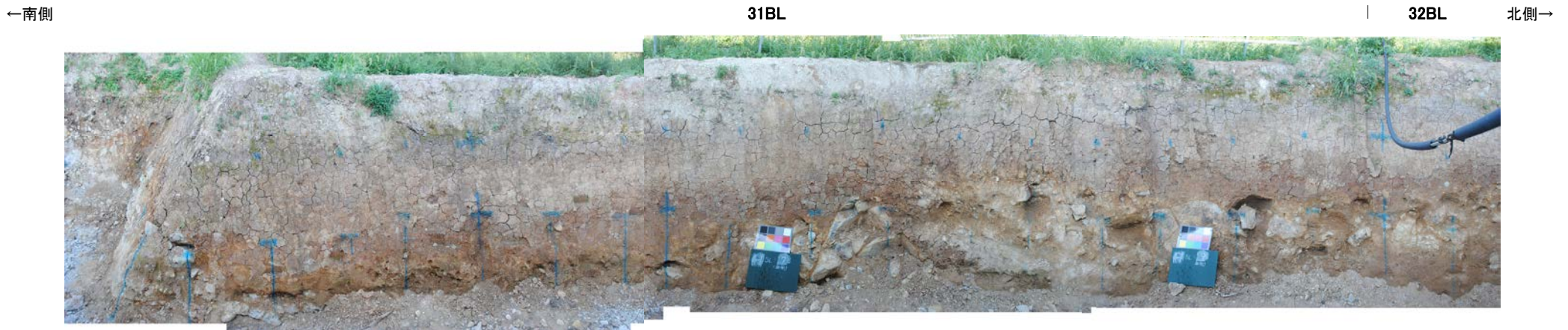
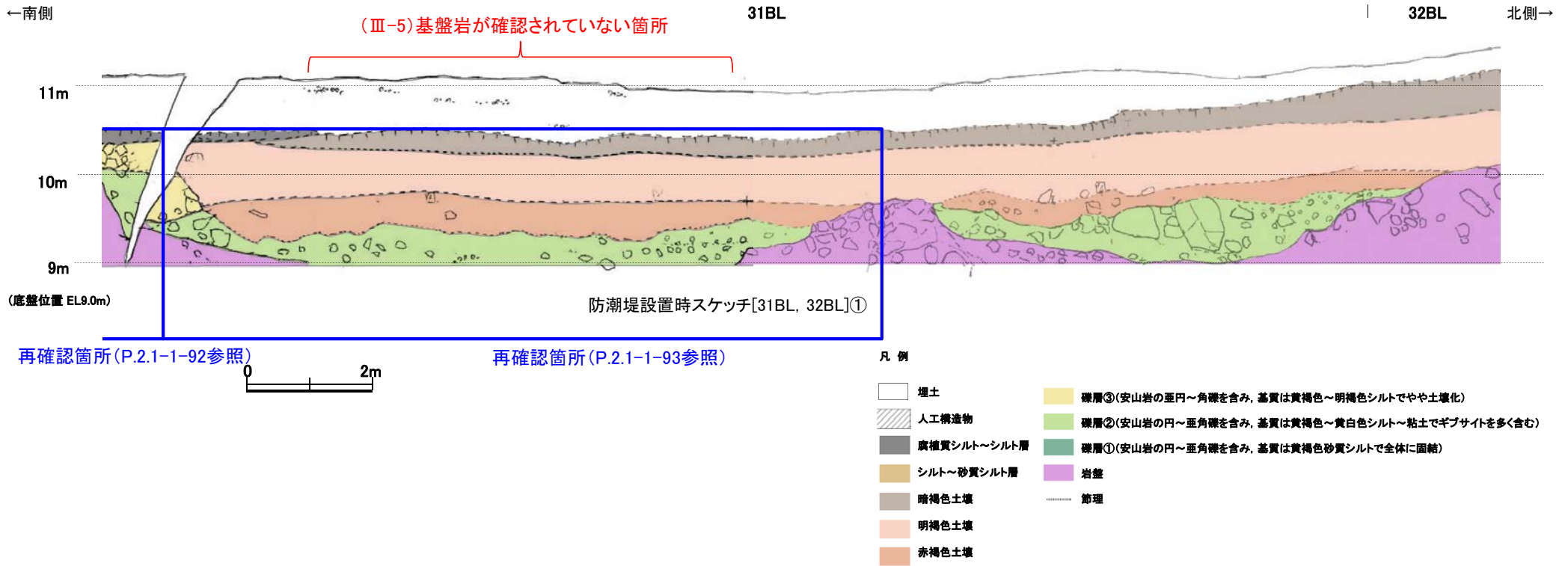
←南側 30BL | 31BL 北側→



防潮堤設置時写真[30BL, 31BL]

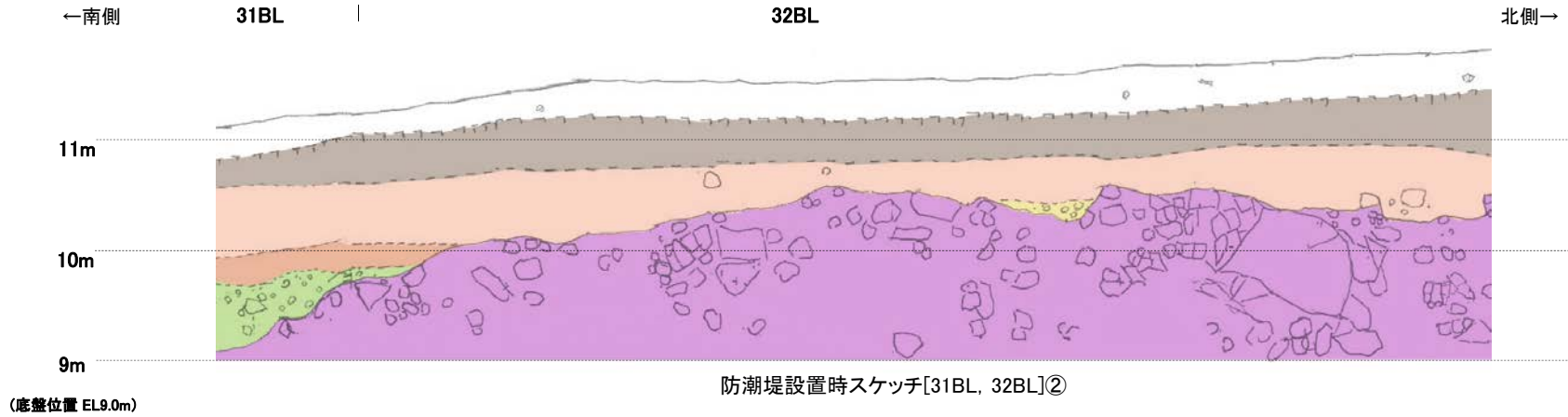
・防潮堤基礎[30BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時) スケッチ・写真 [31BL, 32BL]①



防潮堤設置時写真[31BL, 32BL]①

・防潮堤基礎[31BL]には、断層は認められない。

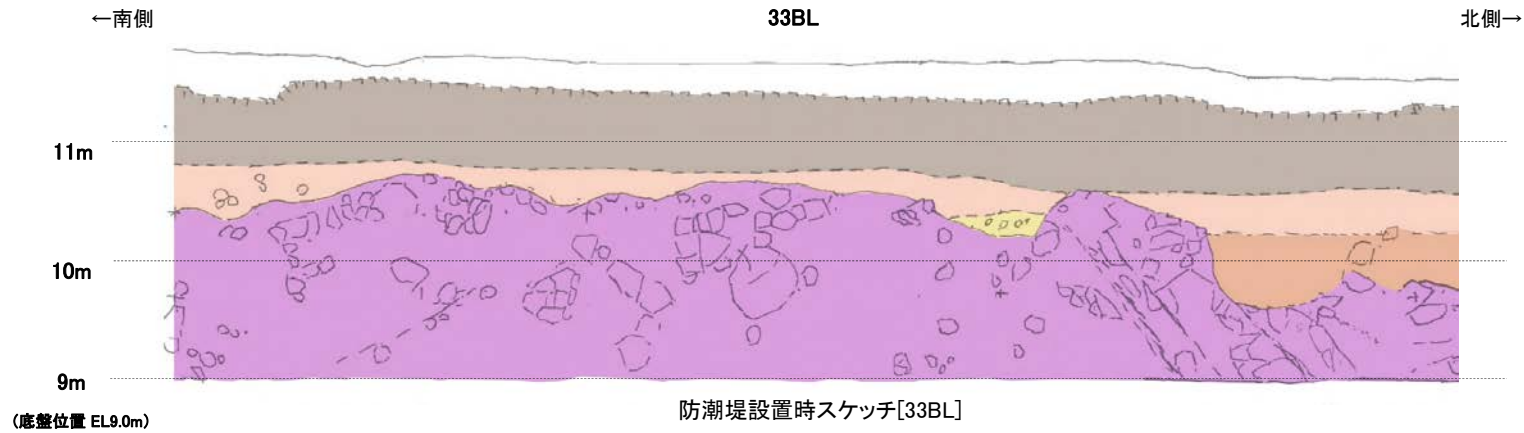


凡例

- | | | | |
|--|-------------|--|---|
| | 埋土 | | 礫層③(安山岩の亜円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| | 人工構造物 | | 礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| | 腐植質シルト～シルト層 | | 礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| | シルト～砂質シルト層 | | 岩盤 |
| | 暗褐色土壌 | | 節理 |
| | 明褐色土壌 | | |
| | 赤褐色土壌 | | |



・防潮堤基礎[32BL]には、断層は認められない。



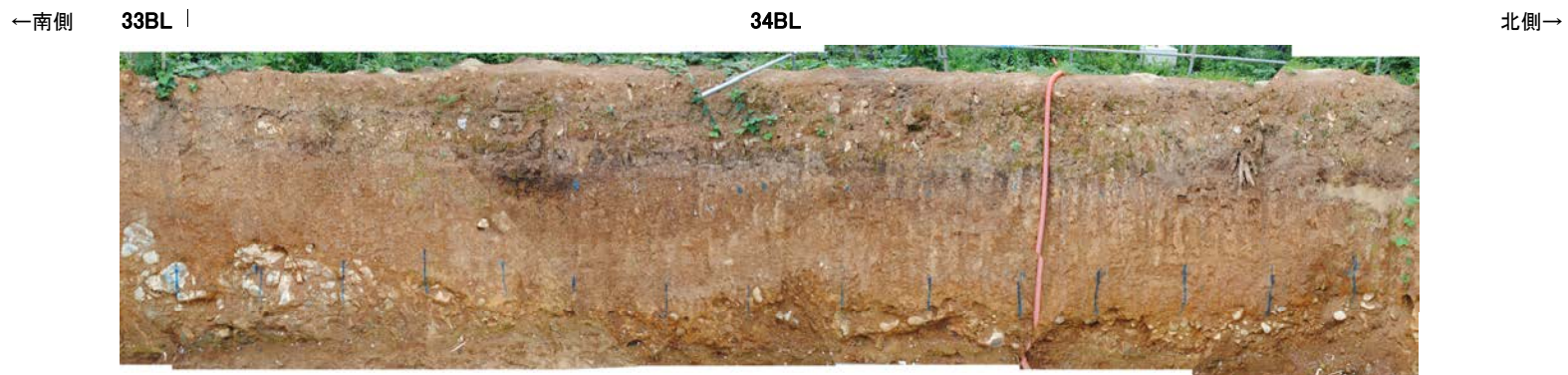
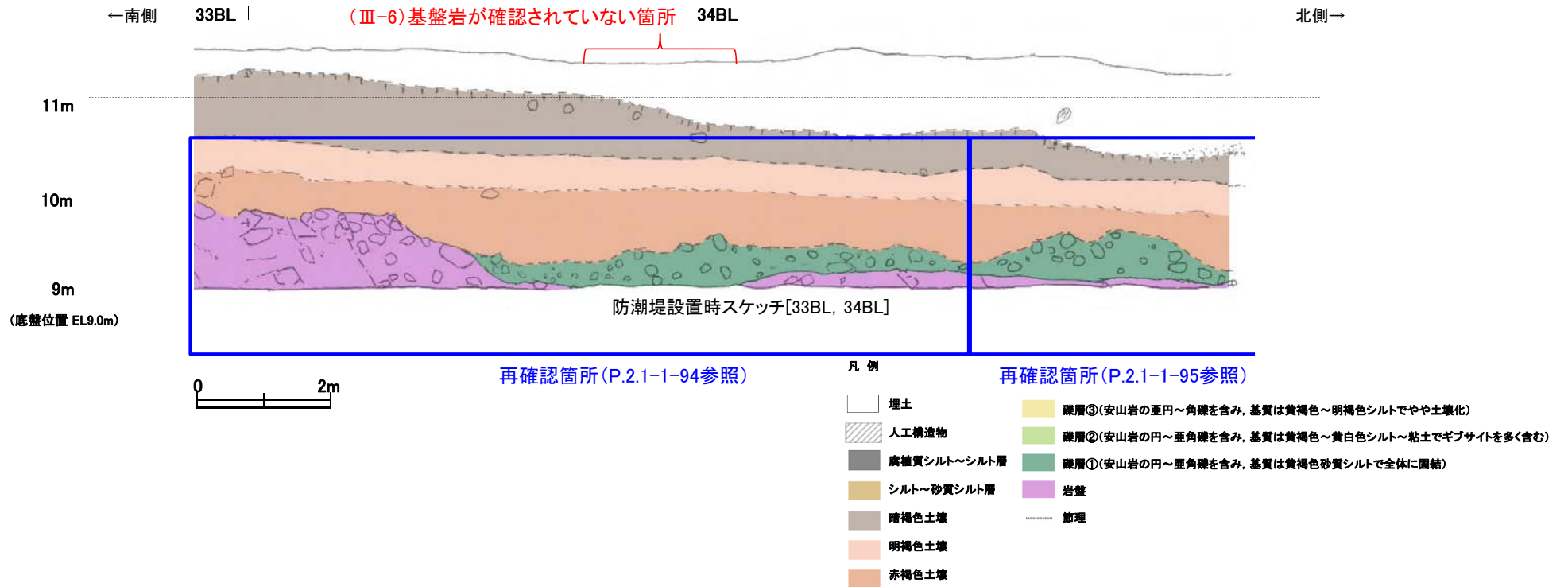
凡例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の垂円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| 廣雑質シルト～シルト層 | 礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト～砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



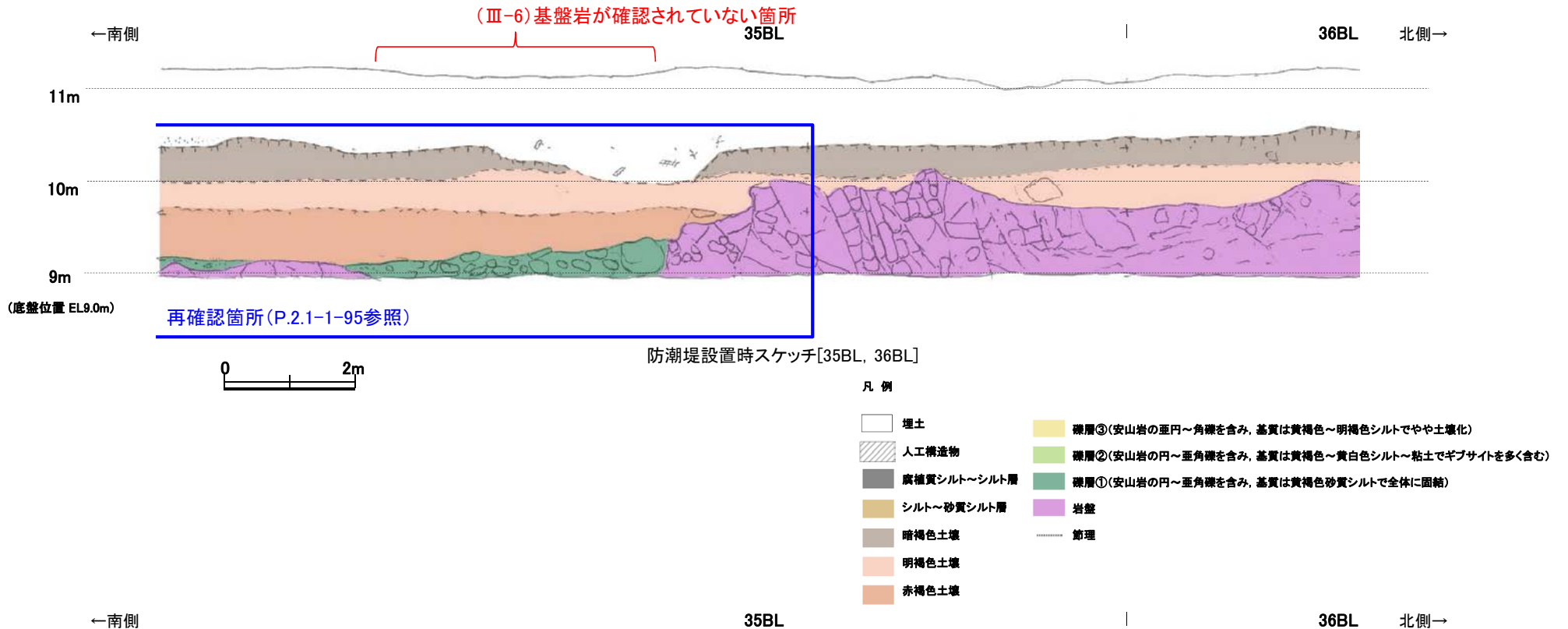
防潮堤設置時写真[33BL]

・防潮堤基礎[33BL]には、断層は認められない。



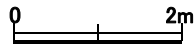
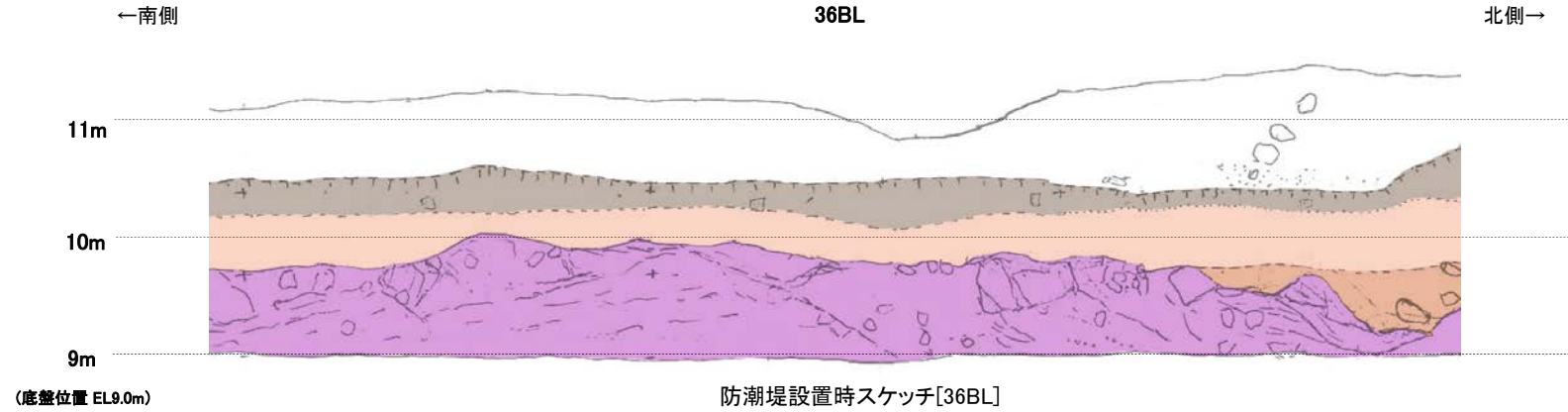
防潮堤設置時写真[33BL, 34BL]

・防潮堤基礎[34BL]には、断層は認められない。



防潮堤設置時写真[35BL, 36BL]

・防潮堤基礎[35BL]には、断層は認められない。



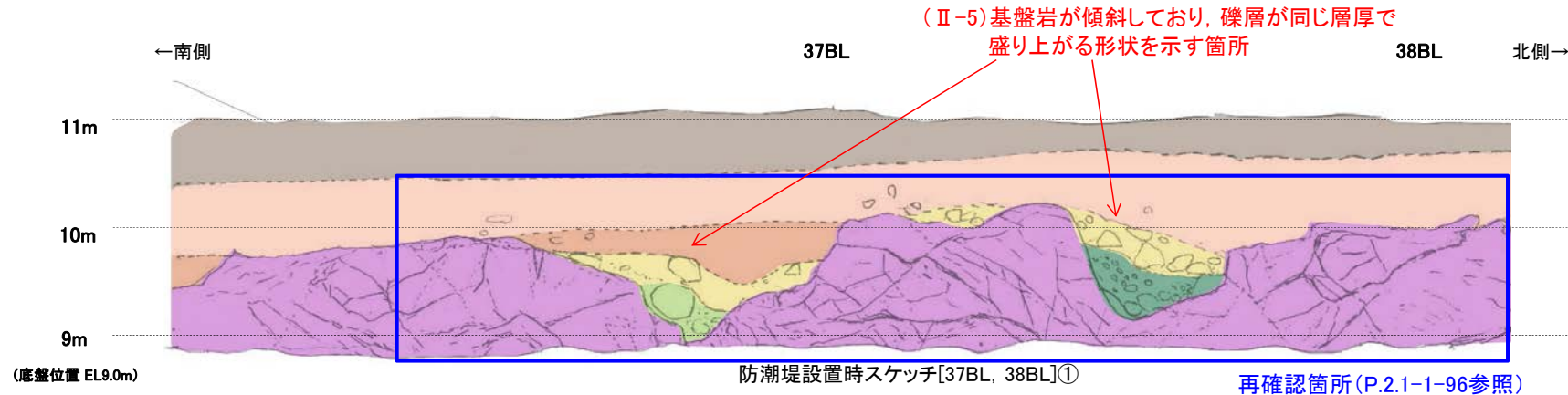
凡例

- | | |
|-------------|--|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み, 基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円~歪角礫を含み, 基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト~シルト層 | 礫層①(安山岩の円~歪角礫を含み, 基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト~砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



防潮堤設置時写真[36BL]

・防潮堤基礎[36BL]には、断層は認められない。



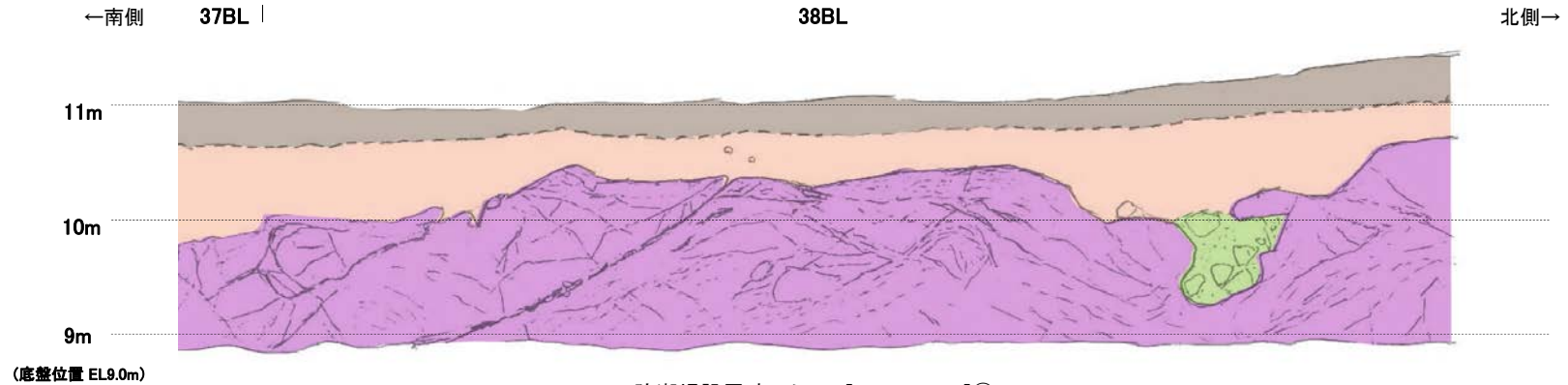
凡例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト~シルト層 | 礫層①(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト~砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |



防潮堤設置時写真[37BL, 38BL]①

・防潮堤基礎[37BL]には、断層は認められない。



防潮堤設置時スケッチ[37BL, 38BL]②



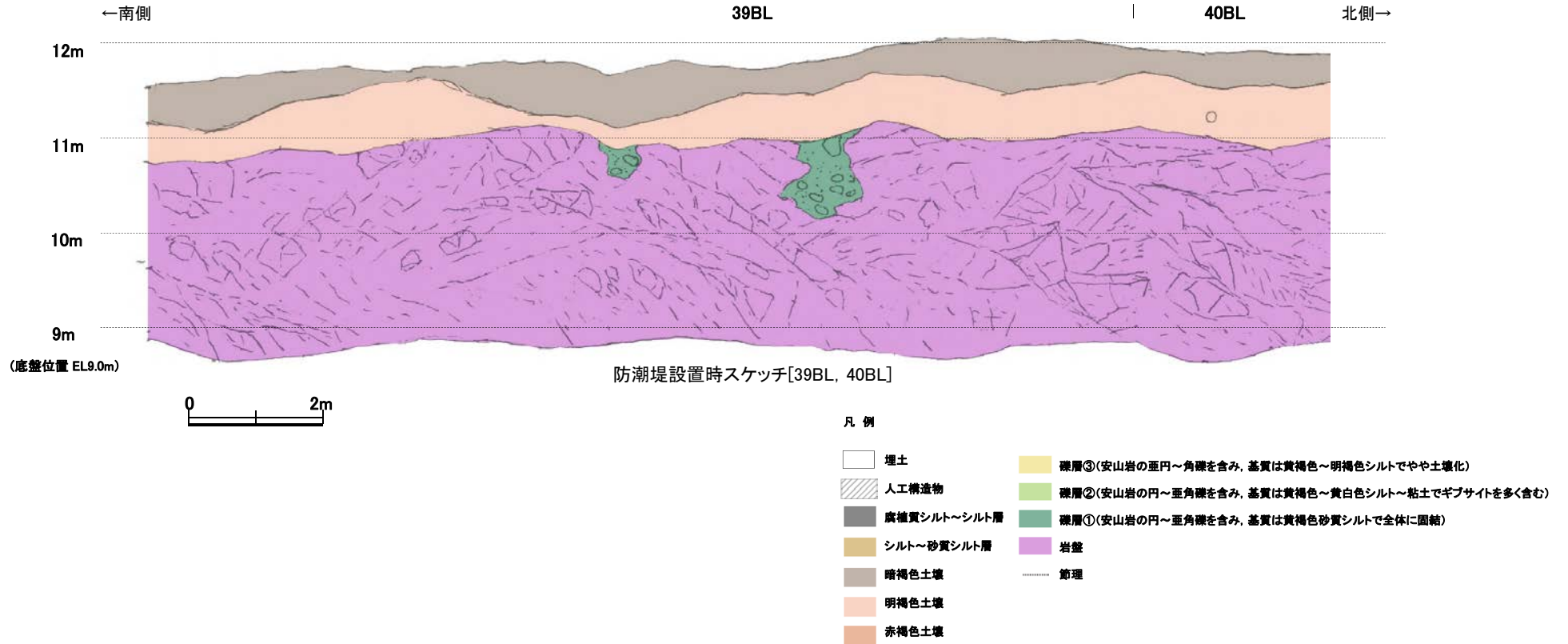
凡例

- | | | | |
|--|-------------|--|---|
| | 埋土 | | 礫層③(安山岩の亜円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化) |
| | 人工構造物 | | 礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む) |
| | 腐植質シルト～シルト層 | | 礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| | シルト～砂質シルト層 | | 岩盤 |
| | 暗褐色土壌 | | 節理 |
| | 明褐色土壌 | | |
| | 赤褐色土壌 | | |



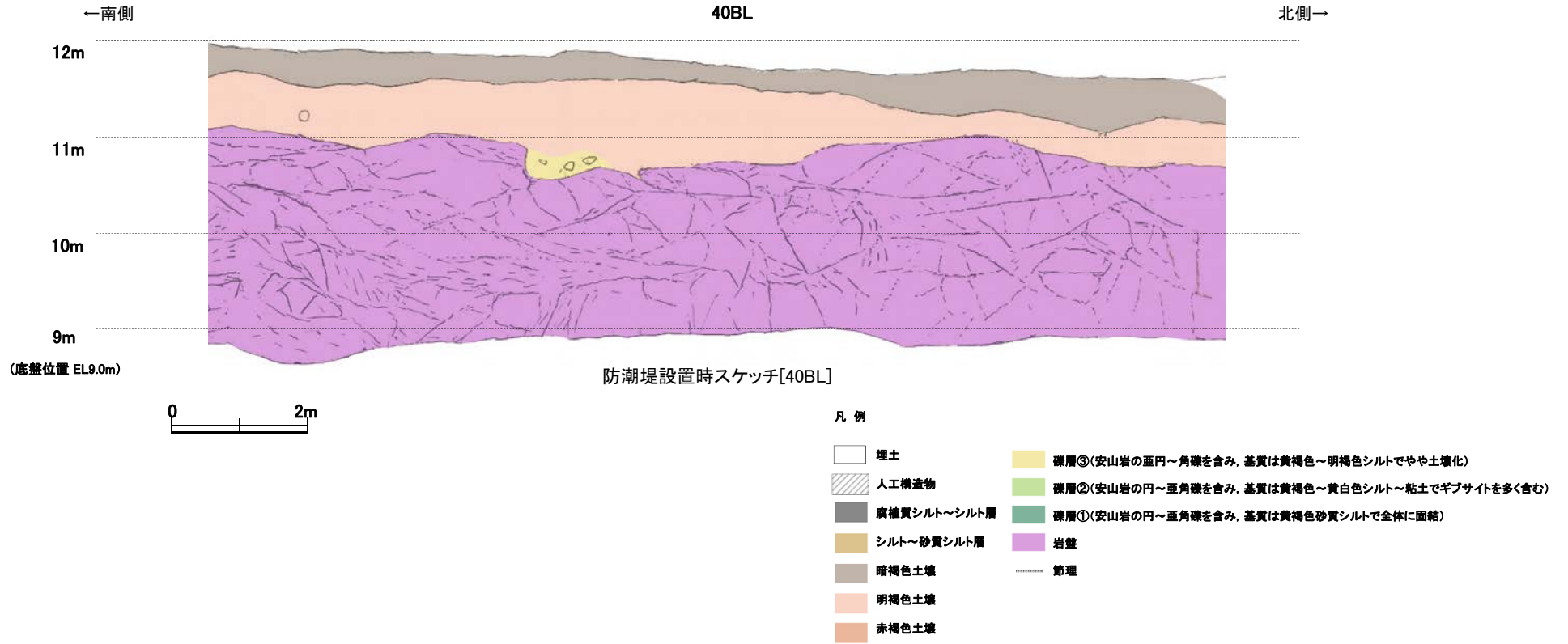
防潮堤設置時写真[37BL, 38BL]②

・防潮堤基礎[38BL]には、断層は認められない。

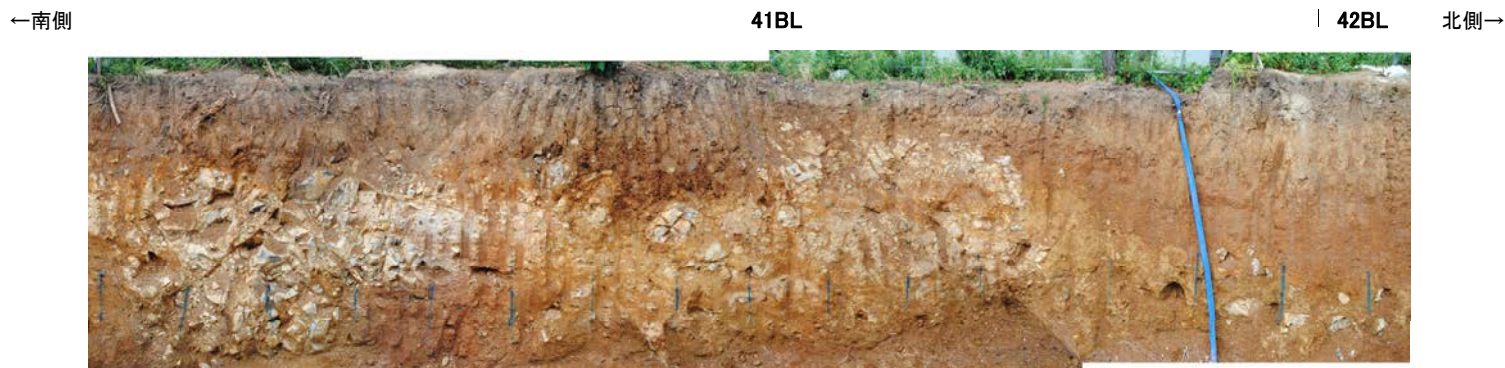
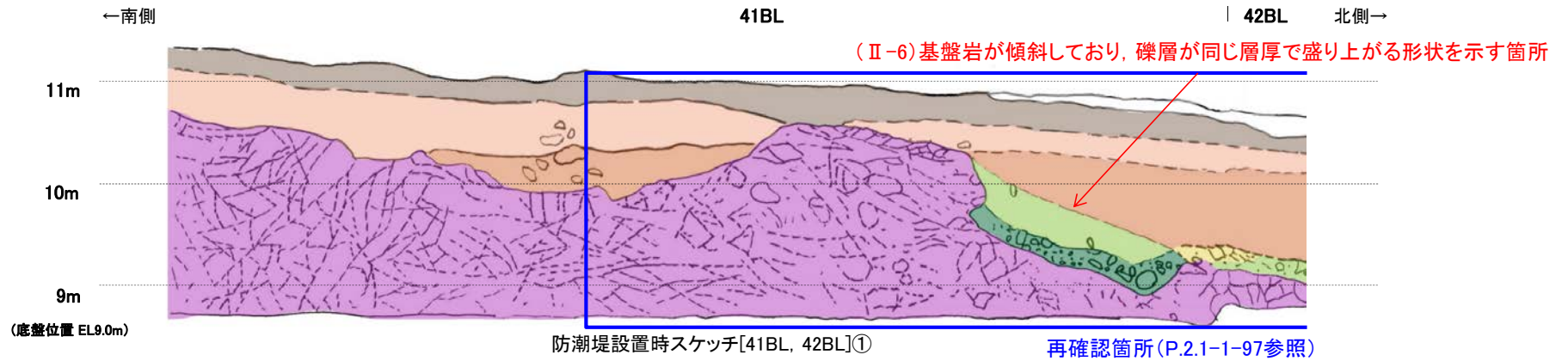


・防潮堤基礎[39BL]には、断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面（防潮堤設置時） スケッチ・写真 [40BL]

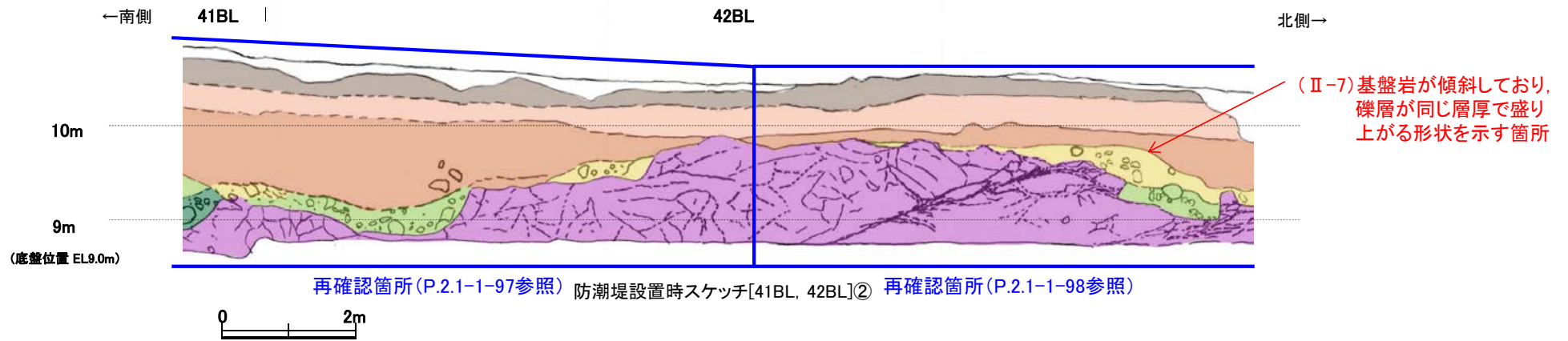


・防潮堤基礎[40BL]には、断層は認められない。



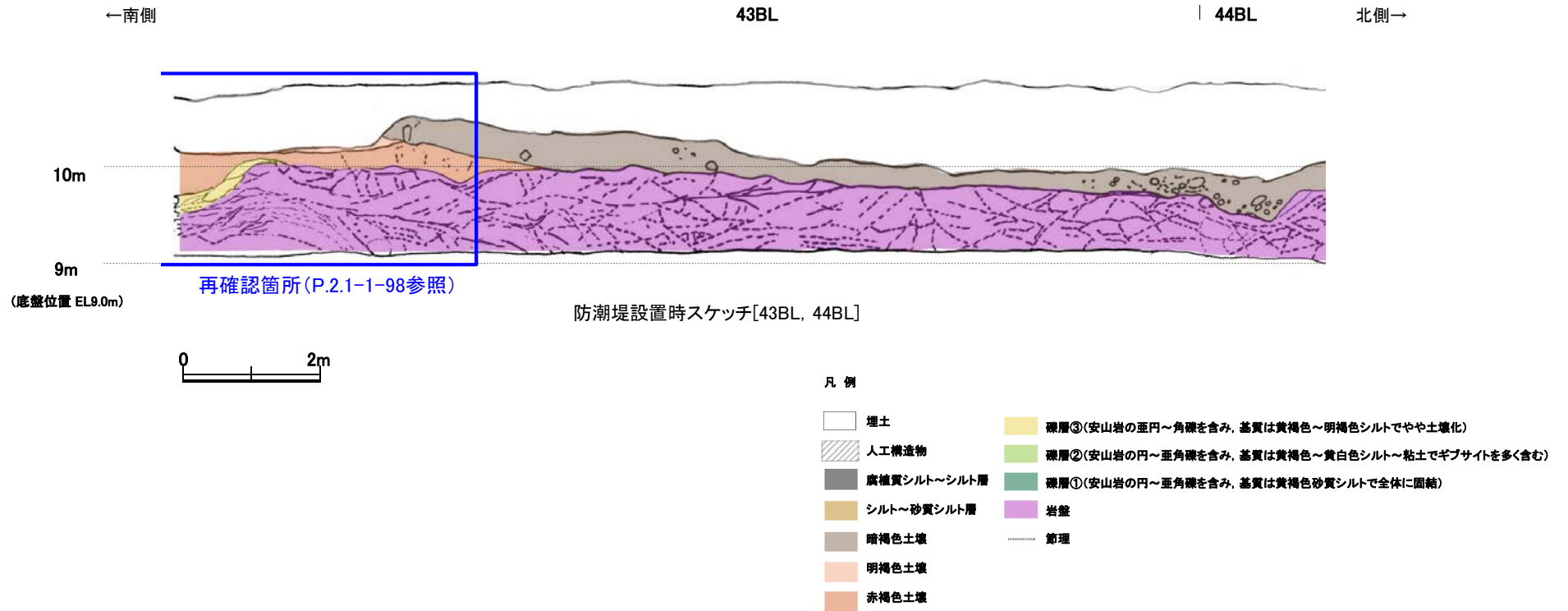
防潮堤設置時写真[41BL, 42BL]①

・防潮堤基礎[41BL]には、断層は認められない。



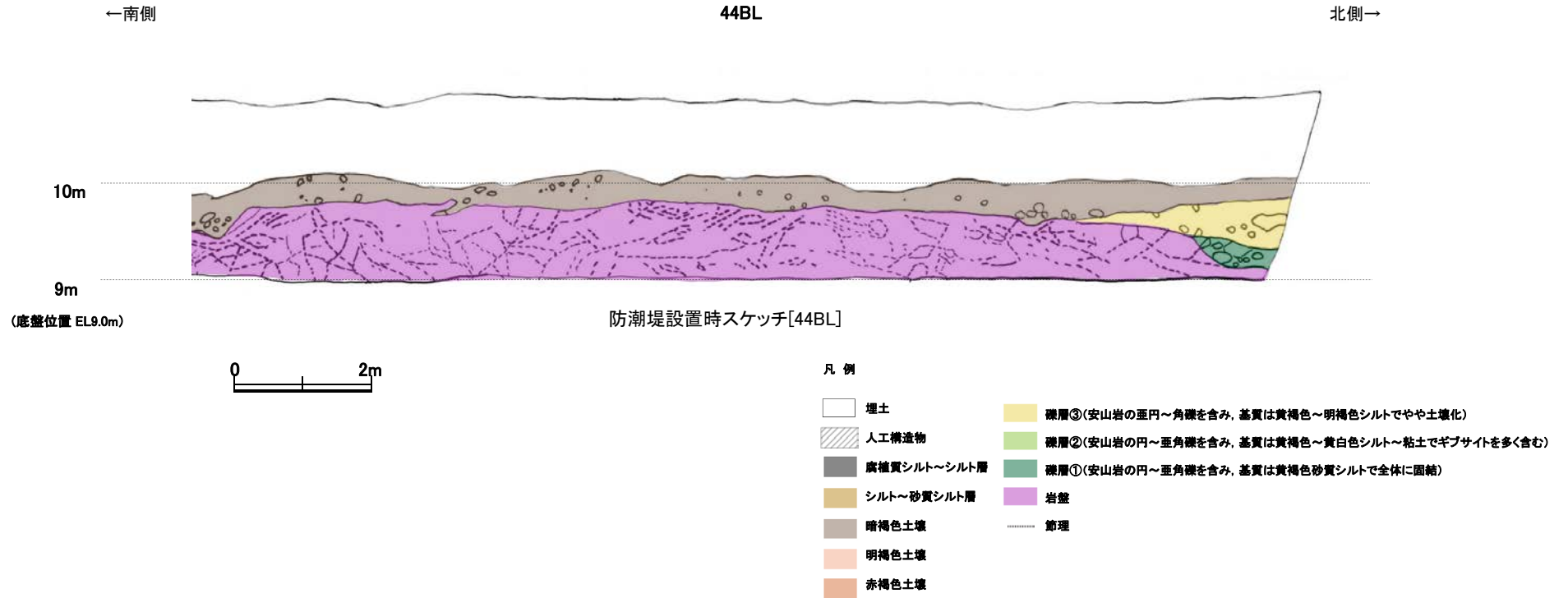
防潮堤設置時写真[41BL, 42BL]②

・防潮堤基礎[42BL]には, 断層は認められない。



防潮堤設置時写真[43BL, 44BL]

・防潮堤基礎[43BL]には、断層は認められない。



防潮堤設置時写真[44BL]

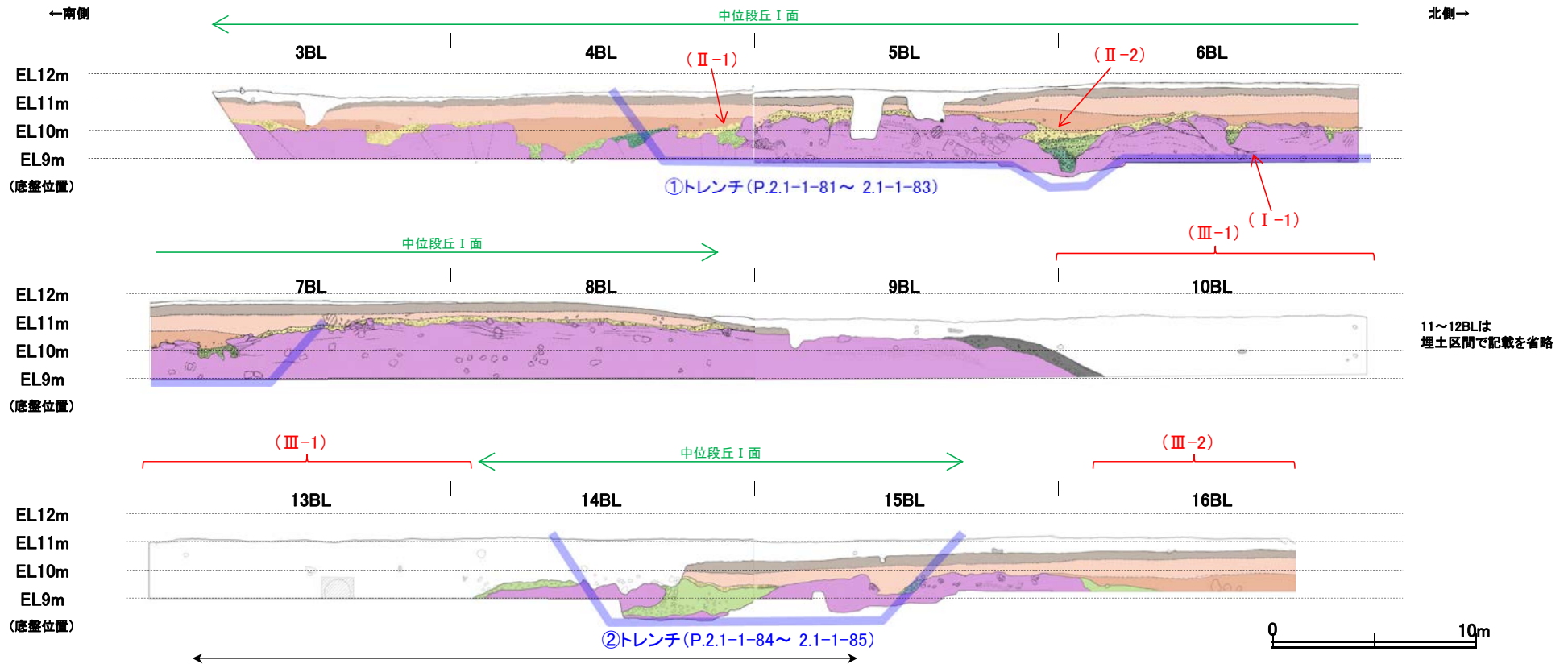
・防潮堤基礎[44BL]には、
断層は認められない。

(4) -2 トレンチ(①～⑧)再掘削調査

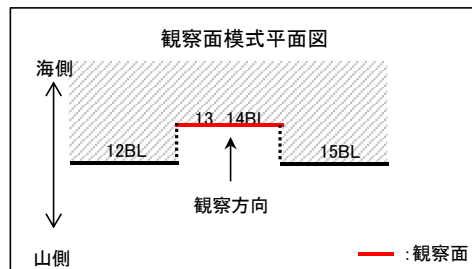
防潮堤基礎掘削法面 全体スケッチ①[3BL~16BL]

■コメント箇所(Ⅰ)~(Ⅲ)に該当する箇所について、再掘削調査(トレンチ調査)及び周辺地質からの検討を行い、断層の有無について評価を行った。

防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時)スケッチ [3BL~16BL]



13, 14BL周辺はその他のBLより海側の面を観察



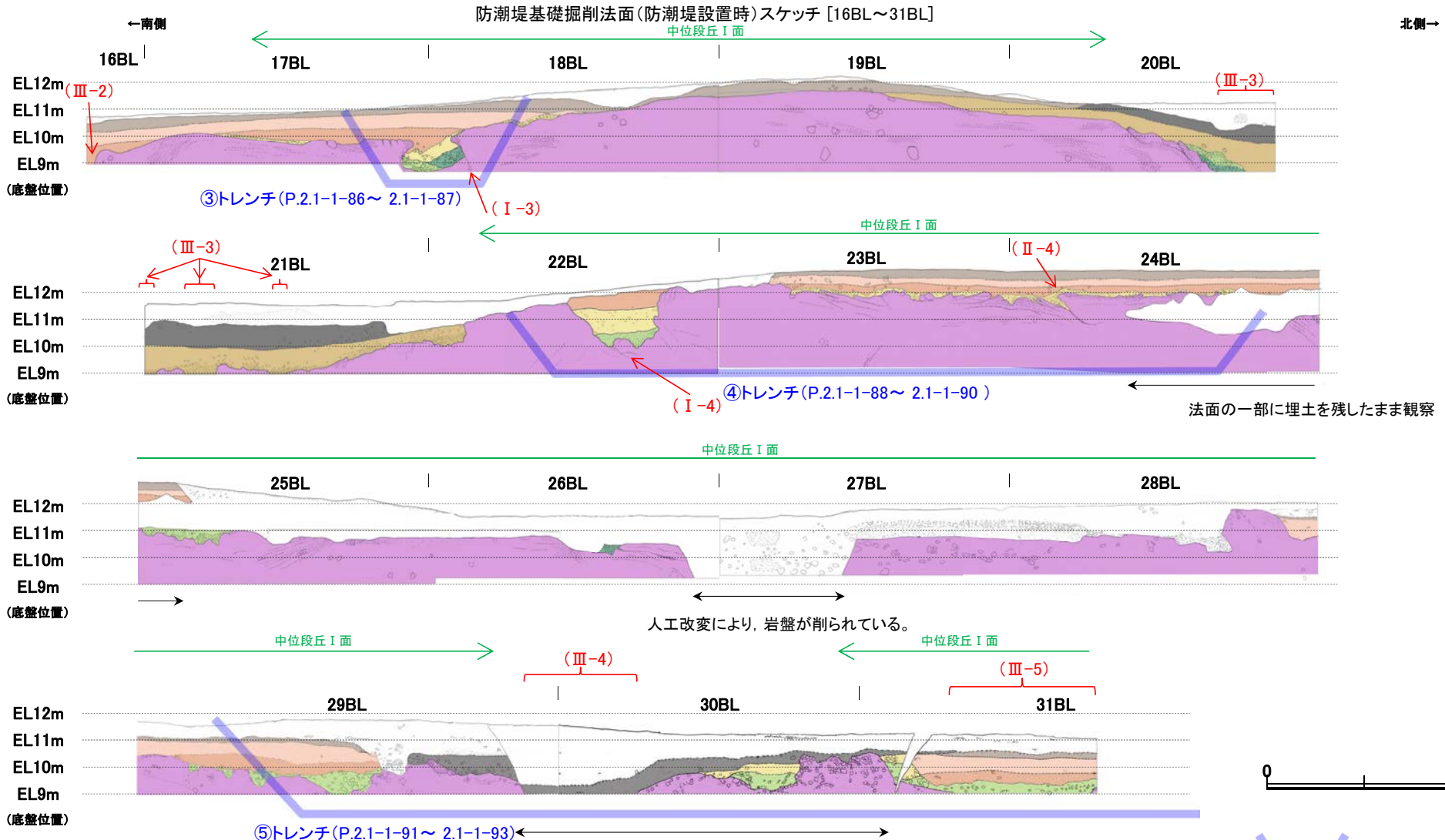
凡例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む) |
| 腐植質シルト~シルト層 | 礫層①(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト~砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |

下記コメント(Ⅰ)~(Ⅲ)に該当する箇所

- (Ⅰ) 割れ目に沿って基盤上面が凹んでいる箇所
- (Ⅱ) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所
- (Ⅲ) 基盤岩が確認されていない箇所

防潮堤基礎掘削法面 全体スケッチ②[16BL~31BL]

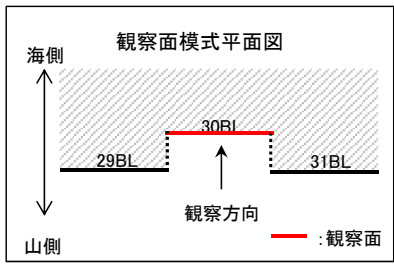


人工改変により、岩盤が削られている。



- 下記コメント(I)~(III)に該当する箇所
- (I) 割れ目に沿って基盤上面が凹んでいる箇所
 - (II) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所
 - (III) 基盤岩が確認されていない箇所

30BL周辺はその他のBLより海側の面を観察

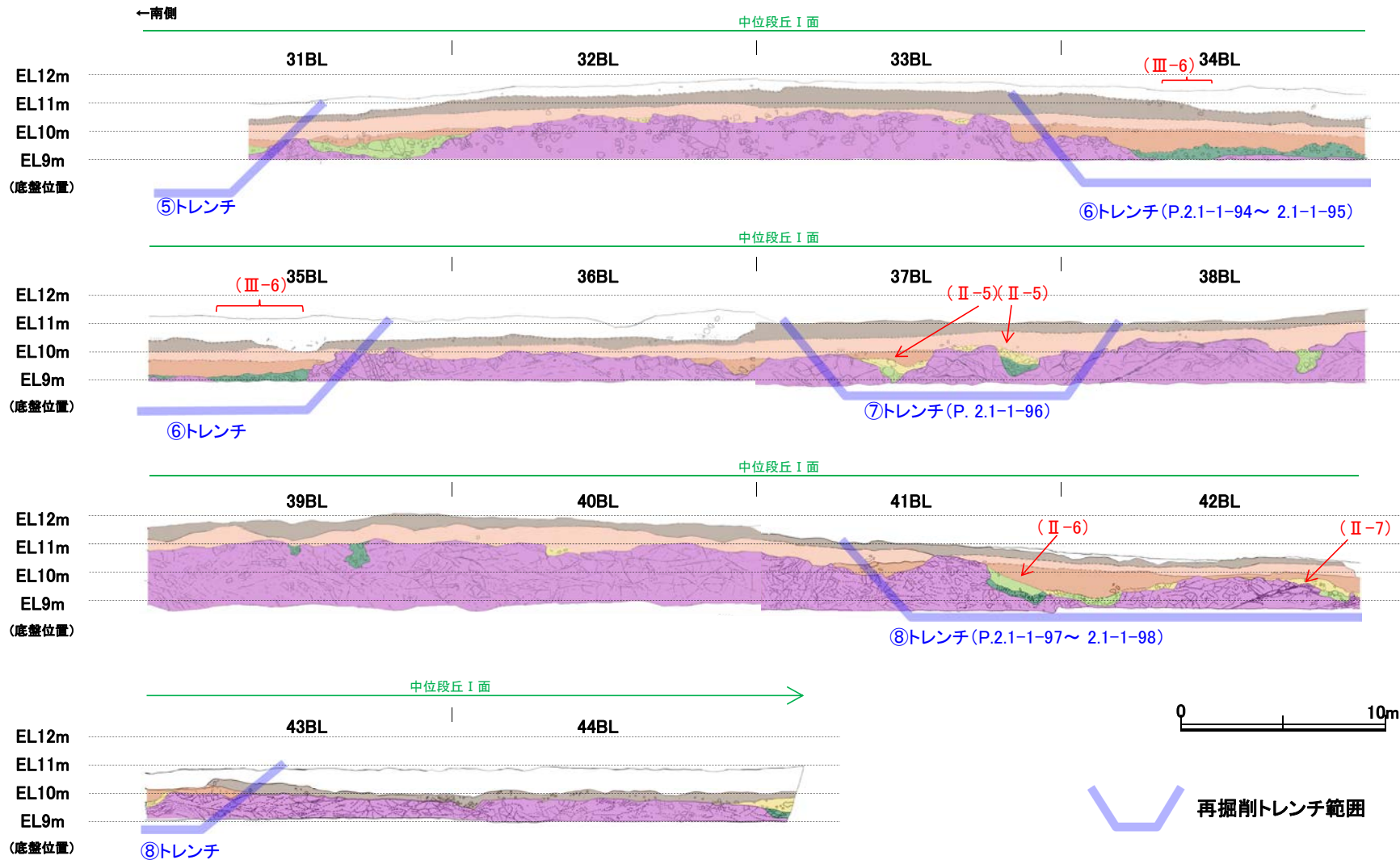


凡例

埋土	礫層③(安山岩の垂円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化)
人工構造物	礫層②(安山岩の円~垂角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む)
廣植質シルト~シルト層	礫層①(安山岩の円~垂角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に面結)
シルト~砂質シルト層	岩盤
暗褐色土壌	節理
明褐色土壌	
赤褐色土壌	

防潮堤基礎掘削法面 全体スケッチ③[31BL~44BL]

防潮堤基礎掘削法面(防潮堤設置時)スケッチ [31BL~44BL]



❏ 下記コメント(I)~(III)に該当する箇所

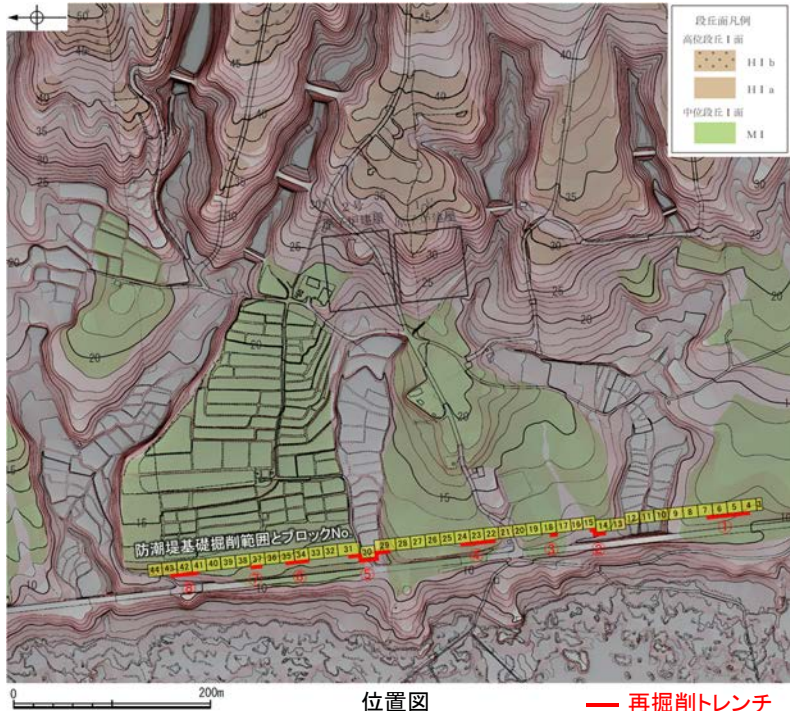
- (I) 割れ目に沿って基盤上面が凹んでいる箇所
- (II) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所
- (III) 基盤岩が確認されていない箇所

凡例

- | | |
|-------------|---|
| 埋土 | 礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化) |
| 人工構造物 | 礫層②(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む) |
| 廣植質シルト~シルト層 | 礫層①(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結) |
| シルト~砂質シルト層 | 岩盤 |
| 暗褐色土壌 | 節理 |
| 明褐色土壌 | |
| 赤褐色土壌 | |

再掘削調査(現状について)

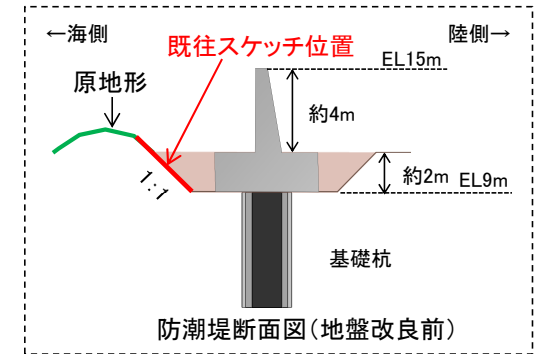
■再掘削調査(トレンチ調査)を行った箇所は、発電所建設以前の旧標高は約10~13mであり、既往スケッチを実施した時期には原地形が残っていた。しかしながら、運搬道路施工に伴う地盤改良工事により、現在はEL11m盤に整地され、EL10.5m以浅の地層は一部を除き人工改変を受けている。



— 再掘削トレンチ
(丸数字はトレンチNo.)



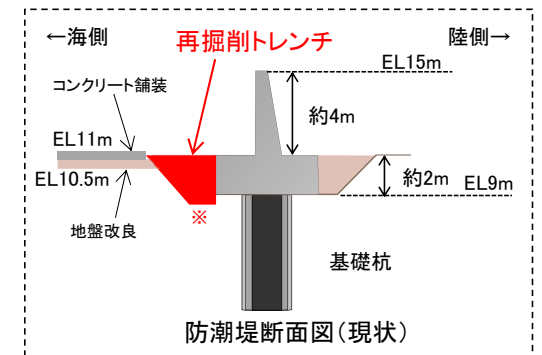
地盤改良工事前の写真
(原地形が残っている)



工事状況の写真
(表層部を掘削して地盤改良を行った)



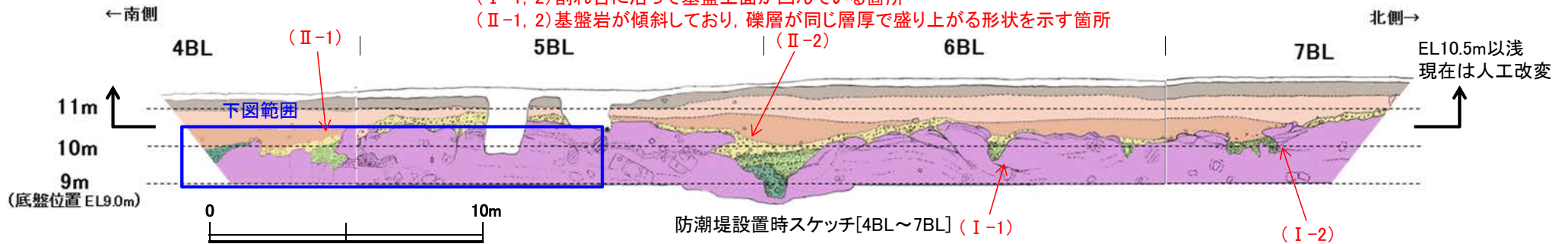
トレンチ箇所の全景写真
(現在の状況)



※ 断層の有無をより詳細に確認するため、防潮堤基礎掘削よりもさらに海側方向または深さ方向に最大1m程度掘り込んでいる箇所がある。

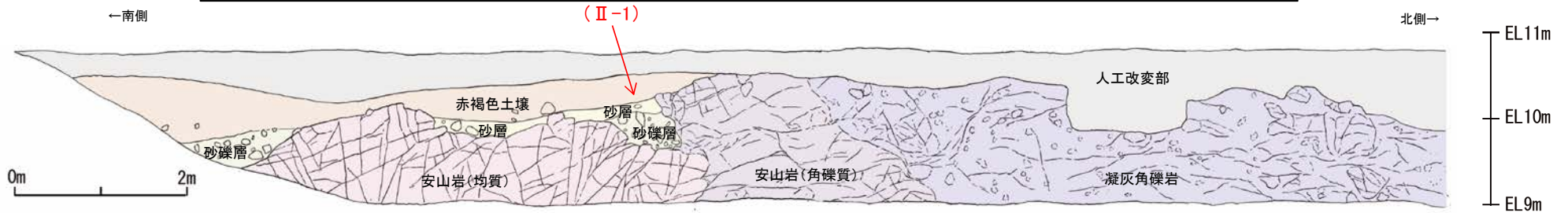
防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[①トレンチ(1/3)]

(I-1, 2) 割れ目に沿って基盤上面が凹んでいる箇所
(II-1, 2) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所



凡例

埋土	腐植質シルト~シルト層	暗褐色土壌	礫層③(安山岩の亜円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化)	岩盤
人工構造物	シルト~砂質シルト層	明褐色土壌	礫層②(安山岩の円~亜角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む)	節理
		赤褐色土壌	礫層①(安山岩の円~亜角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)	

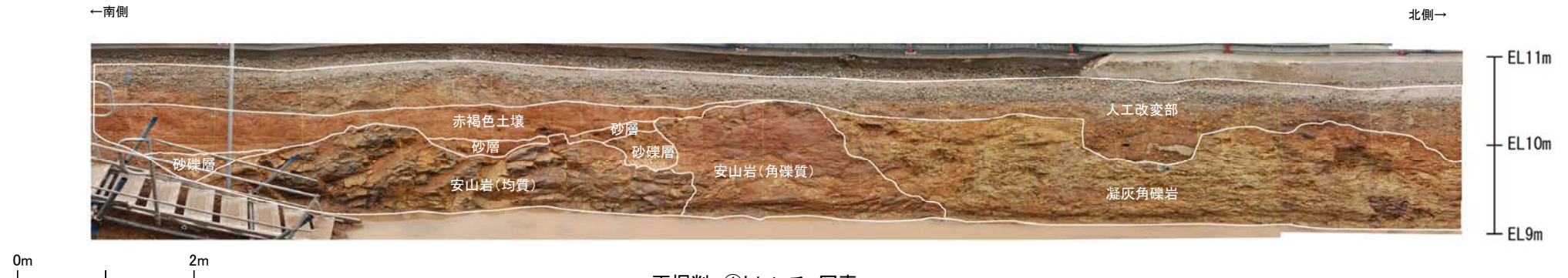


凡例

人工改変部	シルト層
腐植質シルト層	砂層 ※1
シルト質礫層	砂礫層 ※2
暗褐色土壌	穴水累層 安山岩(角礫質)
明褐色土壌 ※1	穴水累層 凝灰角礫岩
赤褐色土壌	

※1: 防潮堤設置時スケッチの「礫層③(安山岩の亜円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化)」を、詳細観察により、「砂層」と「赤褐色土壌」の一部に対応するものとして区分した。

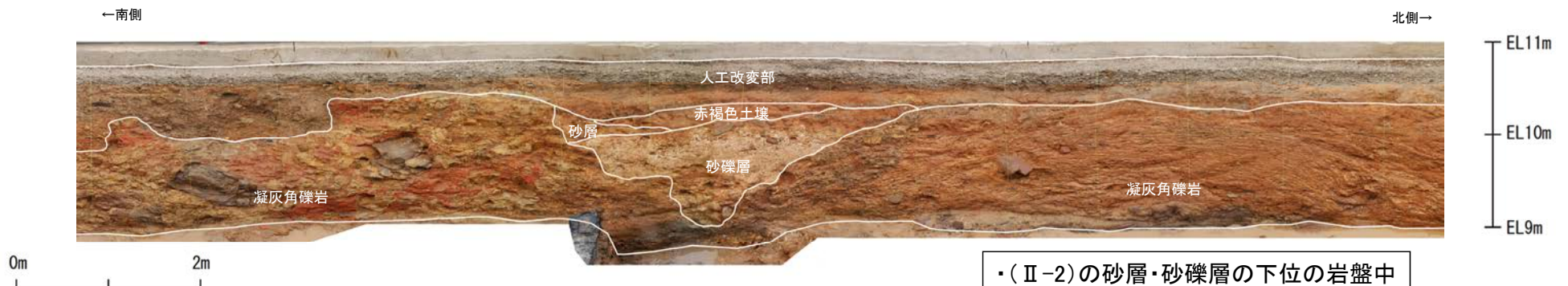
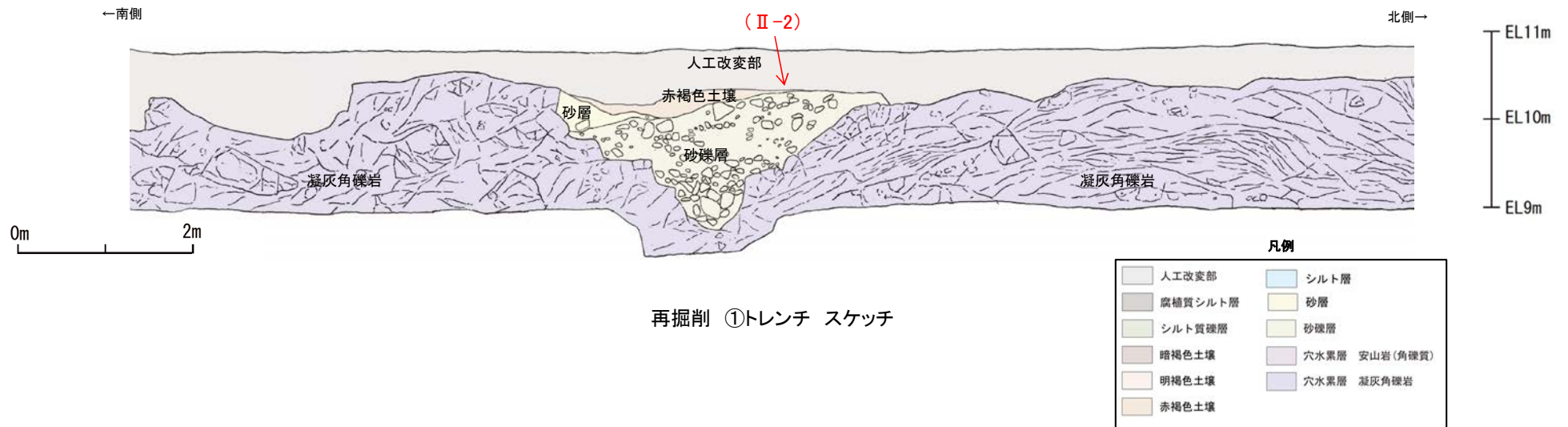
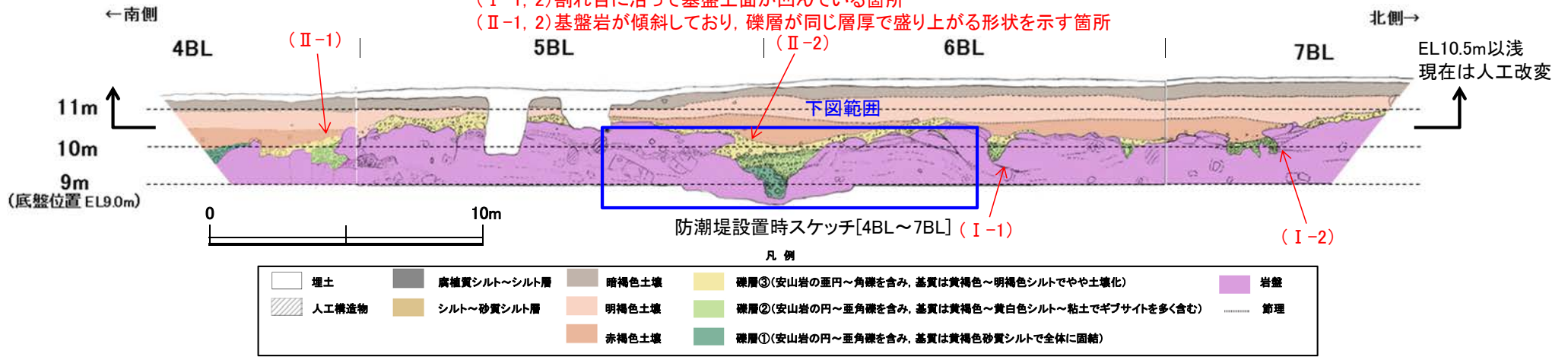
※2: 防潮堤設置時スケッチでは「砂礫層」を色調・固結度の違いから「礫層①(安山岩の円~亜角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)」と「礫層②(安山岩の円~亜角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む)」に区分していた。



・(II-1)の砂層・砂礫層の下位の岩盤中には、断層がないことを確認した。

防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[①トレンチ(2/3)]

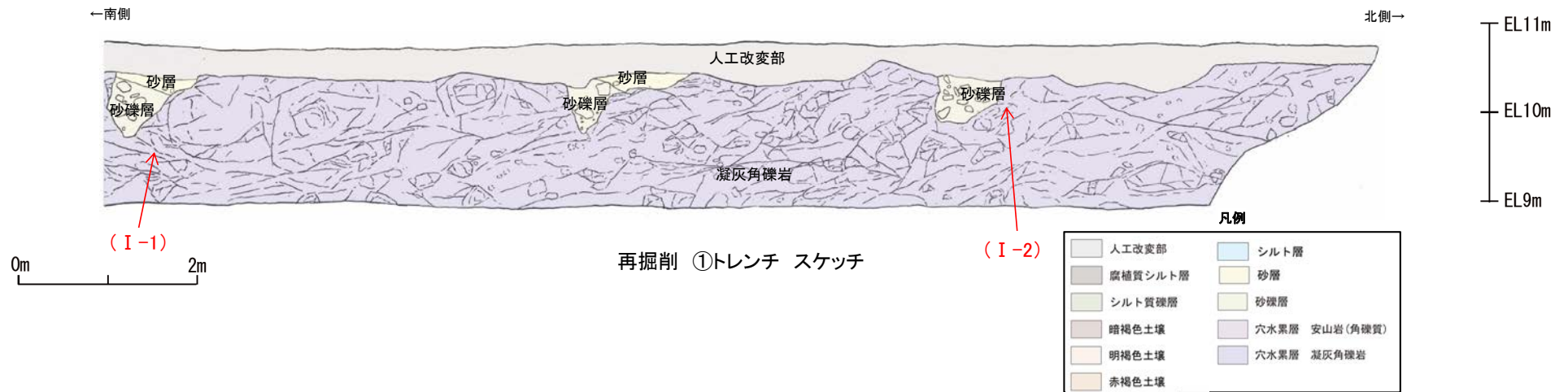
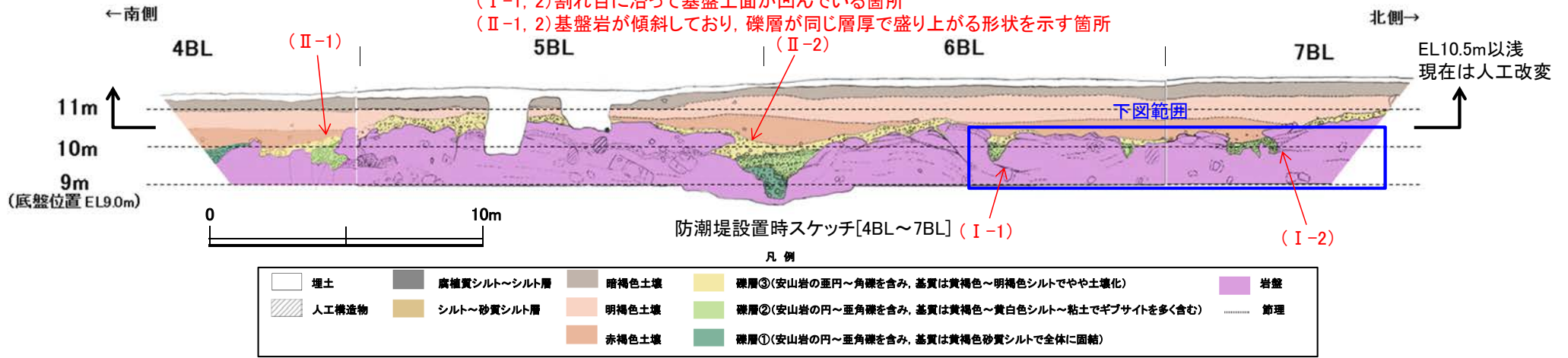
(I-1, 2) 割れ目に沿って基盤上面が凹んでいる箇所
(II-1, 2) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所



・(II-2)の砂層・砂礫層の下位の岩盤中には、断層がないことを確認した。

防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真〔①トレンチ（3/3）〕

(I -1, 2) 割れ目に沿って基盤上面が凹んでいる箇所
(II -1, 2) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所



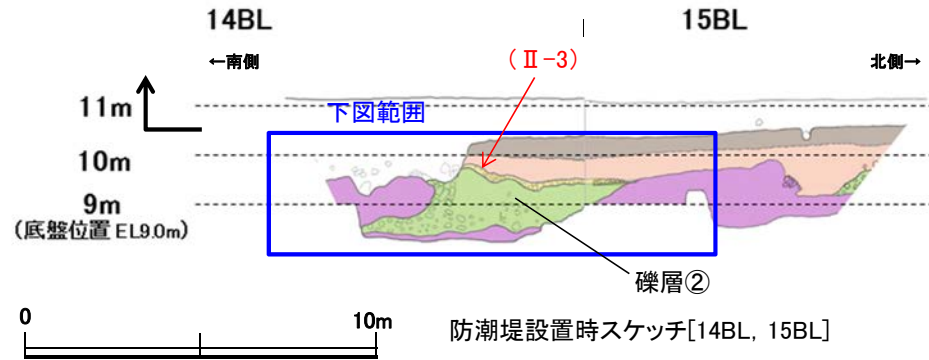
・(I -1, 2)に該当する割れ目はトレンチ内で下部に連続せず、破碎部を伴わないことを確認した。

防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真〔②トレンチ（1/2）〕

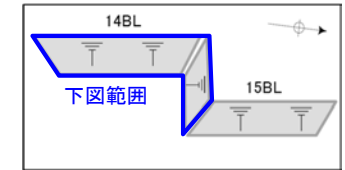
(II-3) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所

凡例

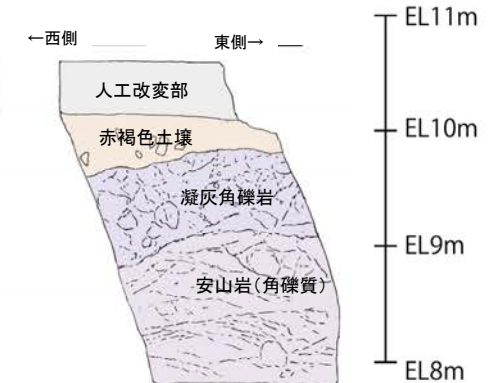
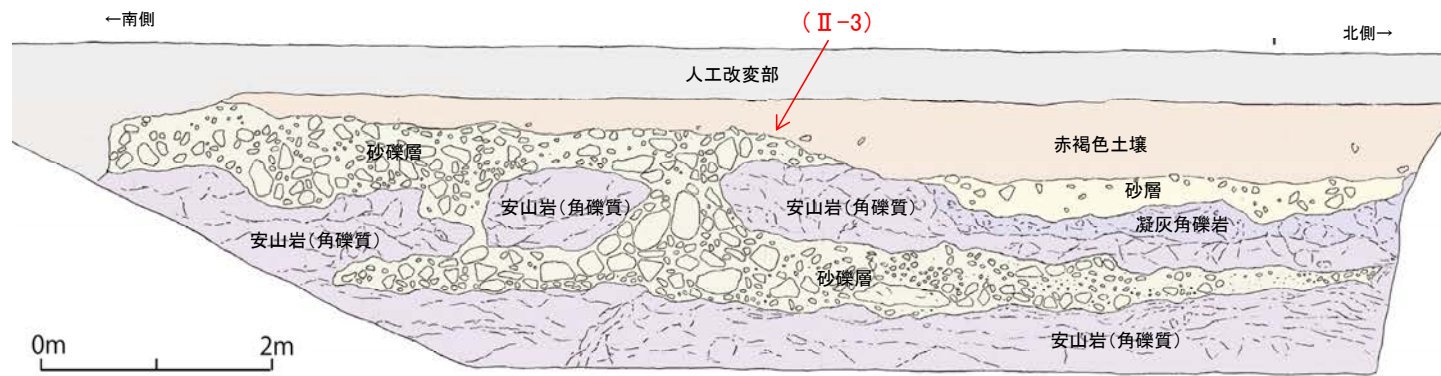
	埋土		礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化)
	人工構造物		礫層②(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む)
	腐植質シルト~シルト層		礫層①(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)
	シルト~砂質シルト層		岩盤
	暗褐色土壌		節理
	明褐色土壌		
	赤褐色土壌		



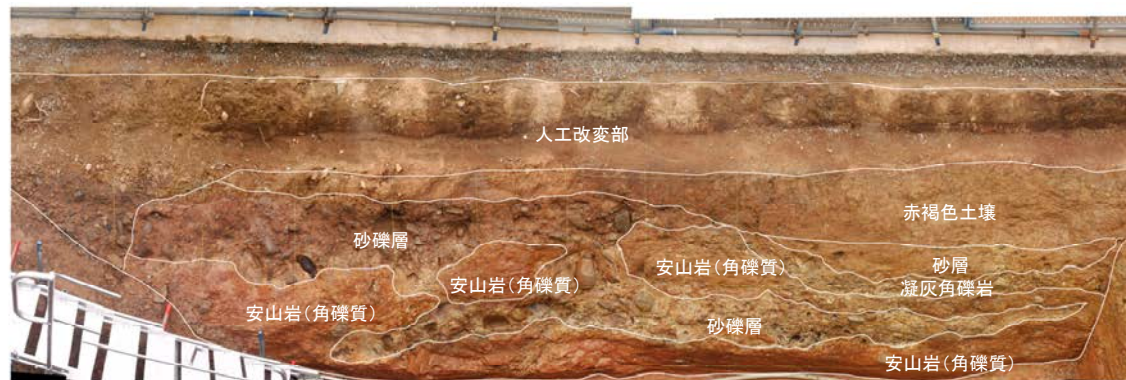
↑ EL10.5m以浅
現在は人工改変



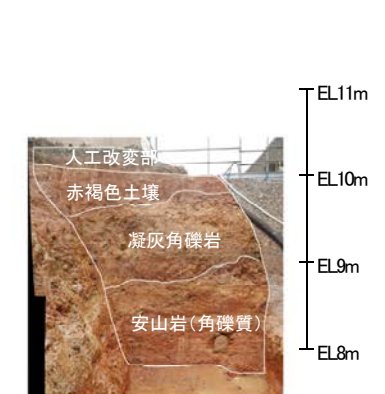
壁面の形状図



←南側 | 北側→



←西側 | 東側→



凡例

	人工改変部		シルト層
	腐植質シルト層		砂層
	シルト質礫層		砂礫層
	暗褐色土壌		穴水累層 安山岩(角礫質)
	明褐色土壌		穴水累層 凝灰角礫岩
	赤褐色土壌		

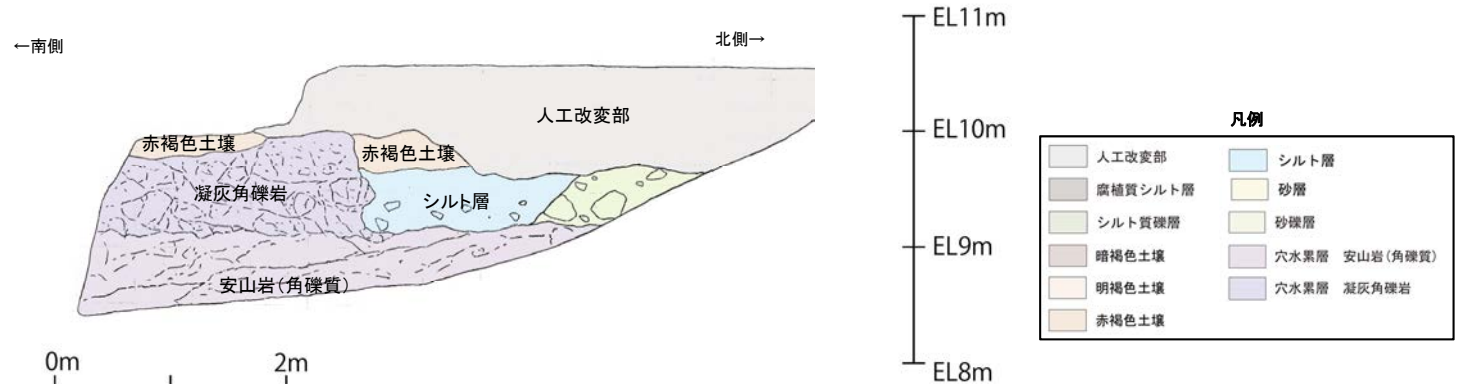
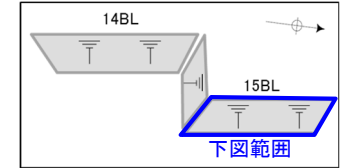
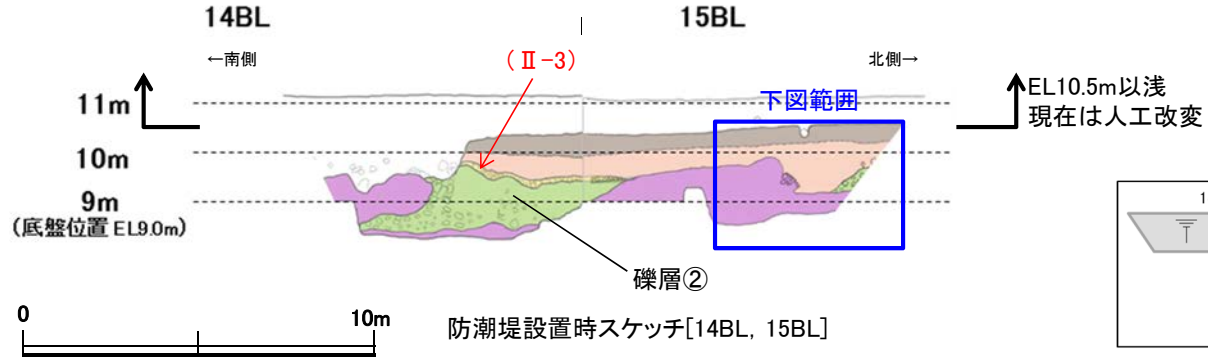
- ・掘り込み以前の既往スケッチの礫層②の箇所、今回奥に掘り込んだ結果、岩盤が出現した。
- ・(II-3)において、岩盤の凹地に砂礫層が入り込んだ形状を示すが、下位の岩盤中には断層は認められない。

防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[②トレンチ(2/2)]

(II-3) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所

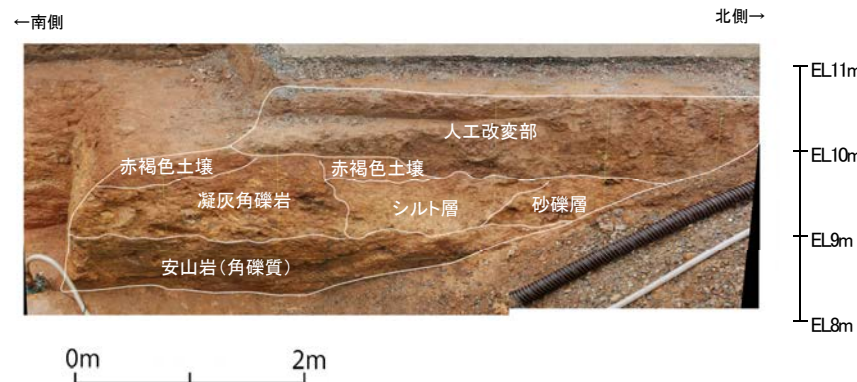
凡例

	埋土		礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化)
	人工構造物		礫層②(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む)
	腐植質シルト~シルト層		礫層①(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)
	シルト~砂質シルト層		岩盤
	暗褐色土壌		節理
	明褐色土壌		
	赤褐色土壌		



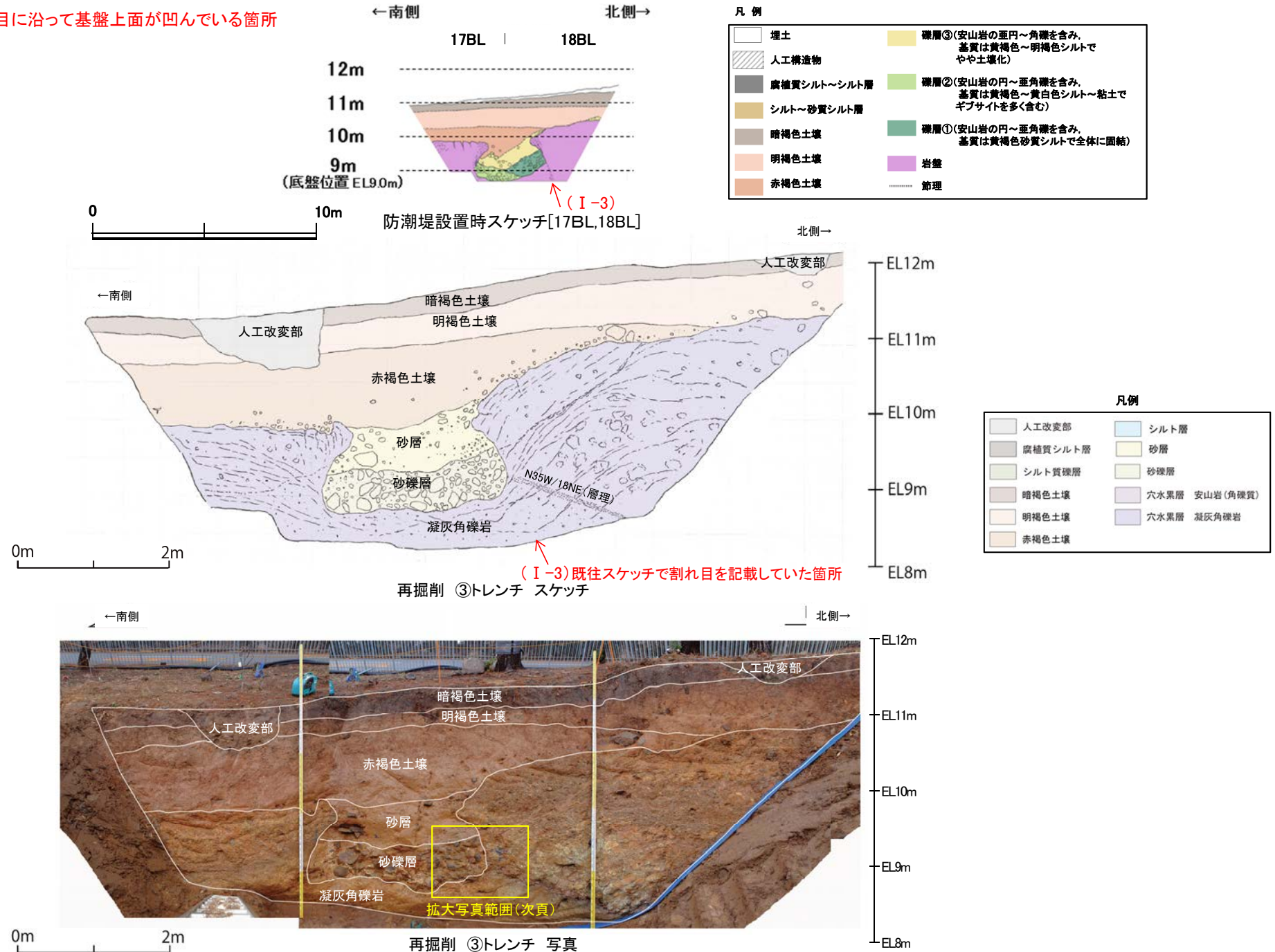
凡例

	人工改変部		シルト層
	腐植質シルト層		砂層
	シルト質礫層		砂礫層
	暗褐色土壌		穴水累層 安山岩(角礫質)
	明褐色土壌		穴水累層 凝灰角礫岩
	赤褐色土壌		



防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[③トレンチ(1/2)]

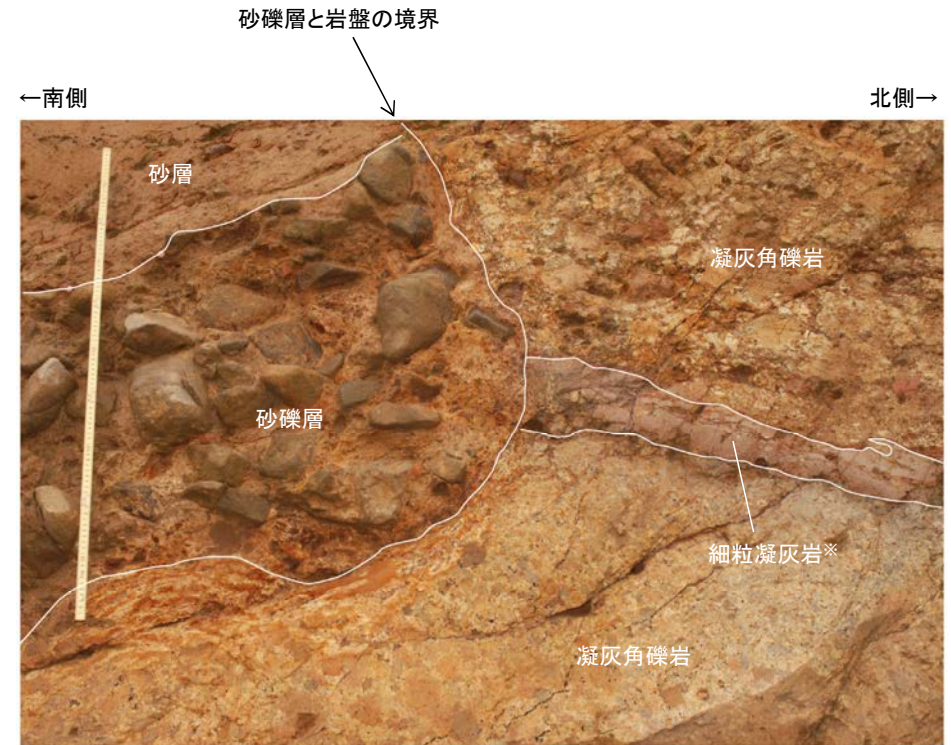
(I-3)割れ目に沿って基盤上面が凹んでいる箇所



・割れ目に沿って基盤上面が凹んでいる箇所について、再掘削した結果、凹地の下方には断層は認められないことを確認した。



拡大写真



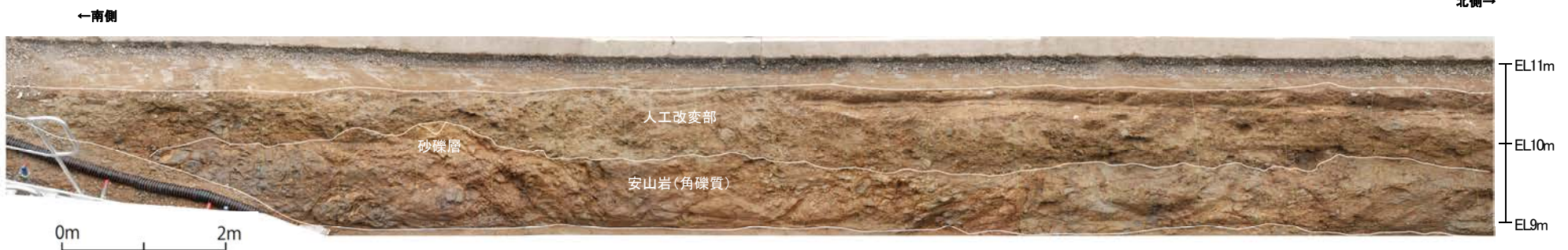
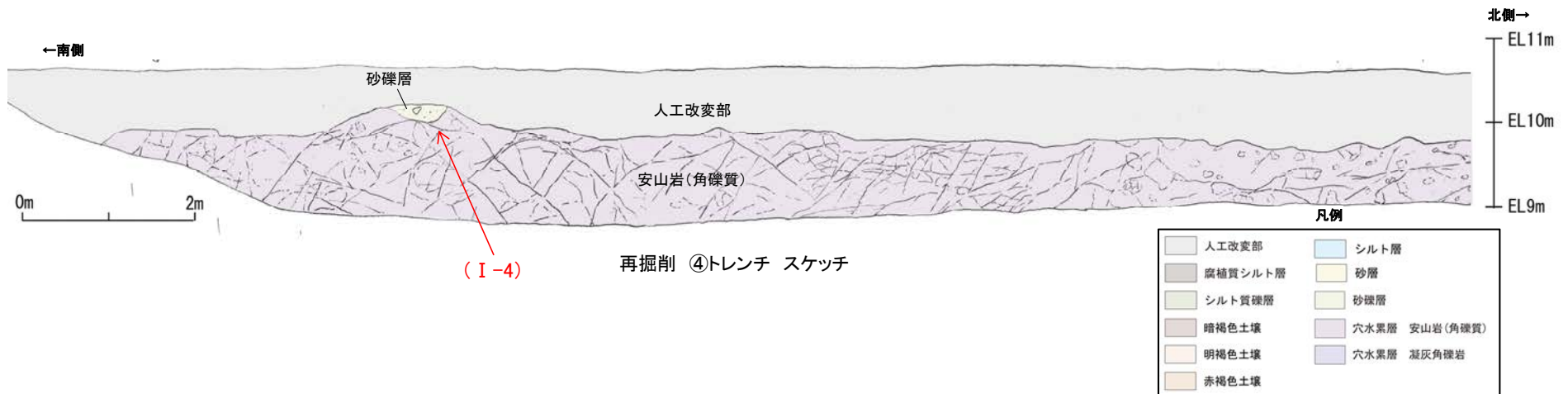
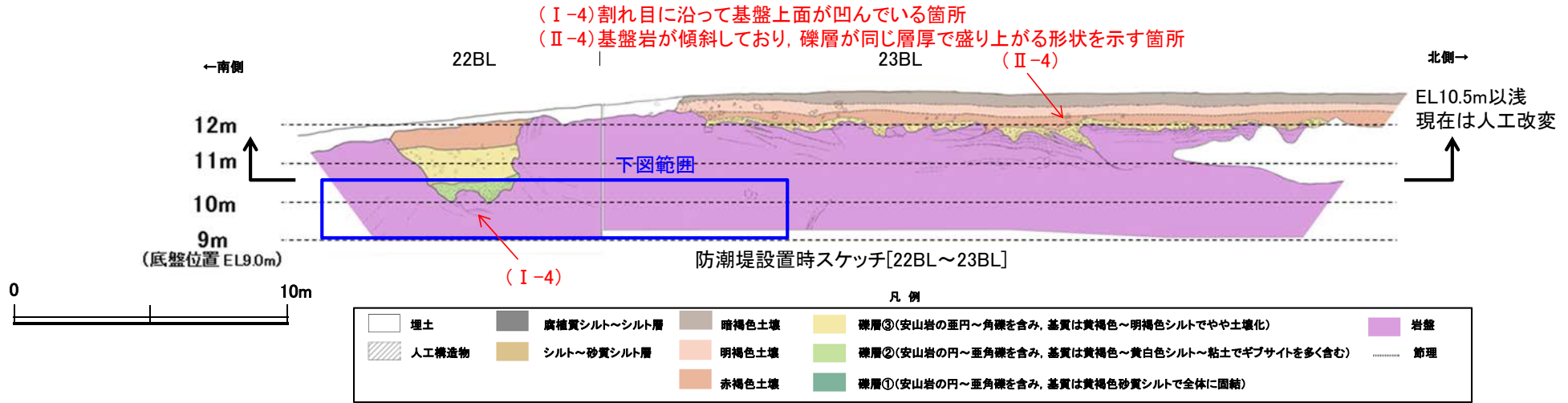
拡大写真(地質境界を加筆)

※細粒凝灰岩:凝灰角礫岩に挟まれる厚さ6 ~ 10cmの細粒凝灰岩からなる層理。固結した破碎部とは異なる。

・掘り込み以前の法面では砂礫層と岩盤の境界の下方延長部に割れ目を記載していたが、今回さらに掘り込んで調査した結果、割れ目は消失し、連続しないことを確認した。

・砂礫層と岩盤の境界の下方延長には断層は認められない。

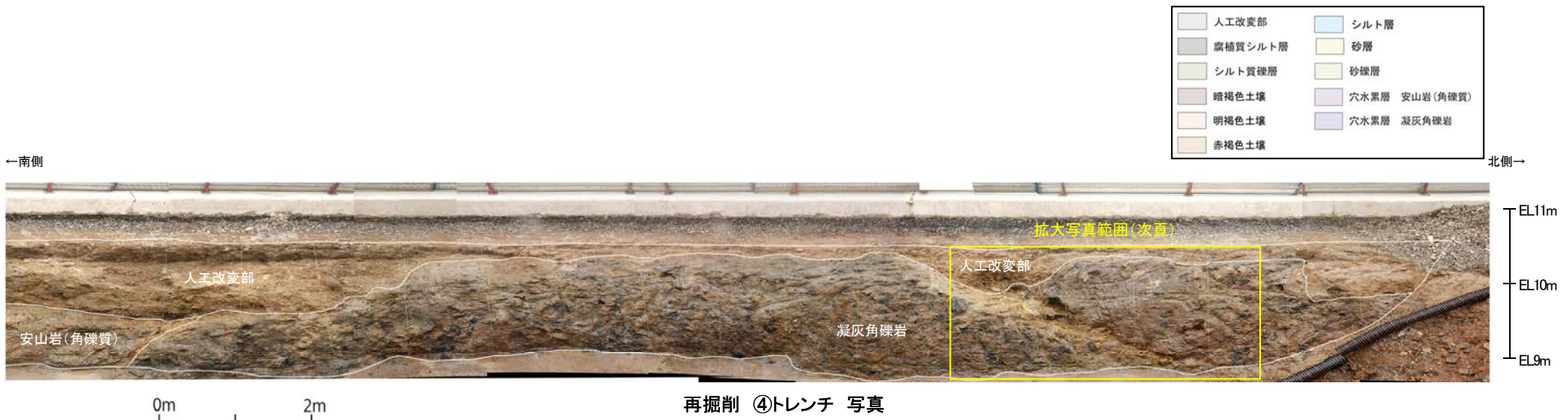
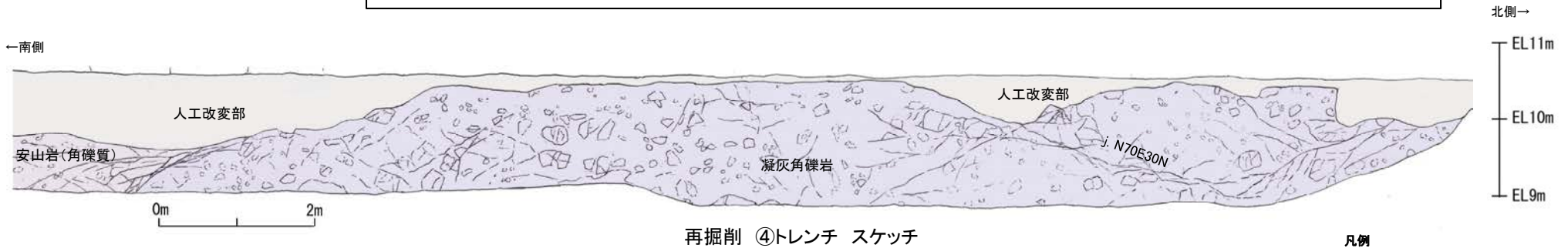
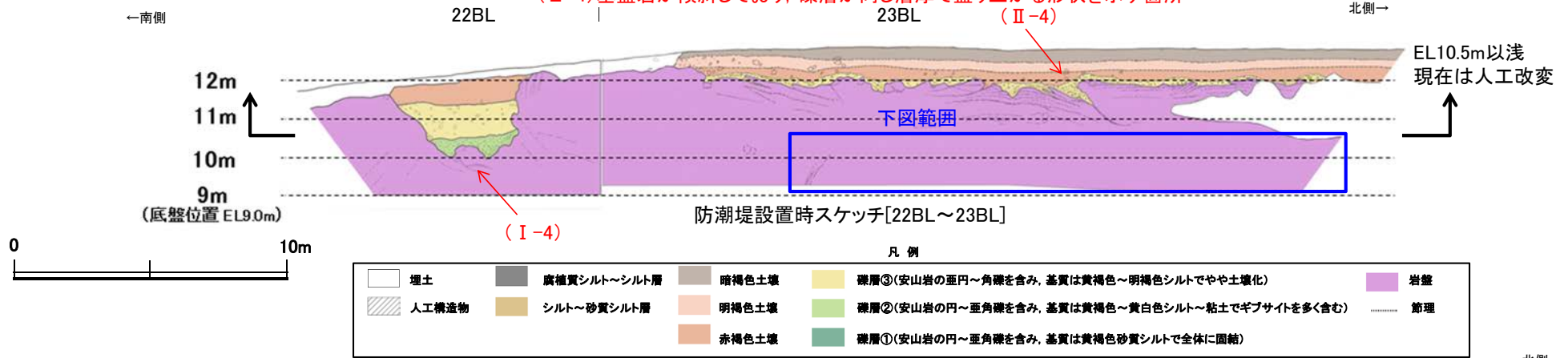
防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[④トレンチ(1/3)]



・(I-4)に該当する割れ目はトレンチ内で下部に連続せず、破碎部を伴わないことを確認した。

防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[④トレンチ(2/3)]

(I-4) 割れ目に沿って基盤上面が凹んでいる箇所
(II-4) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所



・(II-4)の砂層・砂礫層は、人工改変されており現存しない(P.2.1-1-80参照)が、下位の岩盤中には、断層がないことを確認した。

■ (Ⅱ) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所^①の下方延長部に分布する節理について、詳細に確認を行った。

←南側

北側→



・節理はトレンチ下部で消滅することを確認した。

拡大写真(全景)

←南側

北側→



詳細観察写真

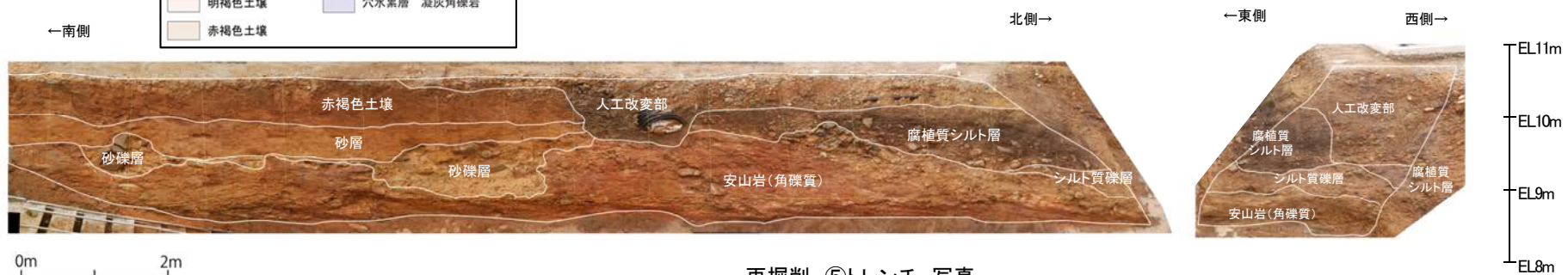
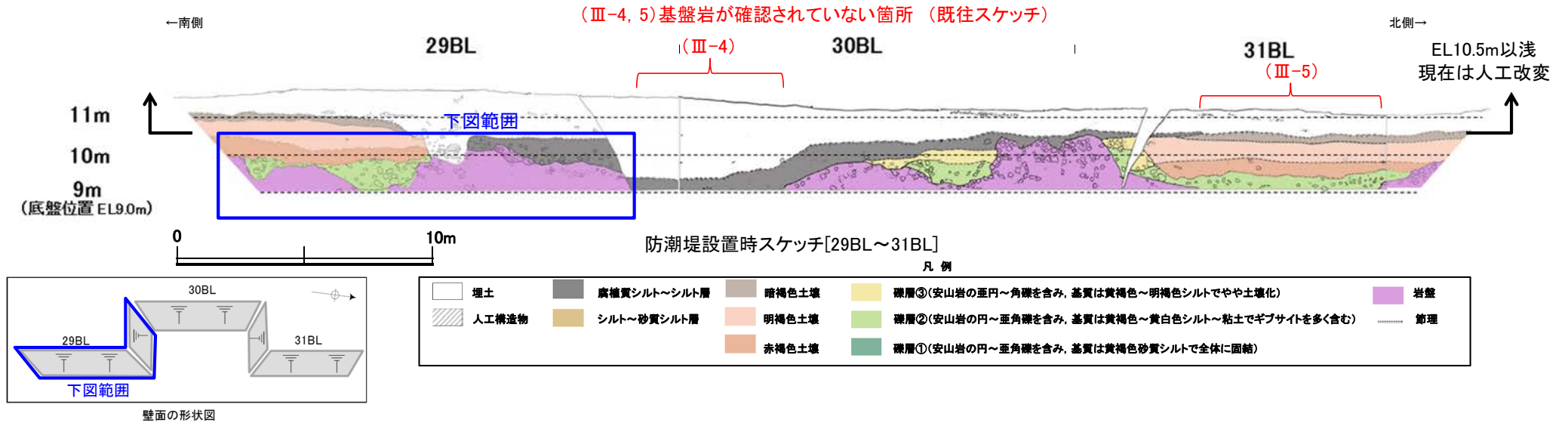
←南側

北側→

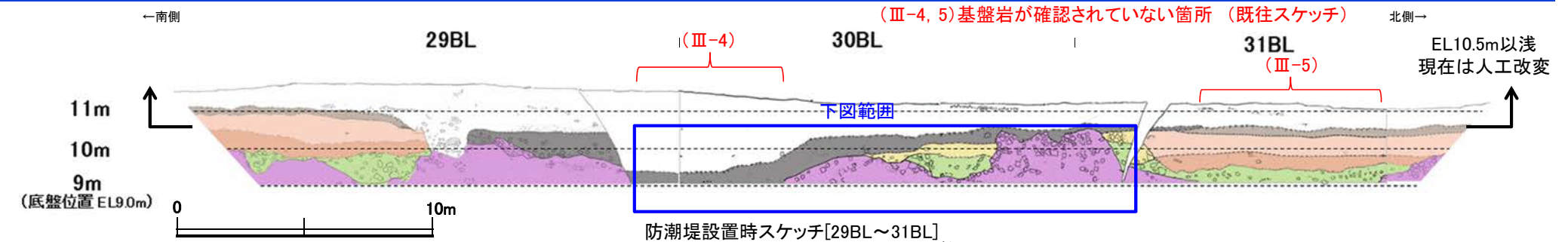


詳細観察写真(節理を加筆)

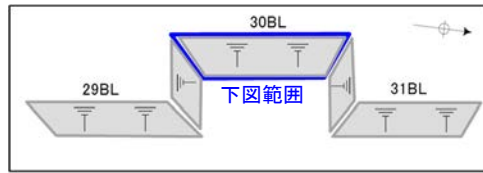
防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[⑤トレンチ(1/3)]



防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[⑤トレンチ(2/3)]

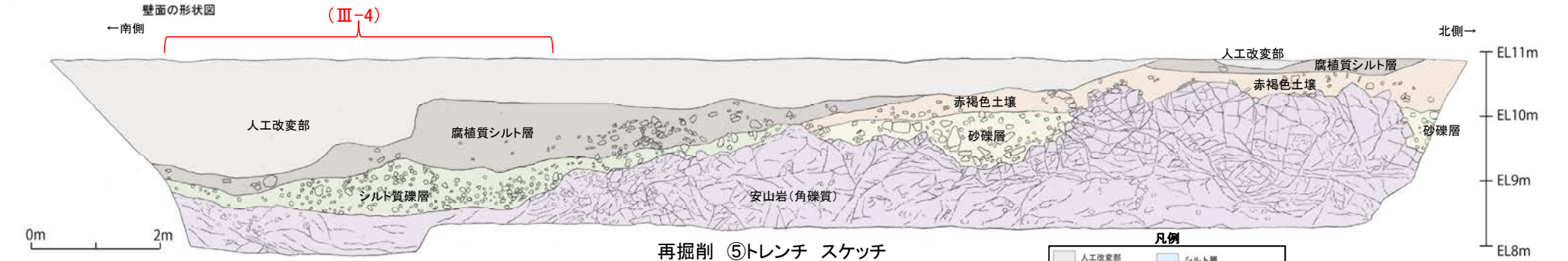


防潮堤設置時スケッチ[29BL~31BL]
凡例



壁面の形状図

埋土	腐植質シルト～シルト層	暗褐色土壌	礫層③(安山岩の亞円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化)	岩盤
人工構造物	シルト～砂質シルト層	明褐色土壌	礫層②(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む)	節理
		赤褐色土壌	礫層①(安山岩の円～亜角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)	



再掘削 ⑤トレンチ スケッチ

凡例

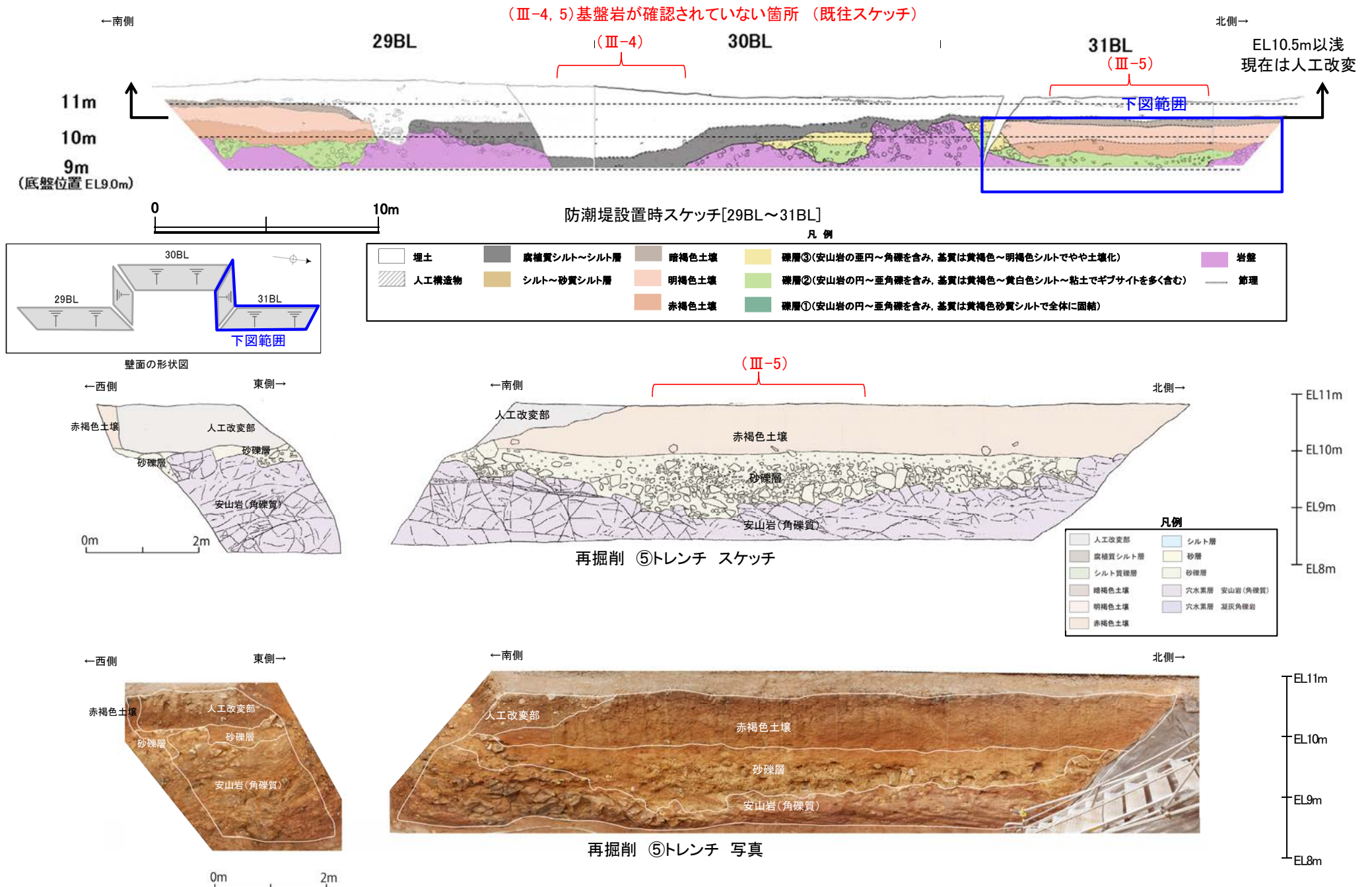
人工改変部	シルト層
腐植質シルト層	砂層
シルト質礫層	砂礫層
暗褐色土壌	穴水層 安山岩(角礫質)
明褐色土壌	穴水層 凝灰角礫岩
赤褐色土壌	



再掘削 ⑤トレンチ 写真

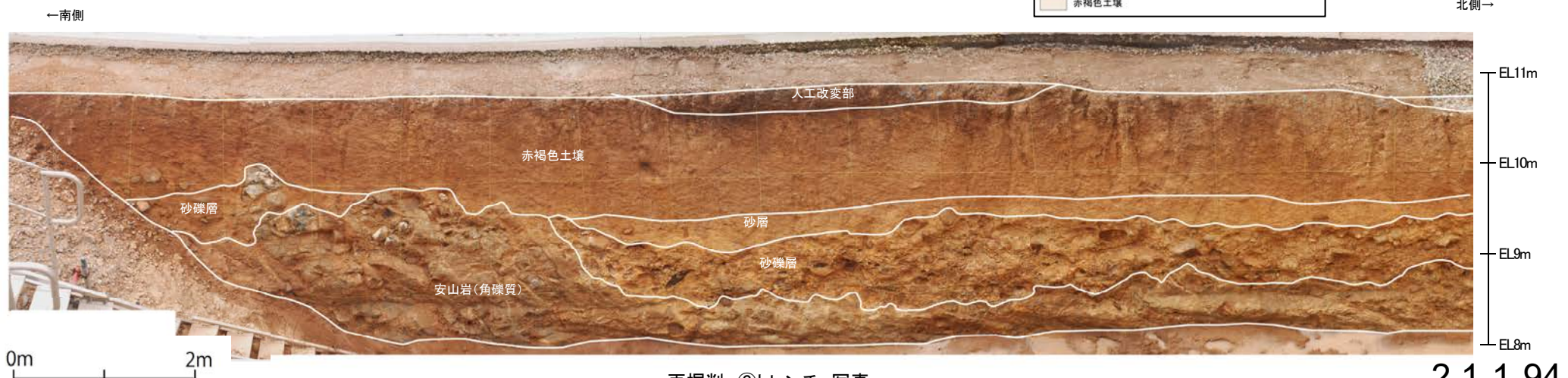
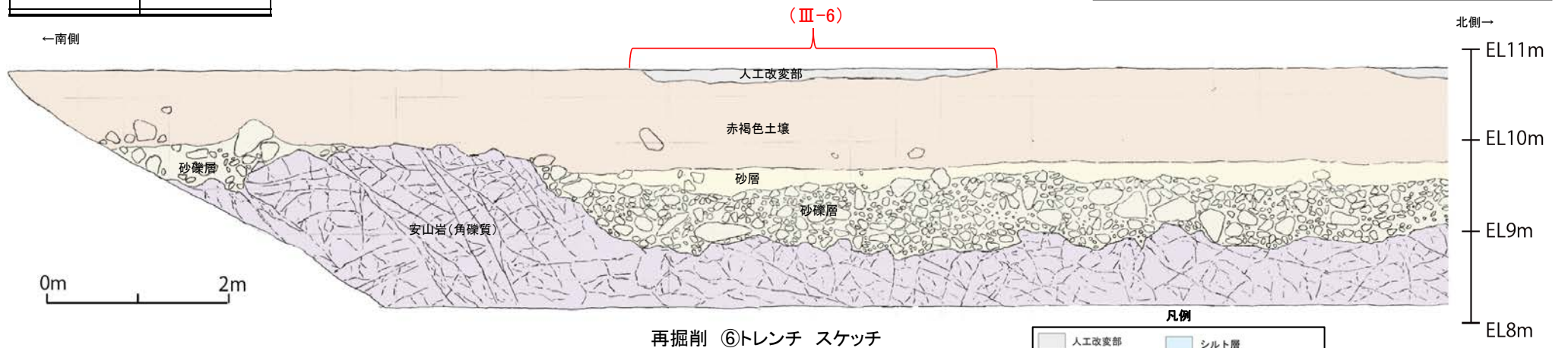
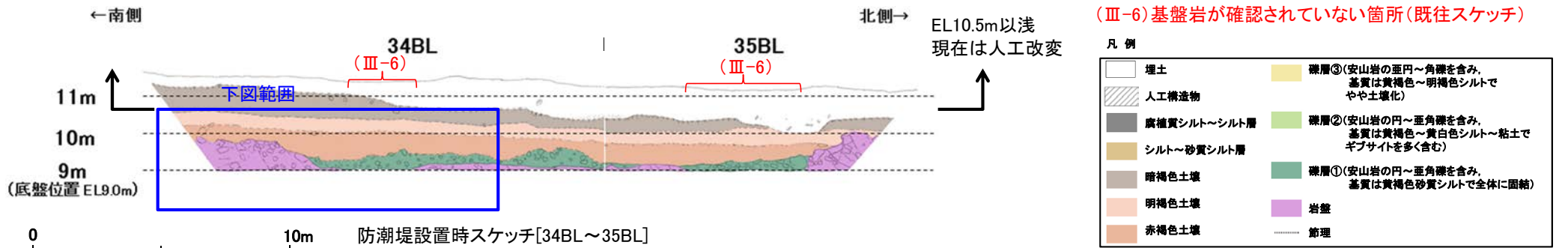
- ・既往スケッチにおいて基盤岩が確認されていなかった箇所(III-4)において、防潮堤基礎(EL9m)よりもさらに深く掘削することにより基盤岩を露出させた。
- ・その結果、当該区間に断層がないことを確認した。

防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[⑤トレンチ(3/3)]

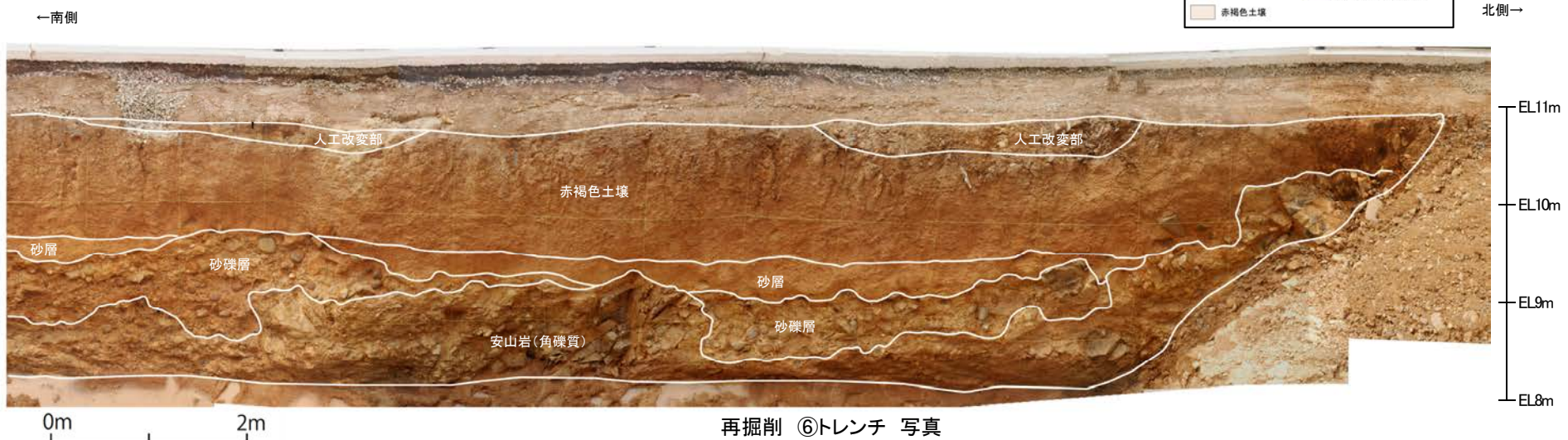
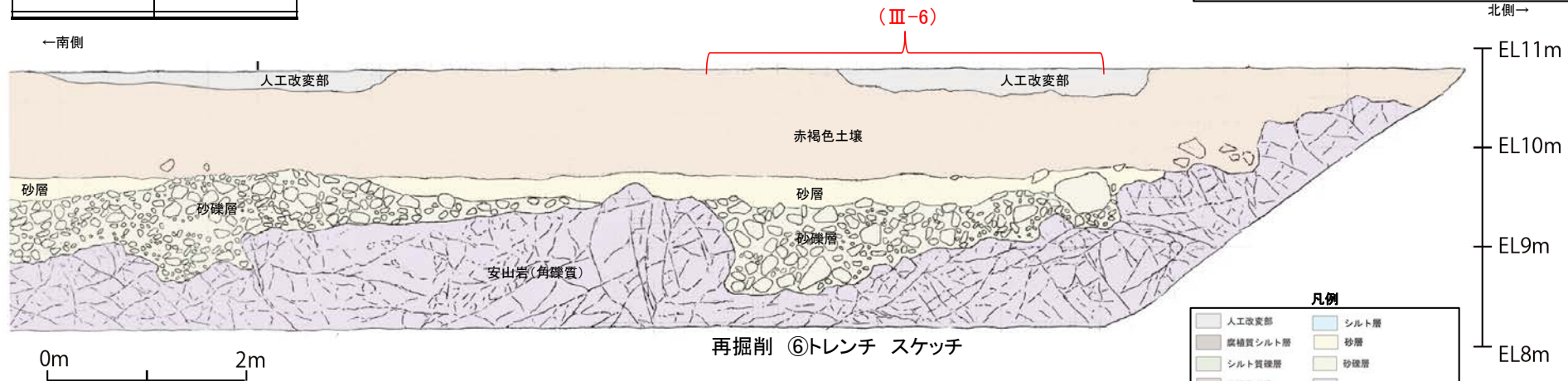
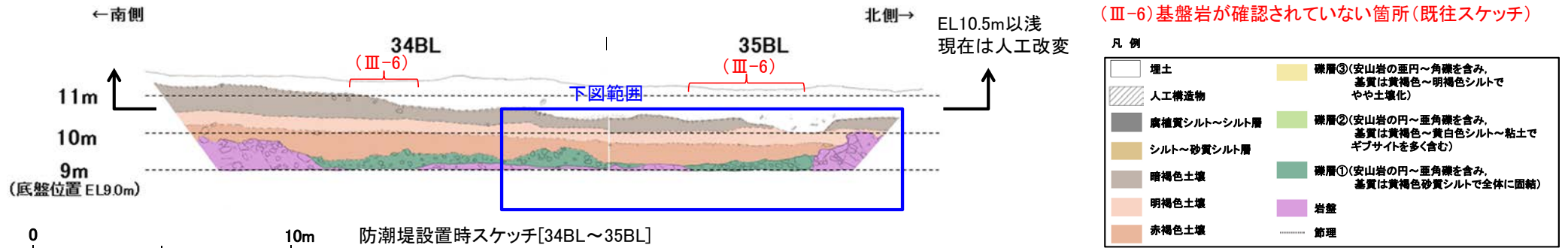


・既往スケッチにおいて基盤岩が確認されていなかった箇所(III-5)において、防潮堤基礎(EL9m)よりもさらに深く掘削することにより基盤岩を露出させた。
・その結果、当該区間に断層がないことを確認した。

防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[⑥トレンチ(1/2)]



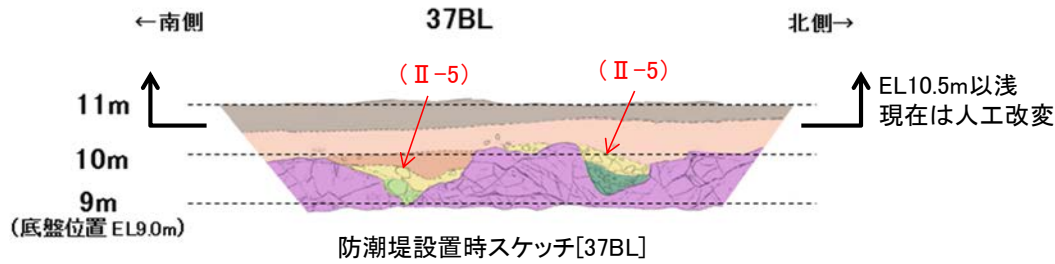
防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[⑥トレンチ(2/2)]



- ・既往スケッチにおいて基盤岩が確認されていなかった箇所(Ⅲ-6)において、防潮堤基礎(EL9m)よりもさらに深く掘削することにより基盤岩を露出させた。
- ・その結果、当該区間に断層がないことを確認した。

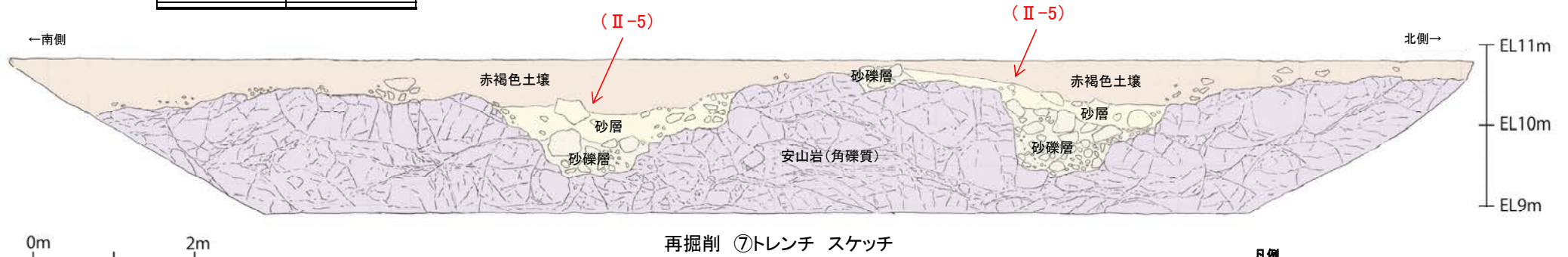
防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真〔⑦トレンチ〕

（Ⅱ-5）基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所



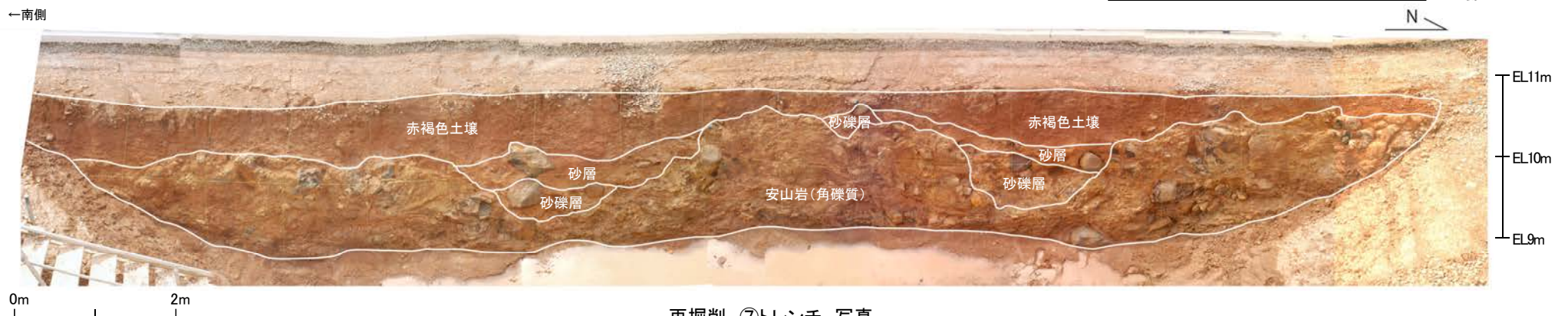
凡例

埋土	礫層③(安山岩の歪円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化)
人工構造物	礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む)
腐植質シルト～シルト層	礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)
シルト～砂質シルト層	岩盤
暗褐色土壌	節理
明褐色土壌	
赤褐色土壌	



凡例

人工改変部	シルト層
腐植質シルト層	砂層
シルト質礫層	砂礫層
暗褐色土壌	穴水累層 安山岩(角礫質)
明褐色土壌	穴水累層 凝灰角礫岩
赤褐色土壌	

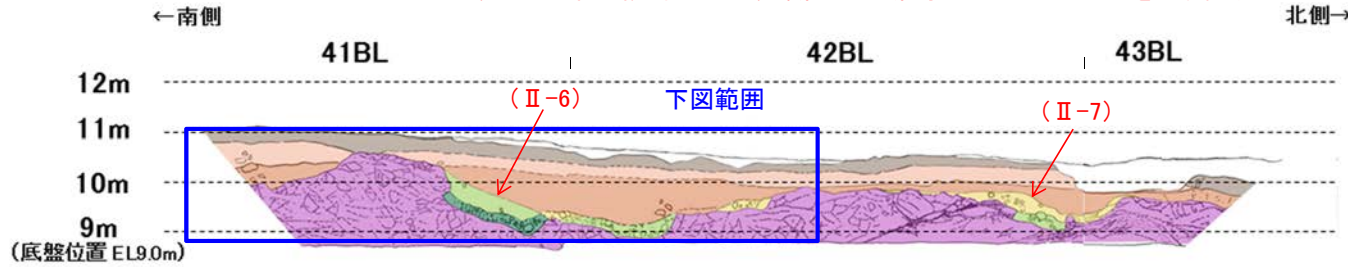


再掘削 ⑦トレンチ 写真

・(Ⅱ-5)の砂層・砂礫層の下位の岩盤中には、断層がないことを確認した。

防潮堤基礎掘削法面（再掘削時） スケッチ・写真〔⑧トレンチ（1/2）〕

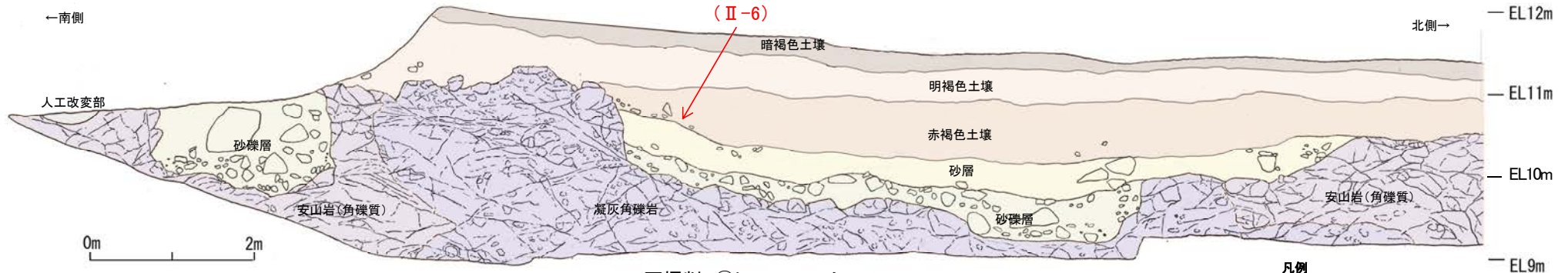
(II-6, 7) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所



凡例

埋土	礫層③(安山岩の歪円～角礫を含み、基質は黄褐色～明褐色シルトでやや土壌化)
人工構造物	礫層②(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色～黄白色シルト～粘土でギブサイトを多く含む)
腐植質シルト～シルト層	礫層①(安山岩の円～歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)
シルト～砂質シルト層	岩盤
暗褐色土壌	節理
明褐色土壌	
赤褐色土壌	

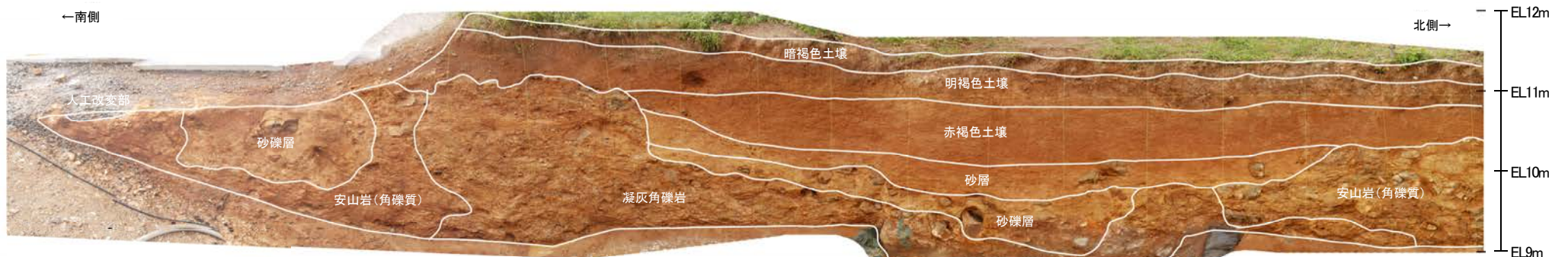
防潮堤設置時スケッチ[41BL～43BL]



再掘削 ⑧トレンチ スケッチ

凡例

人工改変部	シルト層
腐植質シルト層	砂層
シルト質礫層	砂礫層
暗褐色土壌	穴水累層 安山岩(角礫質)
明褐色土壌	穴水累層 凝灰角礫岩
赤褐色土壌	

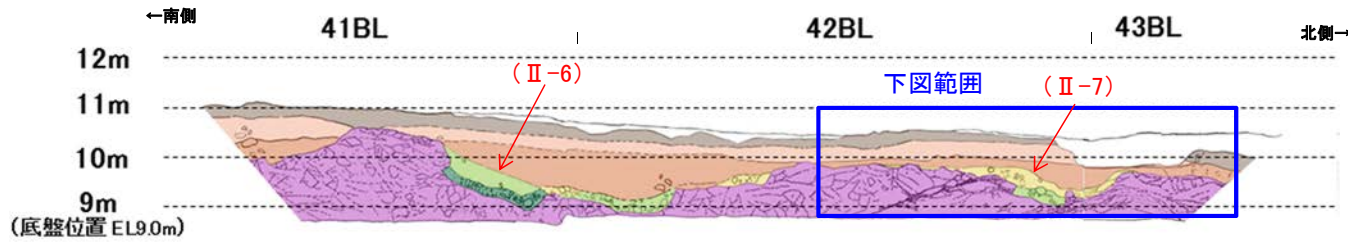


再掘削 ⑧トレンチ 写真

・(II-6)の砂層・砂礫層の下位の岩盤中には、断層がないことを確認した。

防潮堤基礎掘削法面(再掘削時) スケッチ・写真[⑧トレンチ(2/2)]

(Ⅱ-6, 7) 基盤岩が傾斜しており、礫層が同じ層厚で盛り上がる形状を示す箇所

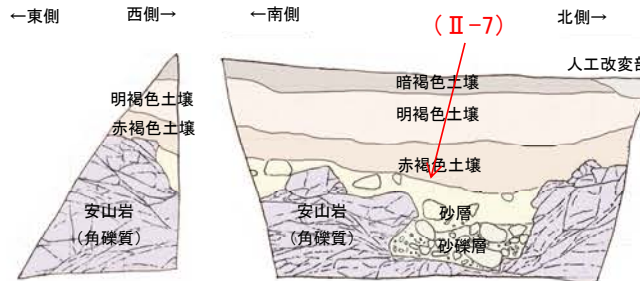
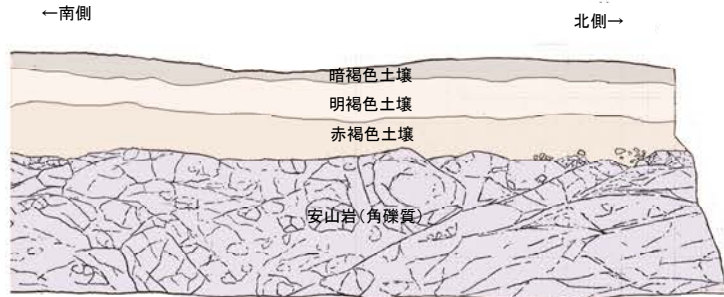


防潮堤設置時スケッチ[41BL~43BL]

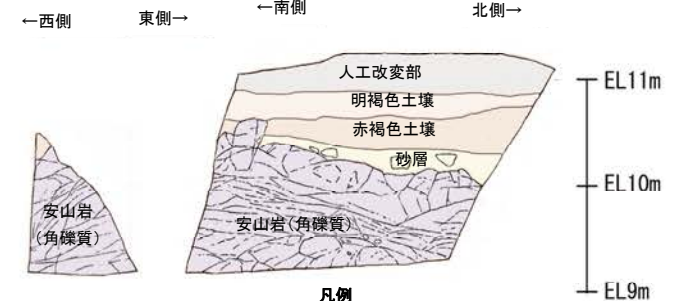


凡例

埋土	礫層③(安山岩の歪円~角礫を含み、基質は黄褐色~明褐色シルトでやや土壌化)
人工構造物	礫層②(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色~黄白色シルト~粘土でギブサイトを多く含む)
腐植質シルト~シルト層	礫層①(安山岩の円~歪角礫を含み、基質は黄褐色砂質シルトで全体に固結)
シルト~砂質シルト層	岩盤
暗褐色土壌	節理
明褐色土壌	
赤褐色土壌	

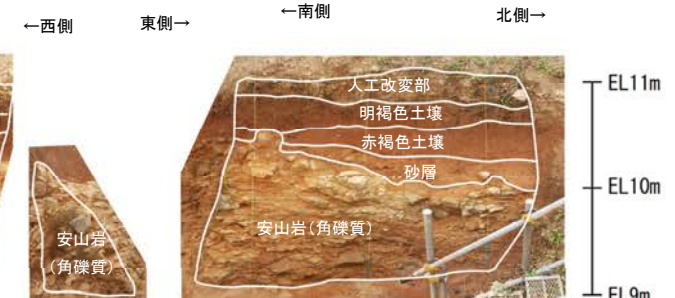
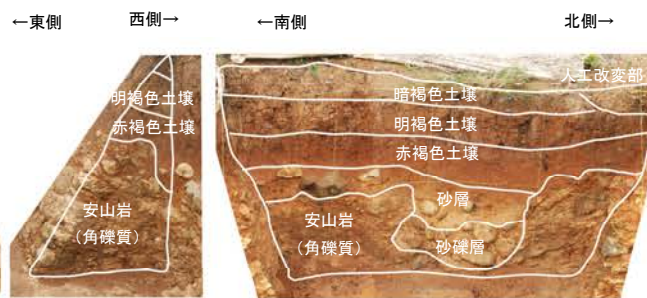


再掘削 ⑧トレンチ スケッチ



凡例

人工改変部	シルト層
腐植質シルト層	砂層
シルト質礫層	砂礫層
暗褐色土壌	穴水累層 安山岩(角礫質)
明褐色土壌	穴水累層 凝灰角礫岩
赤褐色土壌	



再掘削 ⑧トレンチ 写真

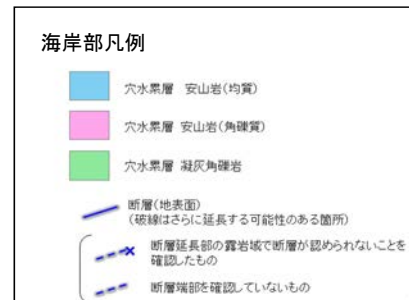
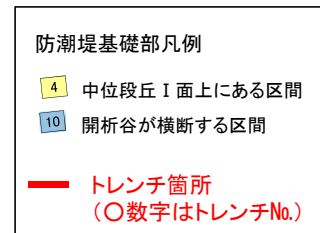
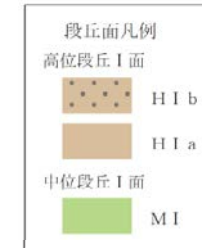
・(Ⅱ-7)の砂層・砂礫層の下位の岩盤中には、断層がないことを確認した。

(4) -3 岩盤未確認部の周辺地質の確認

■ 中位段丘 I 面分布域外にあたり、基盤岩が確認できなかった箇所(Ⅲ-1~3)について、周辺地質からの検討を行った。



位置図



※2号機取水路トンネルの直上に位置する29~30BL(開析谷①)には、⑤トレンチにより、断層がないことを確認した。(P.2.1-1-91~2.1-1-92)

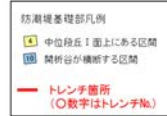
- ・10~13BL, 16BL, 20~21BL, 29~30BLは開析谷が横断する区間であり、中位段丘 I 面を削剥したことにより基盤上面が低くなっている。
- ・開析谷の延長方向の1・2号機基礎掘削面及び海岸部露岩域には、同方向に連続する断層は認められない。(P.2.1-1-101~2.1-1-102)
- ・開析谷はいずれも山から海への自然勾配の方向で流下する必従谷であり、谷の形成に断層の影響はないと考えられる。

岩盤未確認部の周辺地質の確認(1・2号機基礎掘削面スケッチ)

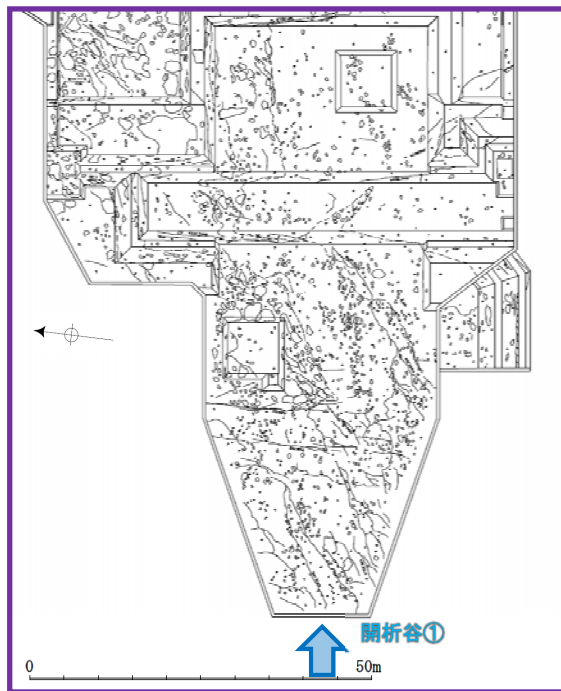
■開析谷の延長方向において、基礎掘削面の地質状況を確認した。



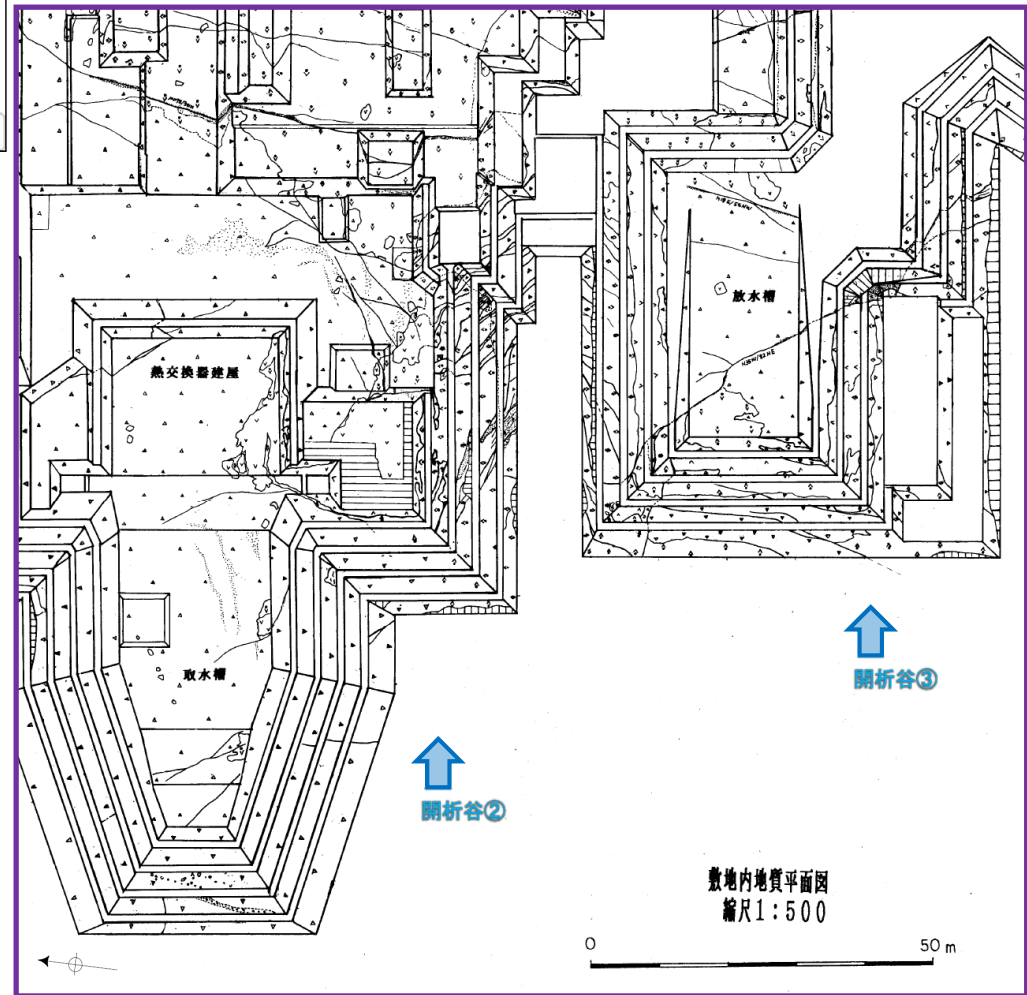
位置図



・1・2号機基礎掘削面において、開析谷の方向に断層は認められない。



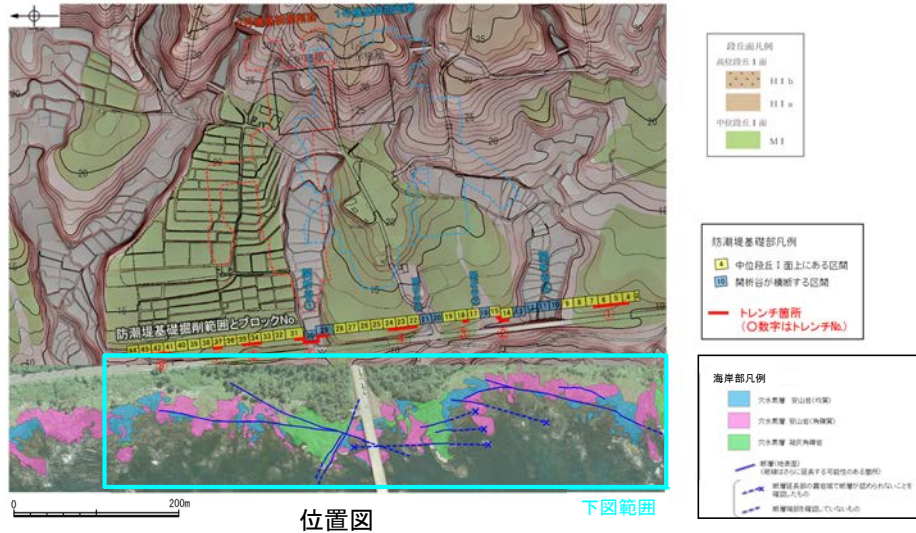
2号機基礎掘削面スケッチ



1号機基礎掘削面スケッチ

敷地内地質平面図
縮尺1:500

■開析谷の延長方向において、海岸部露岩域の地質状況を確認した。



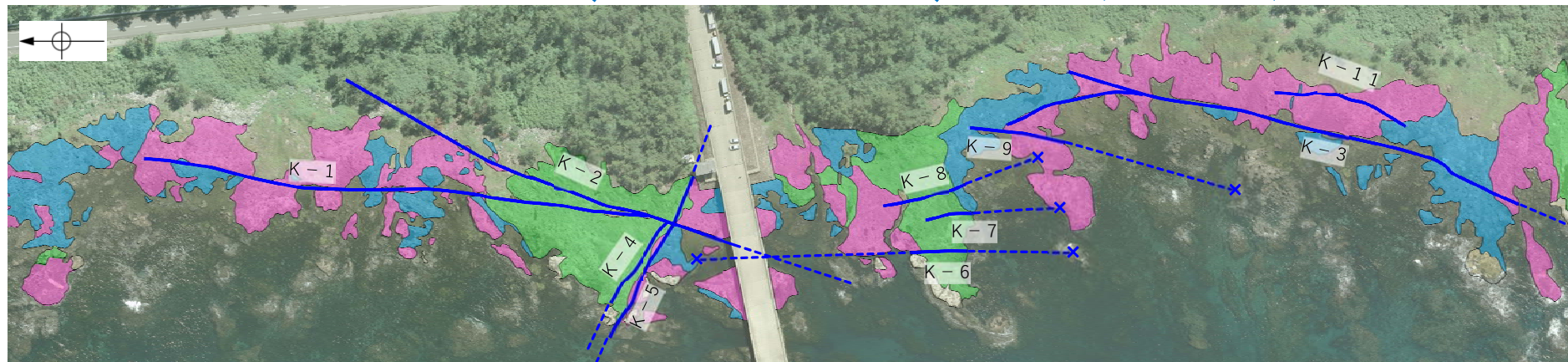
・海岸部露岩域において、開析谷の方向に断層は認められない。

開析谷①

開析谷②

開析谷③

開析谷④



凡例

- 穴水累層 安山岩(均質)
- 穴水累層 安山岩(角礫質)
- 穴水累層 凝灰角礫岩

断層(地表面)
(破線はさらに延長する可能性がある箇所)

- 断層延長部の露岩域で断層が認められないことを確認したもの
- 断層端部を確認していないもの

海岸部露岩域 空中写真

補足資料2. 2-1

破砕部周辺の岩石名についての2017.3.10審査会合前後
における対応関係

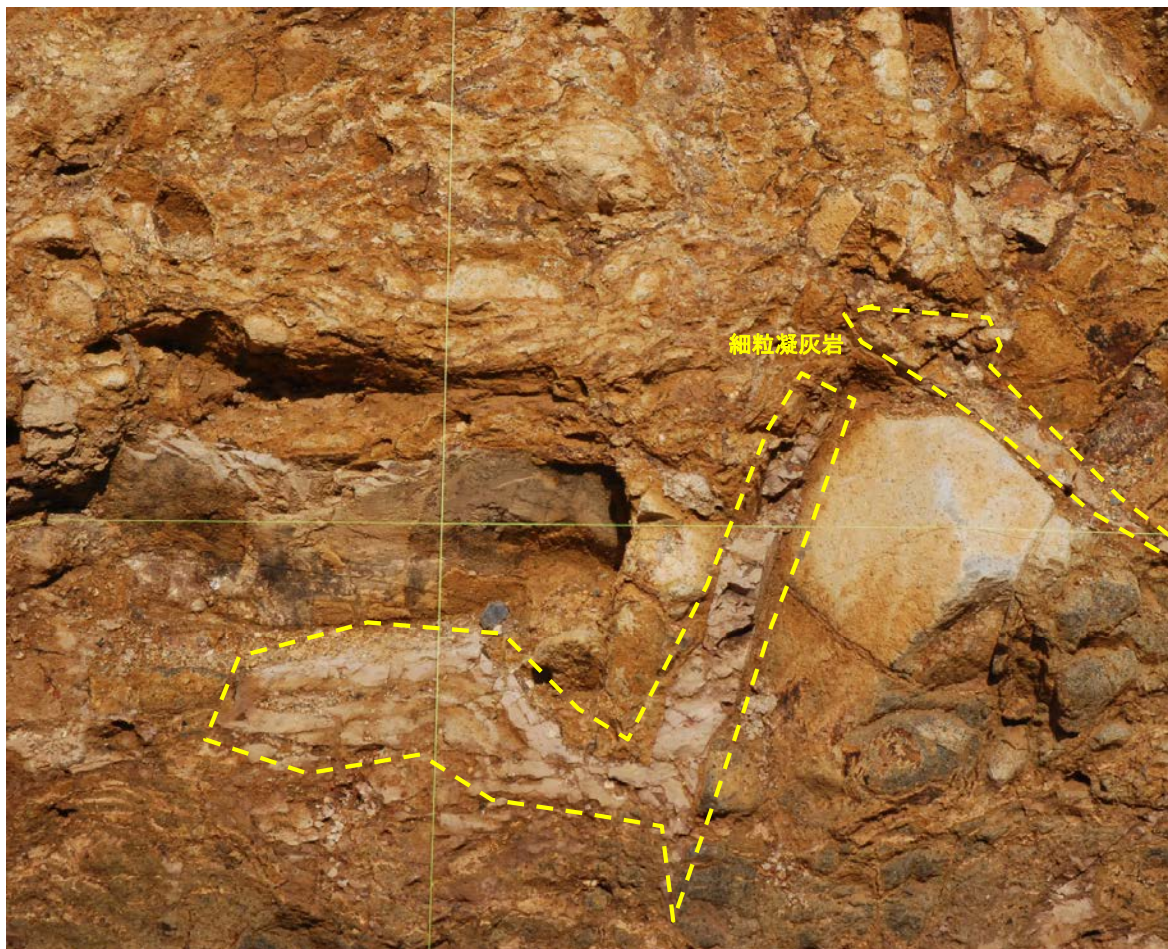
■2017年3月10日審査会合前後における破砕部周辺の岩石名の関係について、整理した結果を以下に示す。

2016.6.10審査会合時		2017.3.10審査会合以降	
凝灰質な細粒部	<ul style="list-style-type: none"> ・帯状を呈する火山碎屑岩中において、主として凝灰質な細粒分が集中して分布する部分をいう。 ・しばしば塑性流動状の組織・構造を示す。赤褐色等を呈する固結した細粒岩相で、線状ないし帯状に分布する。 	細粒凝灰岩	<ul style="list-style-type: none"> ・火山碎屑岩のうち、構成粒子の粒径が2mmより小さく、細粒分が卓越するもの。 ・目視観察により変形構造は認められない。 (P.2.2-1-3 例1, 例2)
		固結した粘土・砂状破砕部	<ul style="list-style-type: none"> ・目視観察により主せん断面と関連していると考えられる変形構造(塑性流動状の構造や礫の配列等)が認められる。(P.2.2-1-4 例1) ・目視観察による主せん断面直近のせん断構造は不明瞭であるが、その周辺を観察した結果、主せん断面と関連すると考えられる変形構造(塑性流動状の構造や礫の配列等)が認められる。(P.2.2-1-4 例2) <p style="text-align: center;">↓</p> <p>上記のような変形構造が認められる場合に、断層運動に伴うせん断変形が想定され、このような構造の箇所を破砕部としている。</p>
帯状を呈する火山碎屑岩	<ul style="list-style-type: none"> ・中新統の穴水累層中において、平面的または断面的に見て帯状に分布している凝灰角礫岩や火山礫凝灰岩等をいう。 ・周辺岩盤との境界は、凹凸に富んでいることが多く、不明瞭(漸移的)な箇所もある。周辺岩盤に比較し、礫径が小さいこと、基質の比率が大きいこと等から識別される。帯状を呈する火山碎屑岩中の礫と基質は穴水累層の岩石に由来する。しばしば塑性流動状の組織・構造を示す。周辺の穴水累層と同様に岩石化しており、固結した角礫岩の様相を呈する。 	凝灰角礫岩 または 火山礫凝灰岩	<ul style="list-style-type: none"> ・細粒マトリックスをもつ火山碎屑岩のうち、礫の粒径が64mmより大きいもの(凝灰角礫岩) ・細粒マトリックスをもつ火山碎屑岩のうち、礫の粒径が2~64mmのもの(火山礫凝灰岩) ・目視観察により変形構造は認められない。 (P.2.2-1-5 例1)
		固結した角礫状破砕部	<ul style="list-style-type: none"> ・目視観察により主せん断面と関連していると考えられる変形構造(塑性流動状の構造や礫の配列等)が認められる。(P.2.2-1-5 例2) <p style="text-align: center;">↓</p> <p>上記のような変形構造が認められる場合に、断層運動に伴うせん断変形が想定され、このような構造の箇所を破砕部としている。</p>

・2016年6月10日審査会合時は、分布形態と岩相から当サイト固有の名称を使用していたが、2017年3月10日審査会合以降、目視観察において主せん断面と関連していると考えられる変形構造(塑性流動状の構造や礫の配列等)を断層運動に伴うせん断変形によるものと判断し、このような変形構造が認められる箇所を「破砕部」と記載している。

・凝灰質な細粒部または帯状を呈する火山碎屑岩としていた箇所には、変形構造の有無により、破砕部である箇所と破砕部ではない箇所に区分される。

例1



S-7 取水槽付近トレンチ 東壁面写真

- ・壁面に細粒凝灰岩が屈曲して分布している。
- ・せん断面は存在せず、内部及びその周辺にもせん断に伴う塑性流動状の構造や礫の配列は認められない。
- ・2016年6月10日審査会合時はこのような細粒凝灰岩も凝灰質な細粒部としていた。

例2



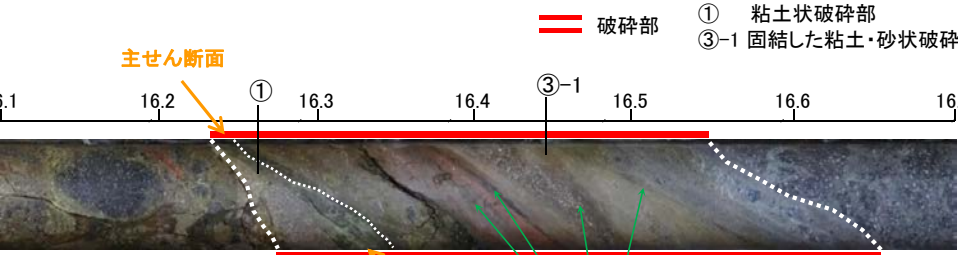
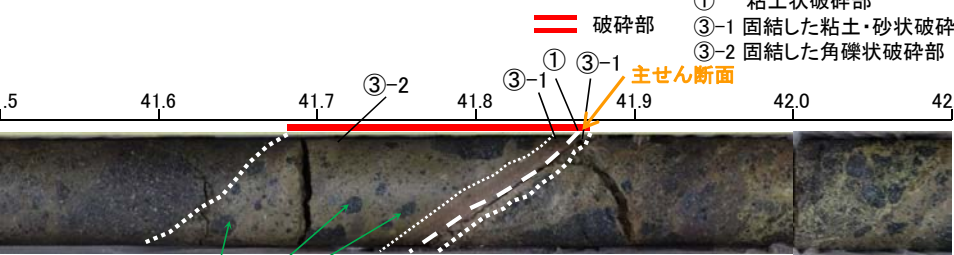


サイトから約4km北方の海岸部写真(遠景)



サイトから約4km北方の海岸部写真(近景)

- ・波蝕台に細粒凝灰岩が屈曲して分布している。
- ・せん断面は存在せず、内部及びその周辺にもせん断に伴う塑性流動状の構造や礫の配列は認められない。
- ・2016年6月10日審査会合時はこのような細粒凝灰岩も凝灰質な細粒部としていた。

<p style="text-align: center;">例1</p> <p>目視観察により主せん断面と関連していると考えられる変形構造が認められるもの</p>	<p style="text-align: center;">例2</p> <p>目視観察による主せん断面直近のせん断構造は不明瞭であるが、その周辺を観察した結果、主せん断面と関連すると考えられる変形構造が認められるもの</p>
<p style="text-align: right;">(m)</p>  <p style="text-align: center;">コア写真(O-17孔)</p>	<p style="text-align: right;">(m)</p>  <p style="text-align: center;">コア写真(O-17.3孔)</p>
 <p style="text-align: center;">主せん断面の構造に調和的な変形構造が認められる</p> <p style="text-align: center;">コア写真(O-17孔 解釈線あり)</p>	 <p style="text-align: center;">主せん断面の構造に調和的な方向に礫が配列</p> <p style="text-align: center;">コア写真(O-17.3孔 解釈線あり)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・細粒凝灰岩中には主せん断面と関連していると考えられる変形構造(塑性流動状の構造や礫の配列)が認められる。 ・この変形構造が認められる範囲を破碎部とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・細粒凝灰岩中には主せん断面直近のせん断構造は不明瞭であるが、その周辺には主せん断面と関連していると考えられる変形構造(礫の配列)が認められる。 ・この変形構造が認められる範囲を破碎部とした。

2016.6.10審査会合時



海岸部 K-2断層付近写真

2017.3.10審査会合以降



海岸部 K-2断層付近写真(解釈あり)



- 凝灰角礫岩
- 帯状を呈する火山碎屑岩

海岸部 K-2断層付近スケッチ



- 凝灰角礫岩
- 火山礫凝灰岩
- 固結した破碎部

海岸部 K-2断層付近スケッチ

- ・火山礫凝灰岩中には、主せん断面と関連していると考えられる変形構造(塑性流動状の構造や礫の配列)が認められる。
- ・この変形構造が認められる範囲を固結した破碎部としている(図中黄色)。
- ・2016年6月10日審査会合時は変形構造の有無に関わらずこのような火山礫凝灰岩を帯状を呈する火山碎屑岩としていた。

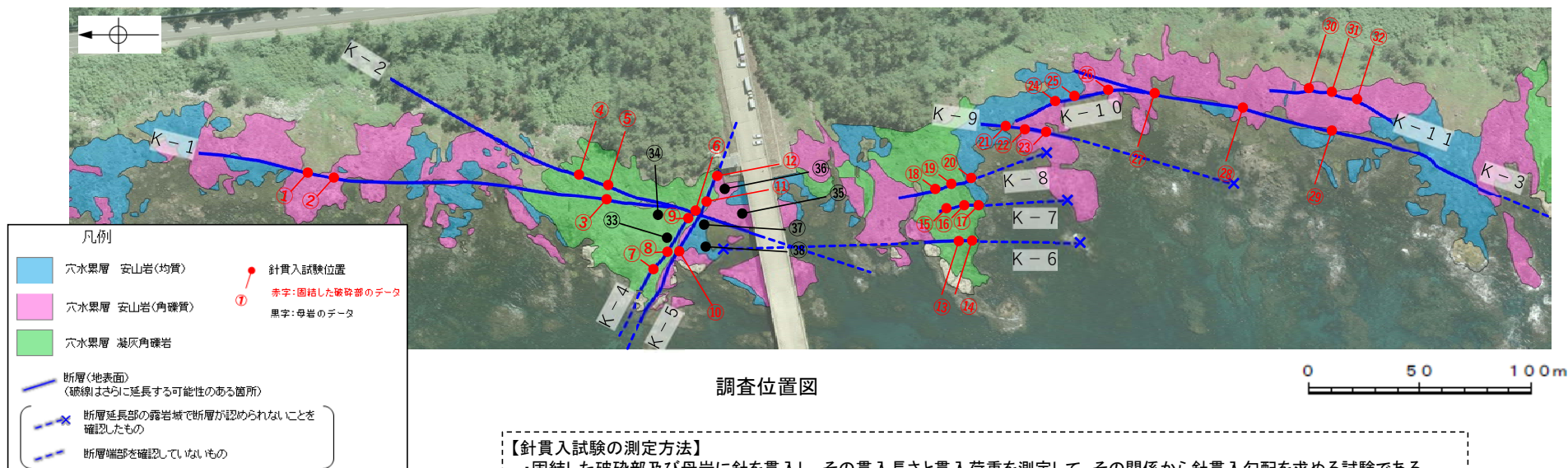
余白

補足資料2. 2-2

固結した破砕部と岩盤の針貫入試験結果

固結した破碎部と岩盤の針貫入試験結果

■ 固結した破碎部の固結度を確認するため、固結した破碎部と母岩の3岩種について、針貫入試験を行った結果を以下に示す。



【針貫入試験の測定方法】

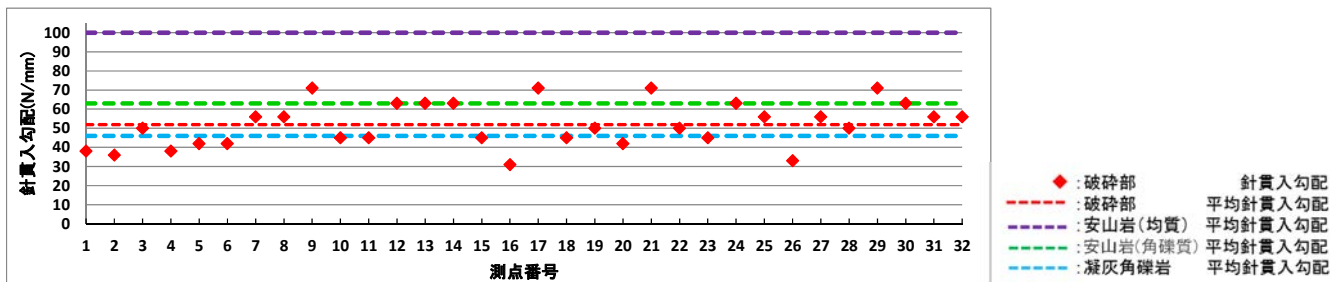
- 固結した破碎部及び母岩に針を貫入し、その貫入長さと同貫入荷重を測定して、その関係から針貫入勾配を求める試験である。
- 試験にあたり、各測定番号に対して5点の計測を行い、その平均値をその測定番号の針貫入勾配値*とした。
- なお、測定は、できるだけ平滑な箇所で、固結した破碎部の幅を概ね等間隔で横断するように行い、基質を対象に実施した。
- *貫入深さ1mm未満で貫入荷重100Nに達した計測値は針貫入勾配を100N/mmとして算出

固結した破碎部の針貫入試験結果

測点番号	針貫入勾配 (N/mm)	測点番号	針貫入勾配 (N/mm)
①	38	⑬	71
②	36	⑭	45
③	50	⑮	50
④	38	⑯	42
⑤	42	⑰	71
⑥	42	⑱	50
⑦	56	⑲	45
⑧	56	⑳	63
⑨	71	㉑	56
⑩	45	㉒	33
⑪	45	㉓	56
⑫	63	㉔	50
⑬	63	㉕	71
⑭	63	㉖	63
⑮	45	㉗	56
⑯	31	㉘	56
平均値 52N/mm			

母岩の針貫入試験結果

凝灰角礫岩		安山岩(角礫質)		安山岩(均質)	
測点番号	針貫入勾配(N/mm)	測点番号	針貫入勾配(N/mm)	測点番号	針貫入勾配(N/mm)
⑳	42	㉑	63	㉒	100(以上)
㉓	50	㉔	63	㉕	100(以上)
平均値 46N/mm		平均値 63N/mm		平均値 100(以上)N/mm	



各測点位置における破碎部と母岩の針貫入勾配の比較

・ 固結した破碎部は、母岩である凝灰角礫岩や安山岩(角礫質)と同程度の硬さを有している。

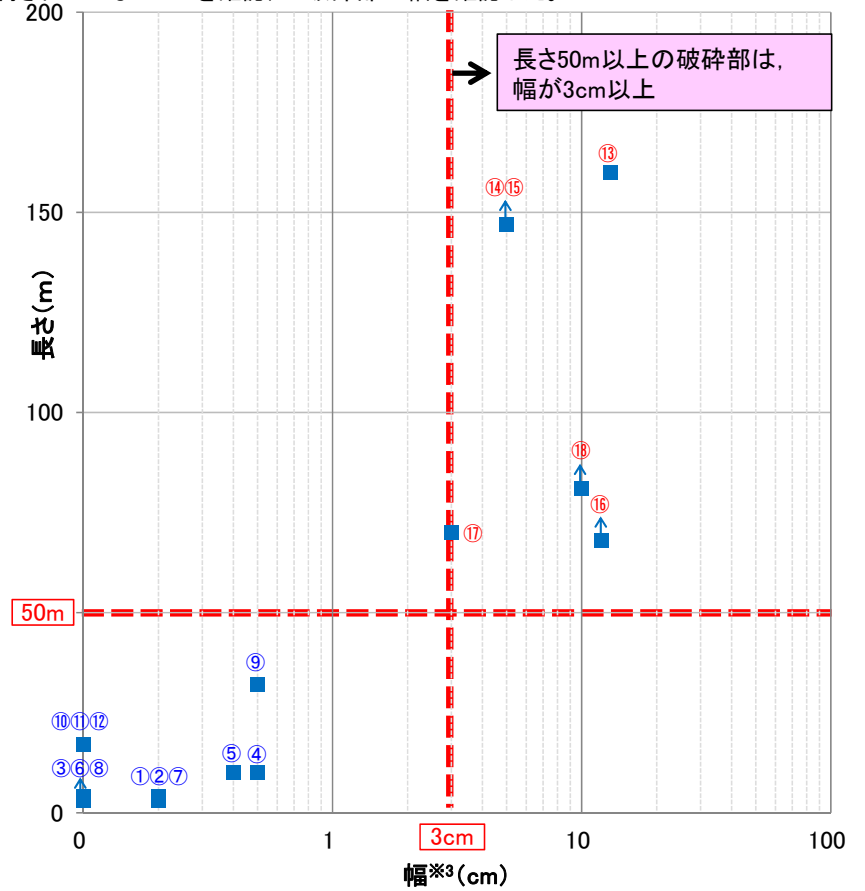
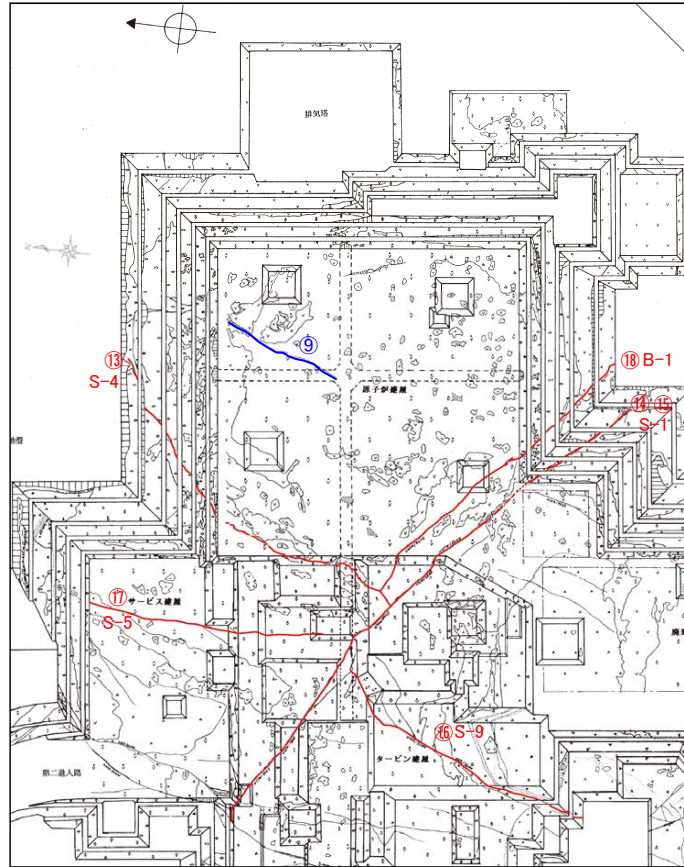
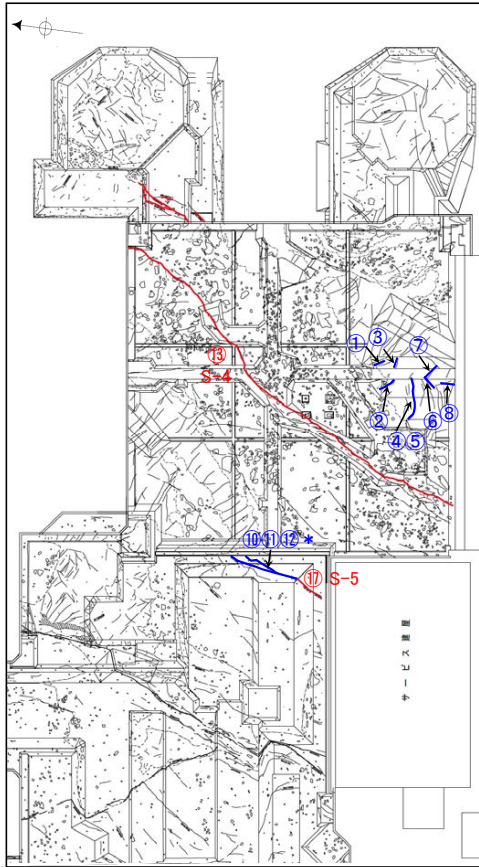
補足資料2. 3-1

破砕部の幅と長さの関係

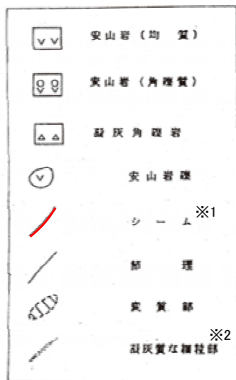
検討対象とする破砕部の抽出

■本サイトの断層の特性を把握し連続性の検討対象とする破砕部の抽出を行うために、試掘坑で確認した破砕部(幅のデータ)と基礎掘削面で確認した破砕部(長さのデータ)を対応させ、破砕部の幅と長さを検討した(各詳細データについては、次頁以降参照)。検討にあたっては、破砕部の幅が0cmのものも含めて検討し、破砕部の小さいものが、破砕部の大きいものを規制していないか確認した。

■破砕部の幅と長さの関係が明らかとなった全18データを用いて、長さ50m以上(長さ50m未満の破砕部に分布を規制されていないことを確認)の破砕部の幅を確認した。



○番号: 試掘坑と基礎掘削面に対応が確認できた破砕部 (右のグラフと共通番号)
赤字は長さ50m以上のもの
青字は長さ50m未満のもの
*: ⑩~⑫は破砕部の幅が0cmで、破砕部が認められる⑰とは建設時スケッチ上でも区別されていることから、⑰とは別に個別で評価する。



2号機基礎掘削面

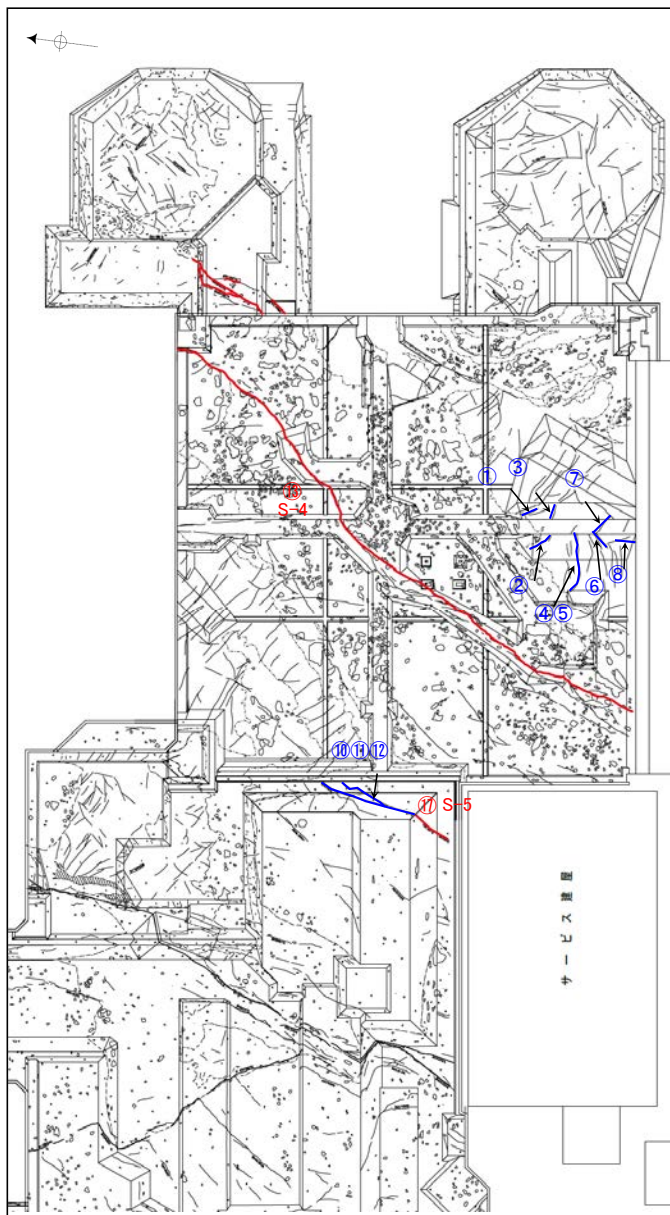
1号機基礎掘削面

・破砕部の長さが長いほど幅が厚い傾向があり、長さ50m以上の破砕部は幅が3cm以上である。

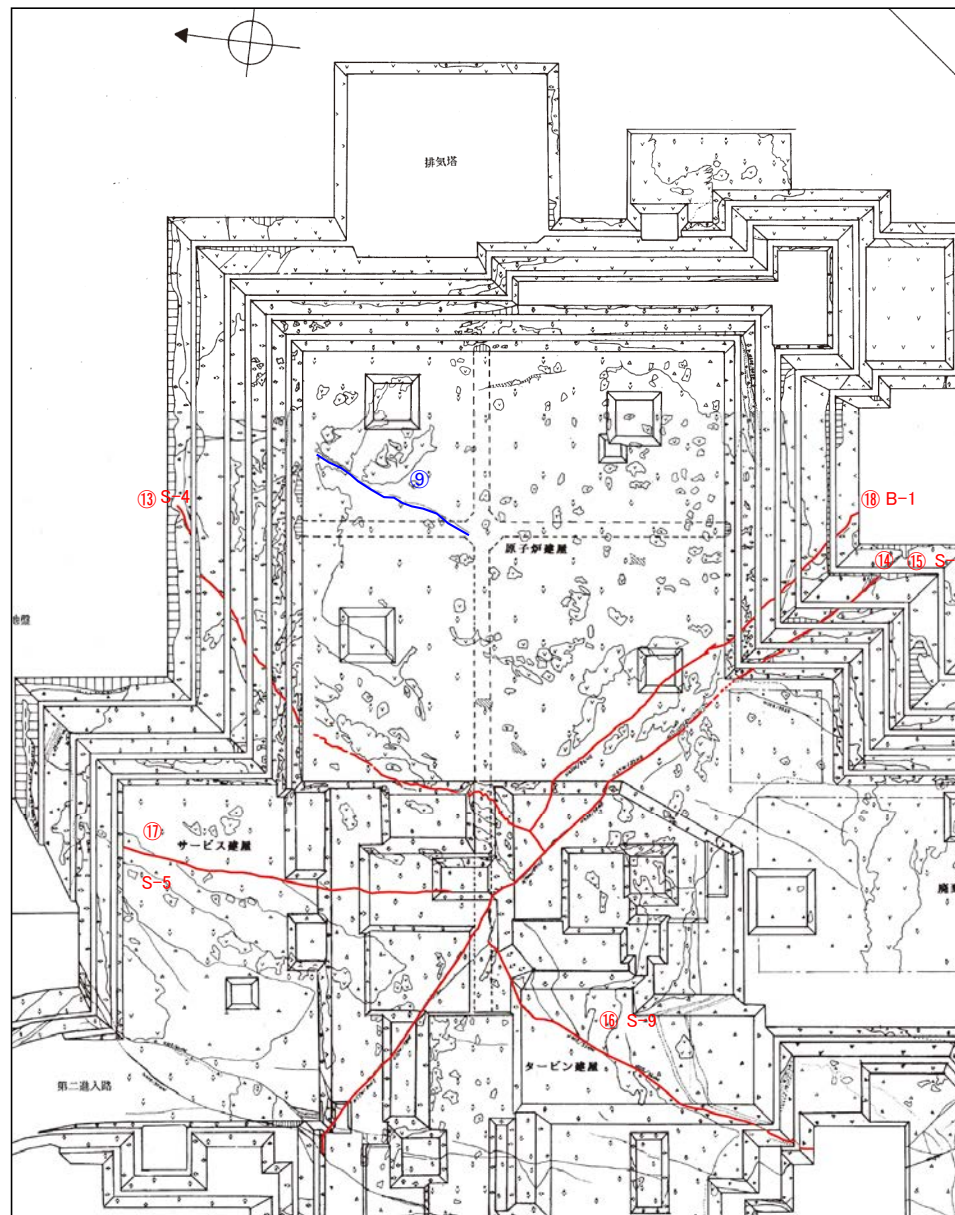
・よって、破砕部の連続性の検討においては、破砕部の幅3cm以上のものを対象とする。

※1: スケッチ時の記載用語。「粘土状破砕部」に対応する。
※2: スケッチ時の記載用語。「固結した粘土・砂状破砕部」に対応する。

各データ 全体位置図



2号機基礎掘削剖面



1号機基礎掘削剖面

凡 例

	安山岩(均質)
	安山岩(角礫質)
	凝灰角礫岩
	安山岩礫
	シ ー ※1
	節 理
	変 質 部
	凝灰質な細粒部 ※2

※1 スケッチ時の記載用語。「粘土状破砕部」に対応する。

※2 スケッチ時の記載用語。「固結した粘土・砂状破砕部」に対応する。

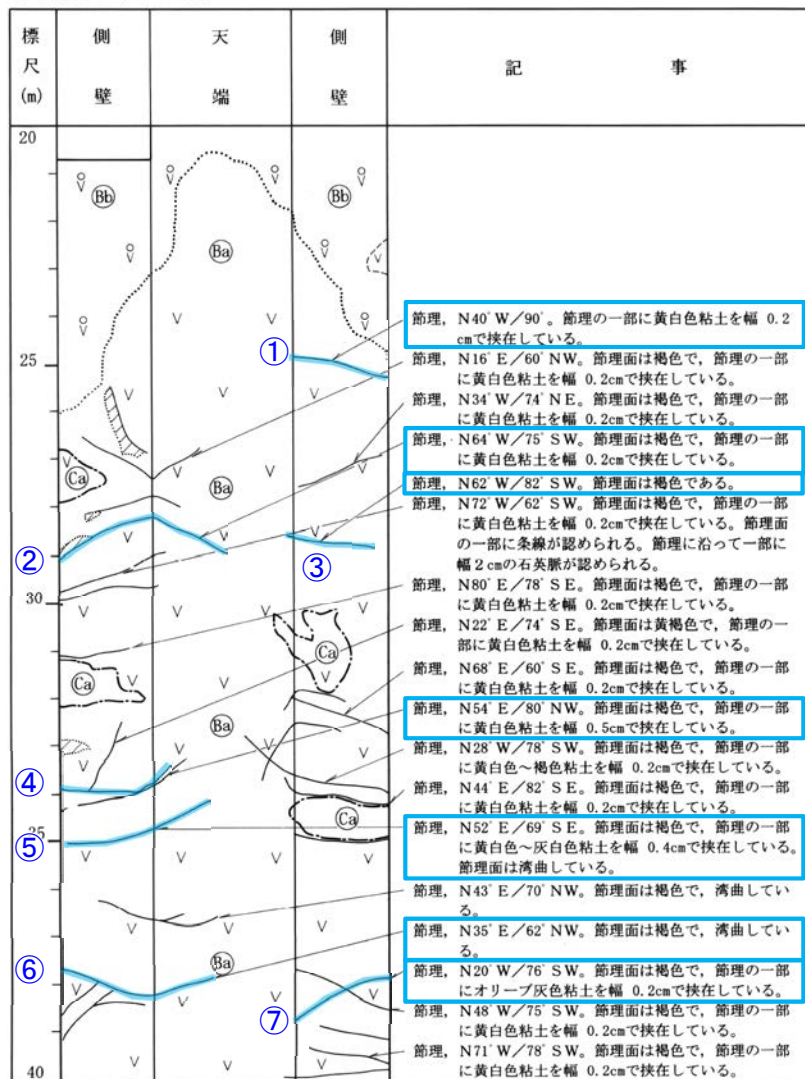
○番号: 試掘坑と基礎掘削面に対応が確認できた破砕部

赤字は長さ50m以上のもの

青字は長さ50m未満のもの

試掘坑調査結果(2号炉試掘坑A)

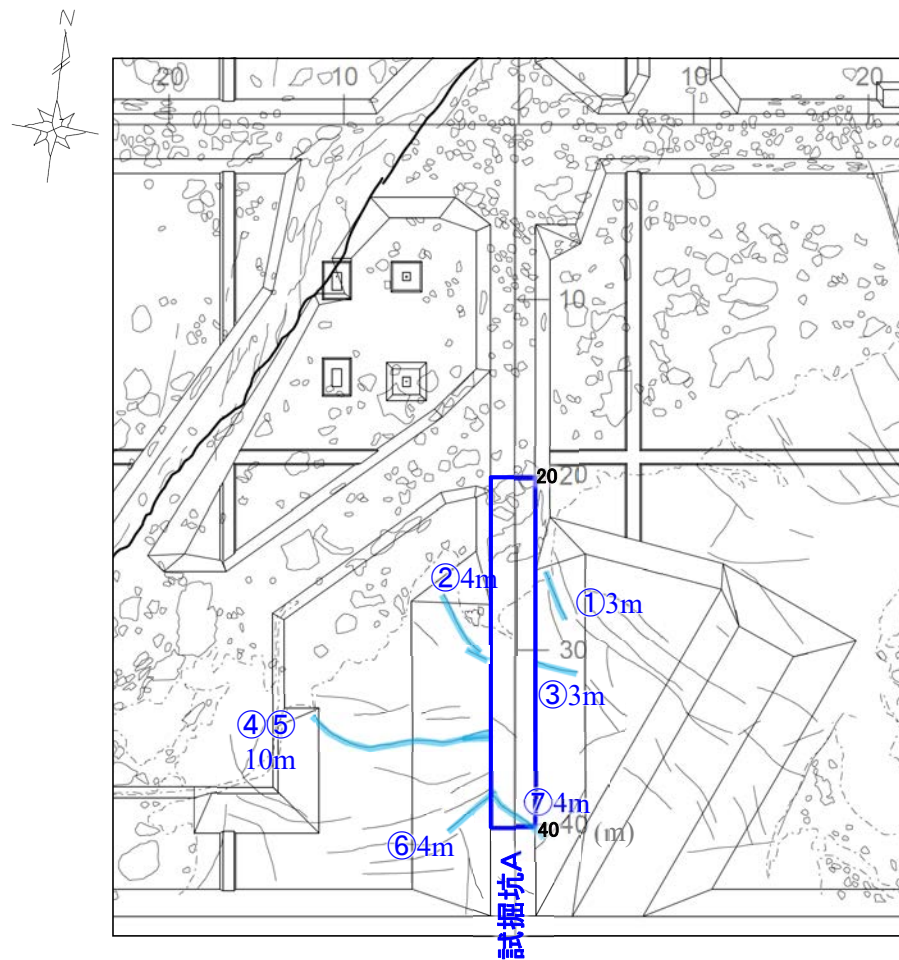
試掘坑A (4の2)



試掘坑展開図

番号	破砕部の幅	備考
①	0.2cm	記事欄に記載の黄白色などの粘土は、スケッチ時の記載用語。「粘土状破砕部」に対応する。なお、周辺には固結した粘土・砂状破砕部に対応する記載はない。
②	0.2cm	
③	0cm	
④	0.5cm	
⑤	0.4cm	
⑥	0cm	
⑦	0.2cm	

基礎掘削面調査結果(2号機)



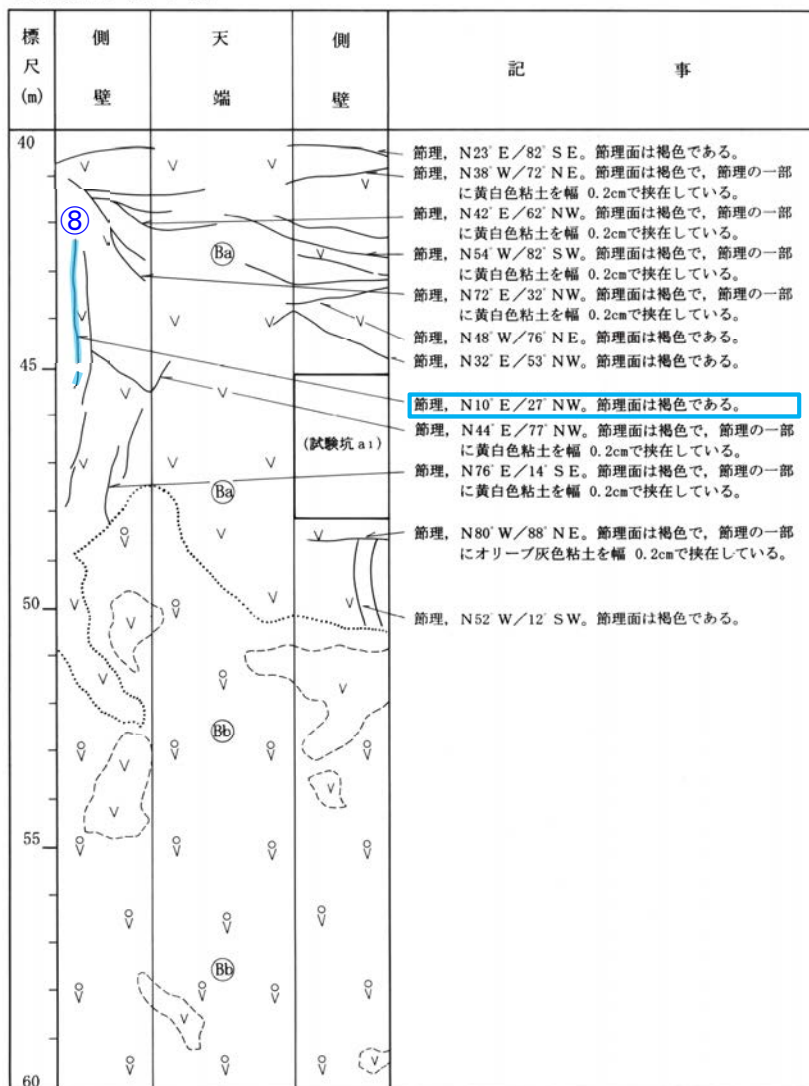
基礎掘削面スケッチ(2号機)

番号	破砕部の長さ	備考
①	3m	基礎掘削面スケッチ上の長さ
②	4m	
③	3m	
④	10m	
⑤	10m	
⑥	4m	
⑦	4m	

試掘坑調査結果 (2号炉試掘坑A)

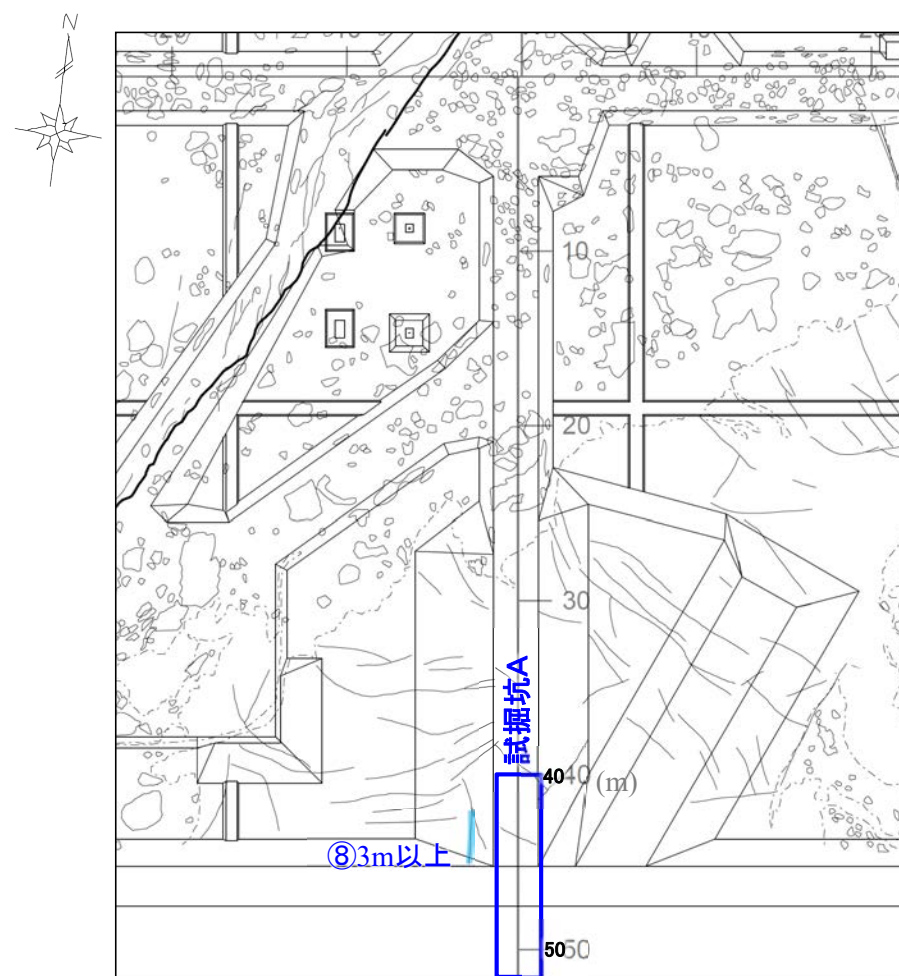
基礎掘削面調査結果 (2号機)

試掘坑A (4の3)



試掘坑展開図

番号	破碎部の幅	備考
⑧	0cm	記事欄に粘土状破碎部や固結した粘土・砂状破碎部に対応する記載はない。



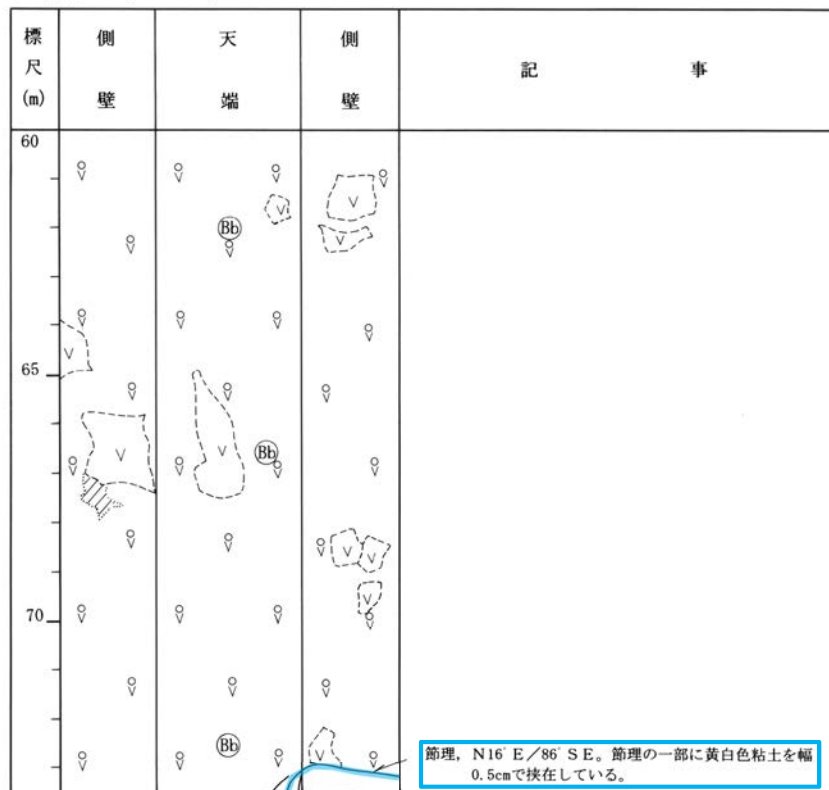
基礎掘削面スケッチ(2号機)

番号	破碎部の長さ	備考
⑧	3m以上	基礎掘削面スケッチ上の長さ

試掘坑調査結果 (2号炉試掘坑A)

基礎掘削面調査結果 (1号機)

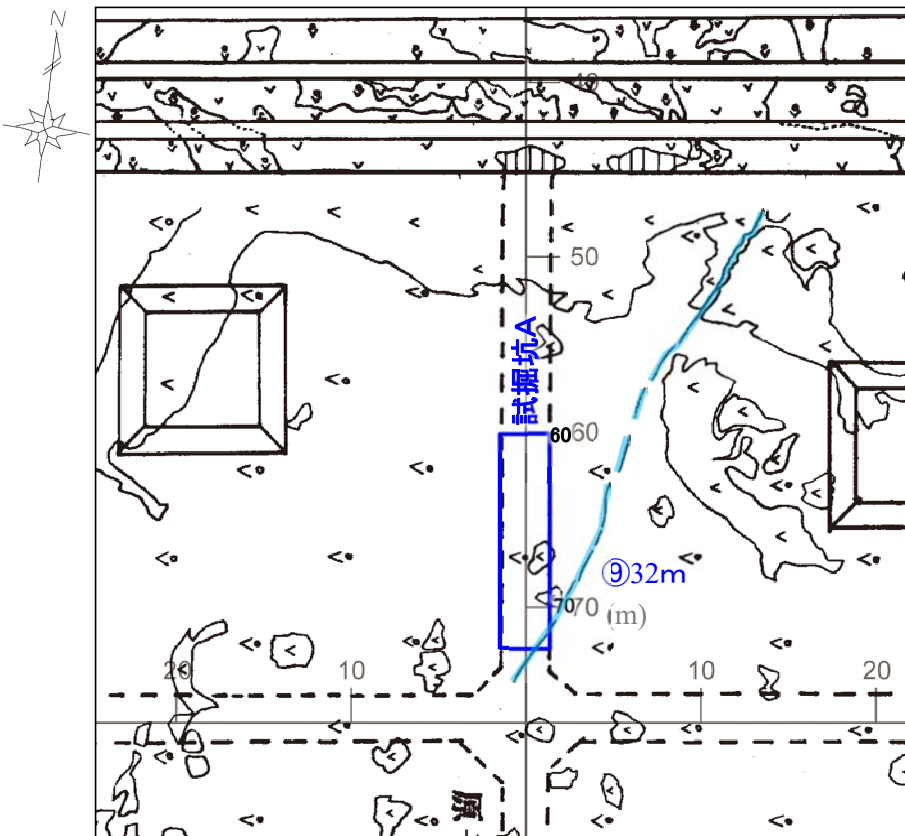
試掘坑A (4の4)



⑨

試掘坑展開図

番号	破碎部の幅	備考
⑨	0.5cm	記事欄に記載の黄白色粘土は、スケッチ時の記載用語。「粘土状破碎部」に対応する。なお、周辺には固結した粘土・砂状破碎部に対応する記載はない。



左展開図範囲



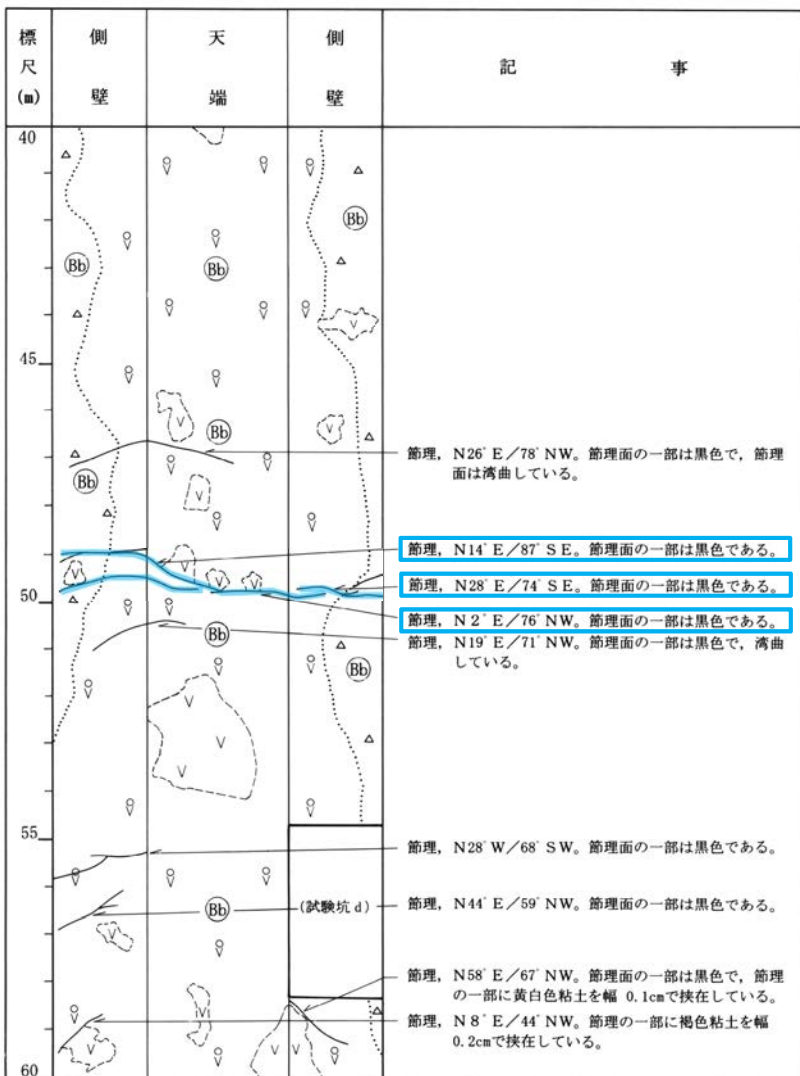
基礎掘削面スケッチ(1号機)

番号	破碎部の長さ	備考
⑨	32m	基礎掘削面スケッチ上の長さ

試掘坑調査結果 (2号炉試掘坑E)

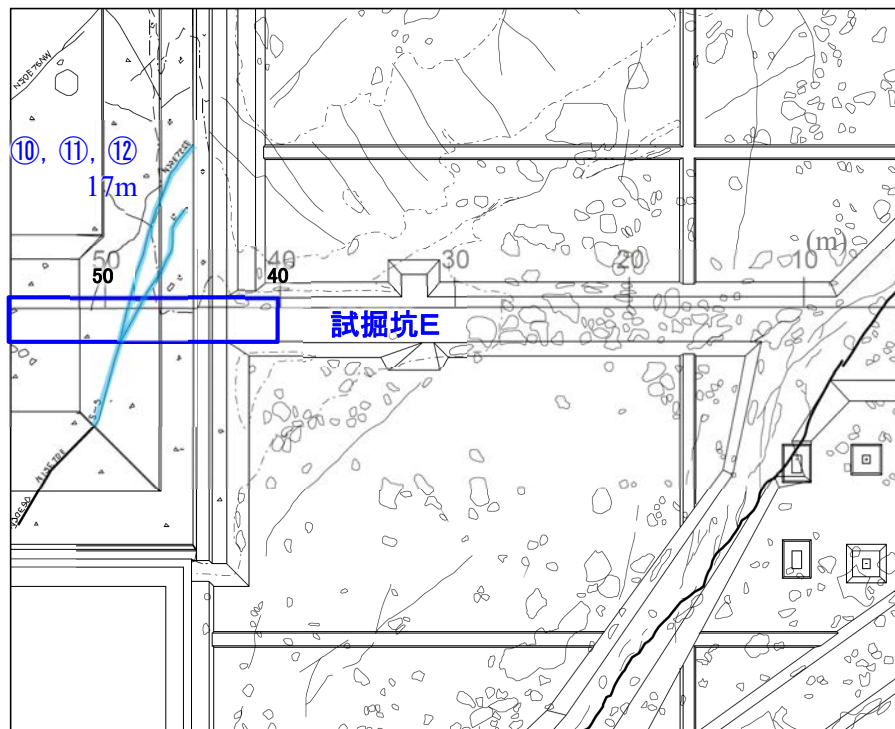
基礎掘削面調査結果 (2号機)

試掘坑E (4の3)



試掘坑展開図

番号	破砕部の幅	備考
⑩	0cm	記事欄に粘土状破砕部や固結した粘土・砂状破砕部に対応する記載はない。
⑪	0cm	
⑫	0cm	

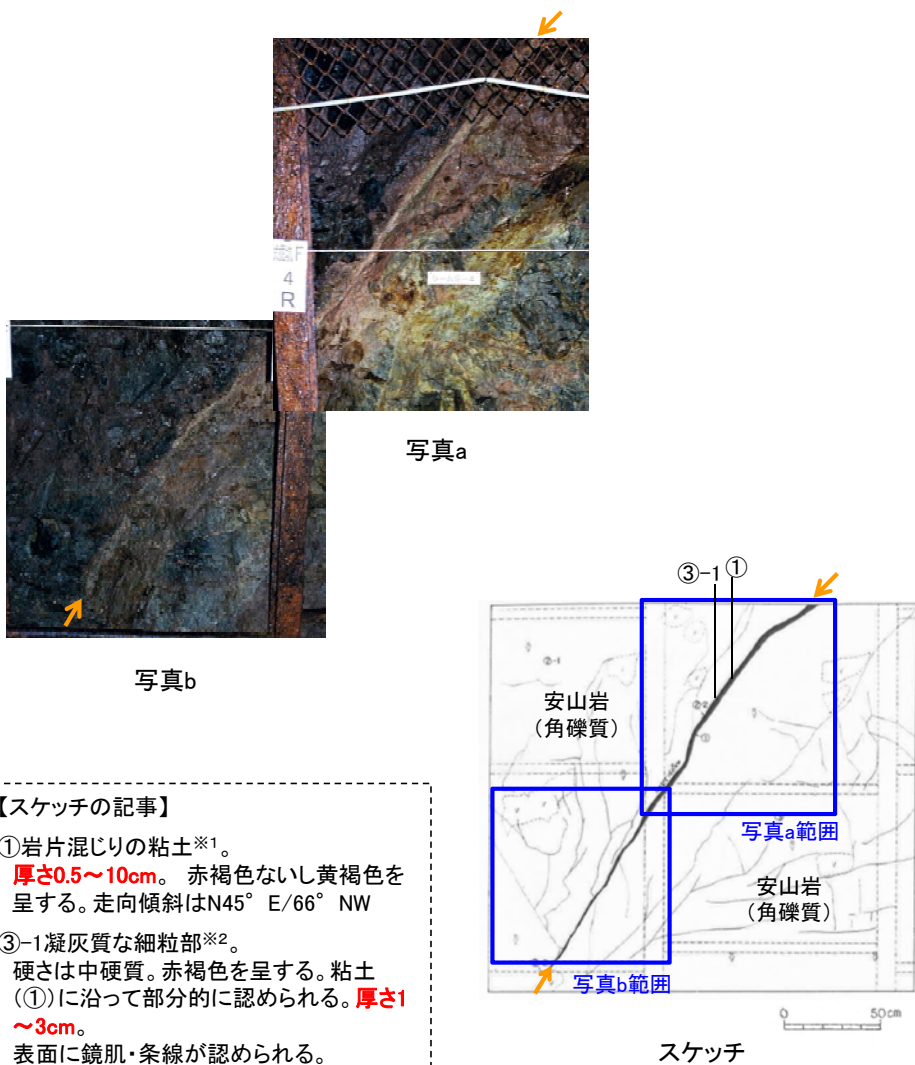


左展開図範囲

基礎掘削面スケッチ(2号機)

番号	破砕部の長さ	備考
⑩	17m	基礎掘削面スケッチ上の長さ
⑪	17m	
⑫	17m	

試掘坑調査結果 (2号炉試掘坑F 5~7m付近)(東側側壁)



【スケッチの記事】

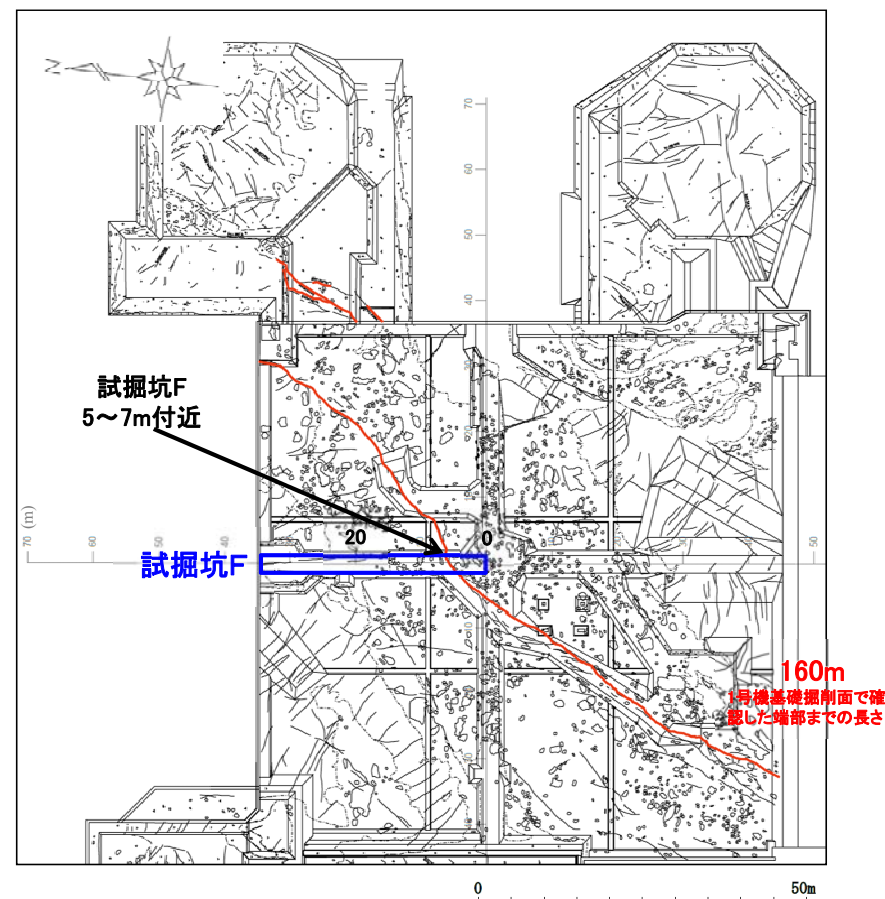
- ① 岩片混じりの粘土※1。
厚さ0.5~10cm。赤褐色ないし黄褐色を呈する。走向傾斜はN45° E/66° NW
- ③-1 凝灰質な細粒部※2。
硬さは中硬質。赤褐色を呈する。粘土(①)に沿って部分的に認められる。厚さ1~3cm。
表面に鏡肌・条線が認められる。

※1 スケッチ時の記載用語。「粘土状破砕部」に対応する。

※2 スケッチ時の記載用語。「固結した粘土・砂状破砕部」に対応する。

この事例における破砕部の幅は13cm(①+③-1)である。

基礎掘削面調査結果 (2号機)



基礎掘削面スケッチ(2号機)

この事例における破砕部の長さは160mである。

試掘坑調査結果
(1号炉試掘坑A 32m付近)(西側側壁)

基礎掘削面調査結果
(1号機)



写真



スケッチ

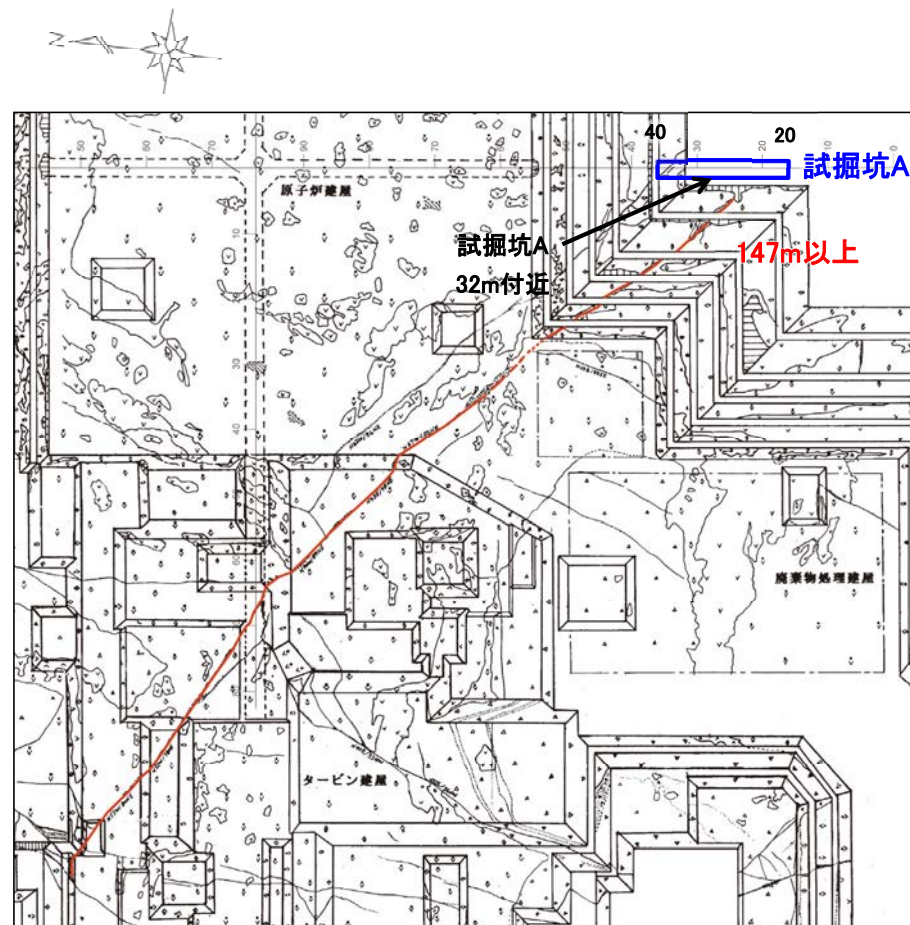
【スケッチの記事】

- ① 岩片混じりの粘土※1。
厚さ0.1~3cm。赤褐色ないし黄褐色を呈する。走向傾斜はN45° W/73° NE
- ③-1 凝灰質な細粒部※2。
硬さは中硬質。赤褐色を呈する。粘土(①)に沿って認められる。厚さ1~2cm。表面に鏡肌が認められる。

※1 スケッチ時の記載用語。「粘土状破砕部」に対応する。

※2 スケッチ時の記載用語。「固結した粘土・砂状破砕部」に対応する。

この事例における破砕部の幅は5cm(①+③-1)である。



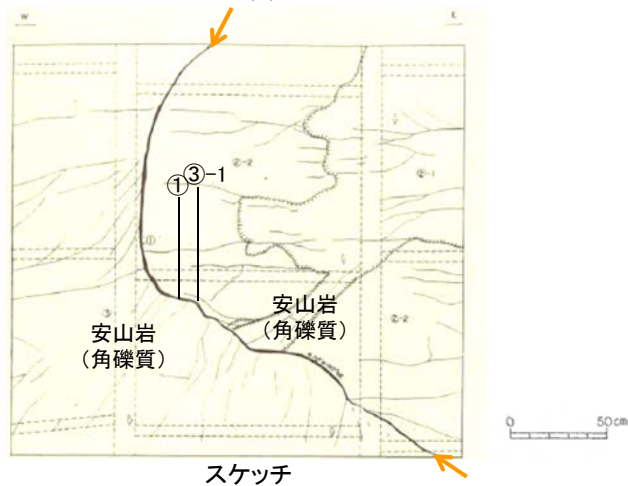
基礎掘削面スケッチ(1号機)

この事例における破砕部の長さは147m以上である。

試掘坑調査結果
(1号炉試掘坑C 68~70m付近)(北側側壁)



写真



スケッチ

【スケッチの記事】

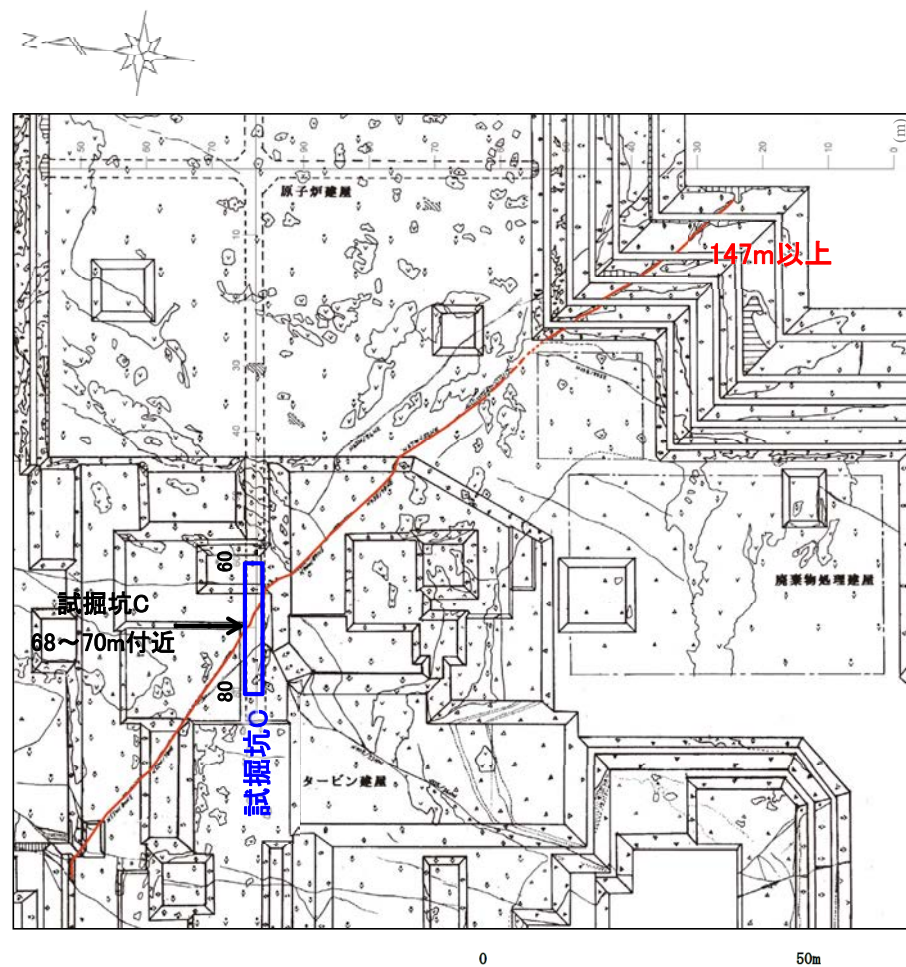
- ① 岩片混じりの粘土※1。
厚さ0.1~3cm。赤褐色ないし黄褐色を呈する。走向傾斜はN70° W/80° NE。
- ③-1 凝灰質な細粒部※2。
硬さは中硬質。赤褐色を呈する。粘土(①)に沿って認められる。厚さ1~2cm。
表面に鏡肌・条線が認められる。

※1 スケッチ時の記載用語。「粘土状破碎部」に対応する。

※2 スケッチ時の記載用語。「固結した粘土・砂状破碎部」に対応する。

この事例における破碎部の幅は5cm(①+③-1)である。

基礎掘削面調査結果
(1号機)



基礎掘削面スケッチ(1号機)

この事例における破碎部の長さは147m以上である。

試掘坑調査結果
(1号炉試掘坑C 72~73m付近)(南側側壁)



写真



スケッチ

【スケッチの記事】

① 岩片混じりの粘土※1。

厚さ0.5~2cm。赤褐色を呈する。走向傾斜はN58° E/50° NW。

③-1 凝灰質な細粒部※2。

硬さは中硬質。赤褐色を呈する。粘土(①)に沿って認められる。厚さ1~10cm。

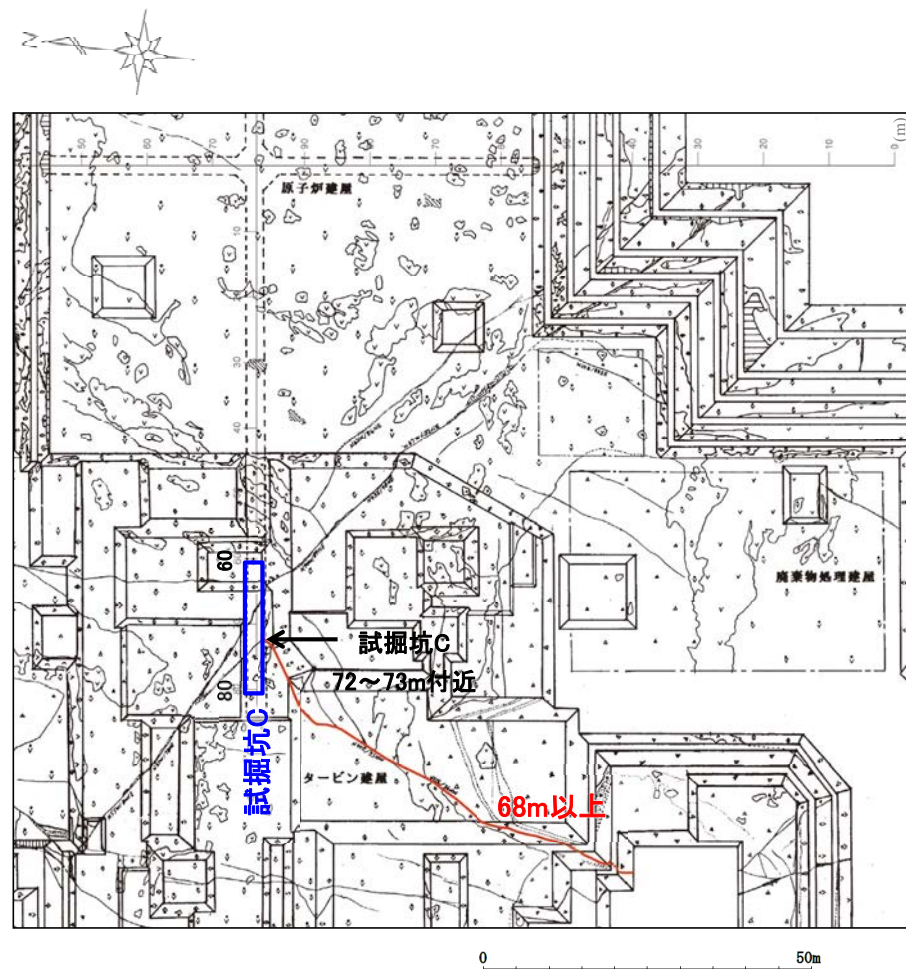
表面に鏡肌・条線が認められる。

※1 スケッチ時の記載用語。「粘土状破砕部」に対応する。

※2 スケッチ時の記載用語。「固結した粘土・砂状破砕部」に対応する。

この事例における破砕部の幅は12cm(①+③-1)である。

基礎掘削面調査結果
(1号機)



基礎掘削面スケッチ(1号機)

この事例における破砕部の長さは68m以上である。

試掘坑調査結果
(1号炉試験坑d)(切羽)



写真



スケッチ

【スケッチの記事】

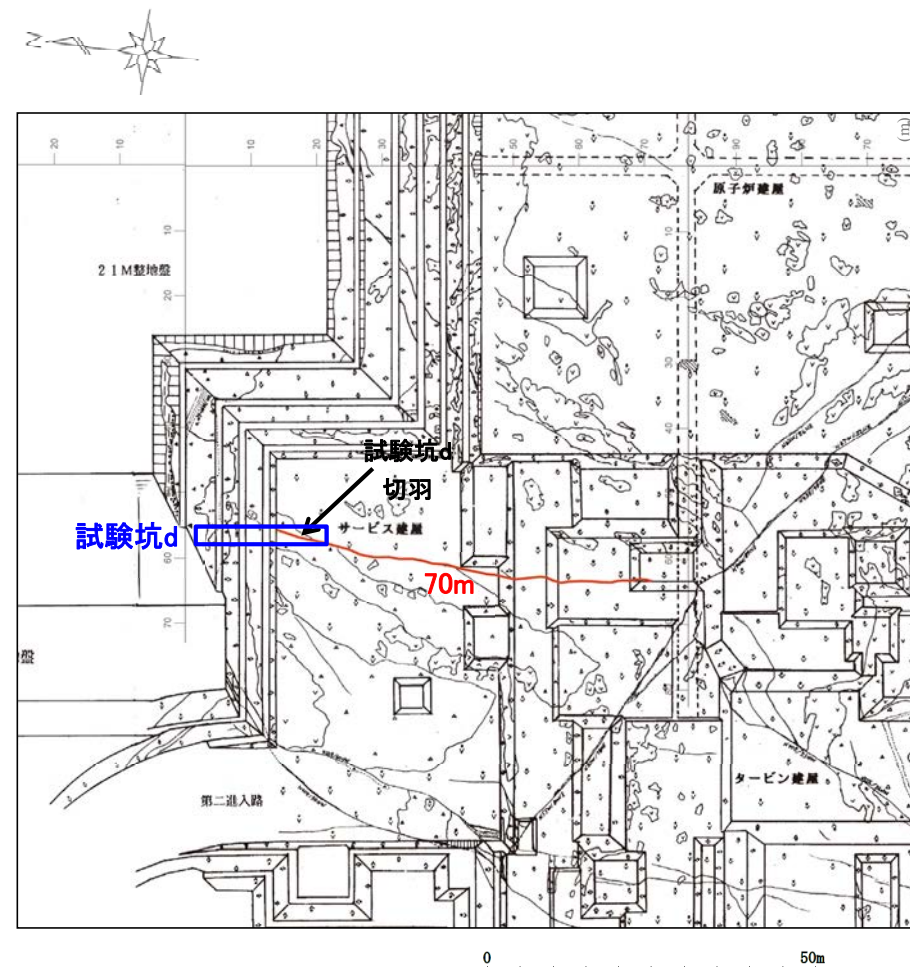
①岩片混じりの粘土※1。

厚さ0.1~3cm。赤褐色ないし黄褐色を呈する。走向傾斜はN15° E/88° NW。

※1 スケッチ時の記載用語。「粘土状破碎部」に対応する。なお、周辺には固結した粘土・砂状破碎部に対応する記載はない。

この事例における破碎部の幅は3cm(①)である。

基礎掘削面調査結果
(1号機)

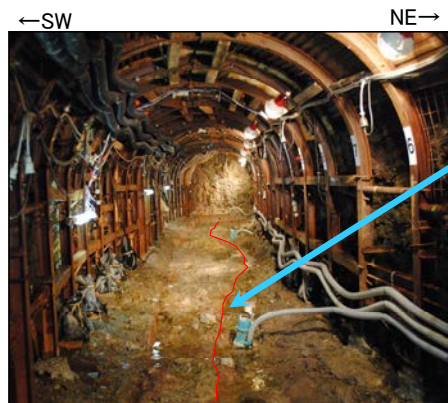


基礎掘削面スケッチ(1号機)

この事例における破碎部の長さは70mである。

岩盤調査坑調査結果

基礎掘削面調査結果 (1号機)

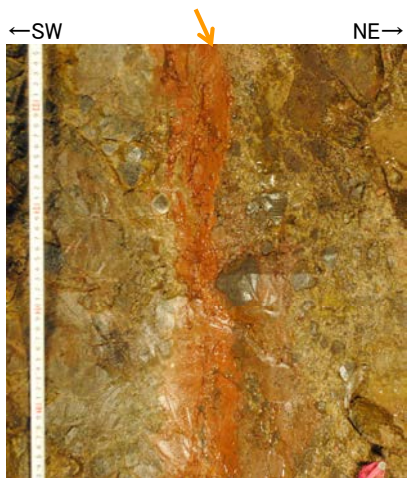


下記写真箇所

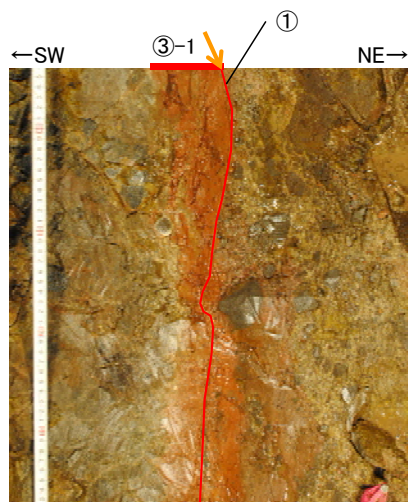
【破碎部の性状】

- ①粘土状破碎部。
厚さはフィルム状~0.5cm。
褐色~赤褐色を呈する。
走向傾斜はN30~75° W/78° NE~80° SW。
- ③-1固結した粘土・砂状破碎部。
硬さは中硬質。赤褐色を呈する。①に沿って部分的に認められる。厚さ0~10cm。

岩盤調査坑写真(全景写真)

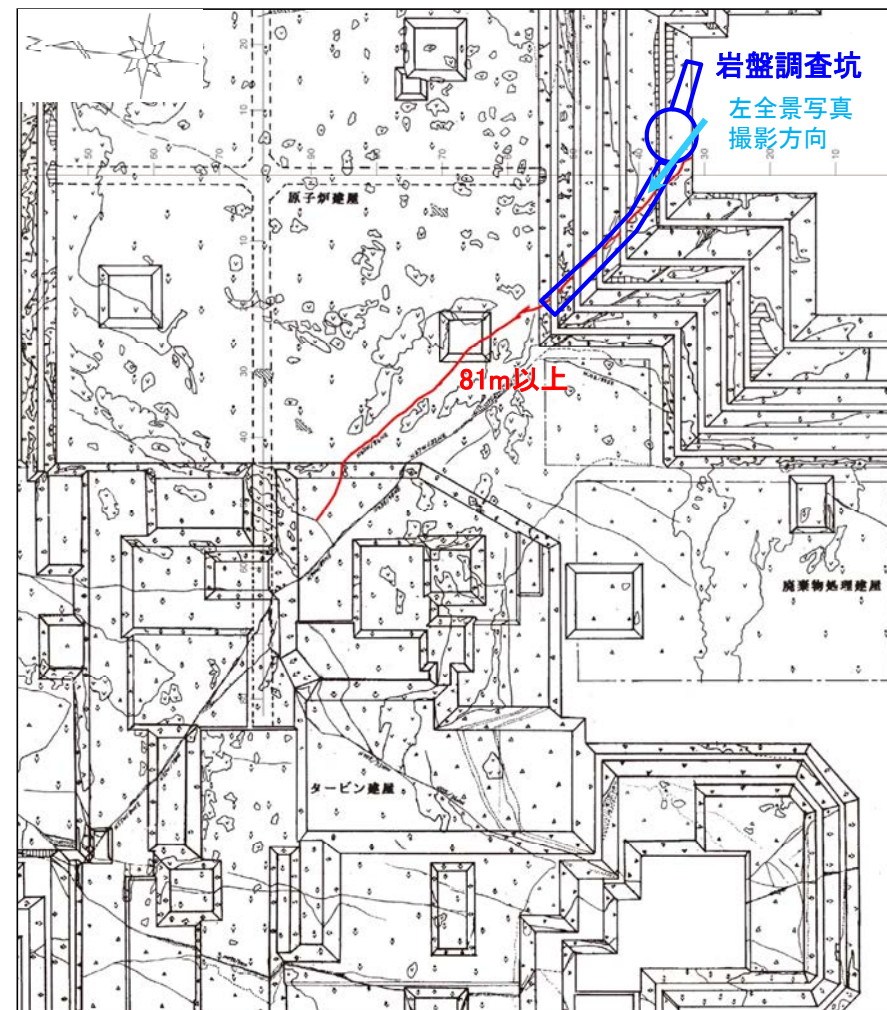


No.7付近底盤写真



No.7付近底盤写真(破碎部加筆)

この事例における破碎部の幅は10cm (①+③-1)である。



基礎掘削面スケッチ(1号機)

この事例における破碎部の長さは81m以上である。

余白

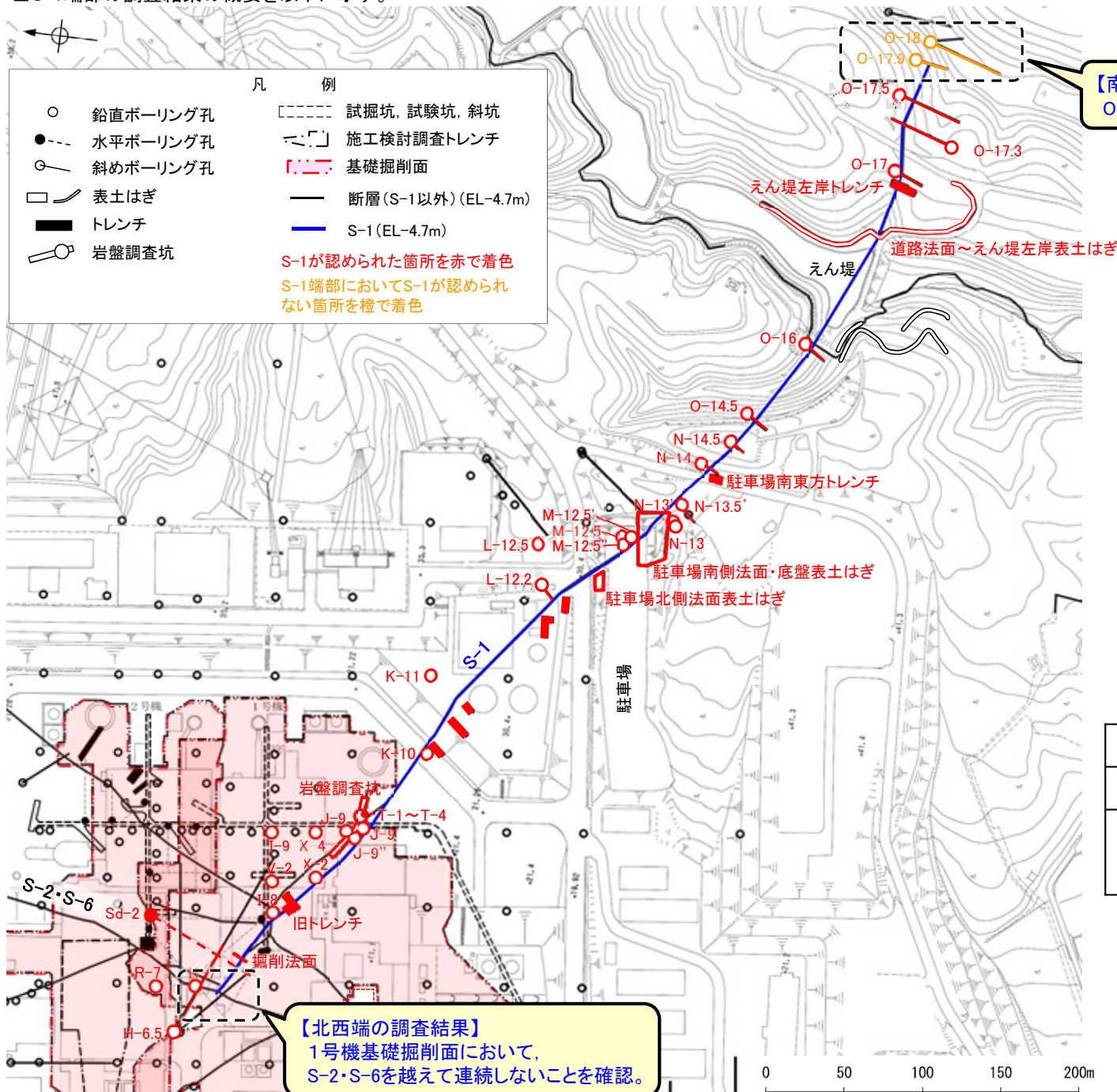
補足資料2. 3-2

断層端部の調査結果

(1) S-1端部の調査結果

S-1端部の調査結果 ー概要ー

■S-1端部の調査結果の概要を以下に示す。



- 凡 例
- 鉛直ボーリング孔
 - 水平ボーリング孔
 - 斜めボーリング孔
 - 表土はぎ
 - トレンチ
 - 🔍 岩盤調査坑
 - 試掘坑, 試験坑, 斜坑
 - ┌─┐ 施工検討調査トレンチ
 - ┌─┐ 基礎掘削面
 - 断層(S-1以外)(EL-4.7m)
 - S-1(EL-4.7m)
- S-1が認められた箇所を赤で着色
S-1端部においてS-1が認められない箇所を橙で着色

【南東端の調査結果】
O-17.9孔, O-18孔より南東方に連続しないことを確認。

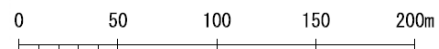
【北西端の調査結果】
1号機基礎掘削面において、S-2・S-6を越えて連続しないことを確認。

S-1端部の調査概要

位置	調査箇所	調査結果
北西端	1号機基礎掘削面	北西端の止め
南東端	O-17.9孔	南東端の止め
	O-18孔	

	延長	走向/傾斜
S-1	780m	N60°W / 80~70°NE*

* 走向は一般走向
傾斜は岩盤調査坑の値

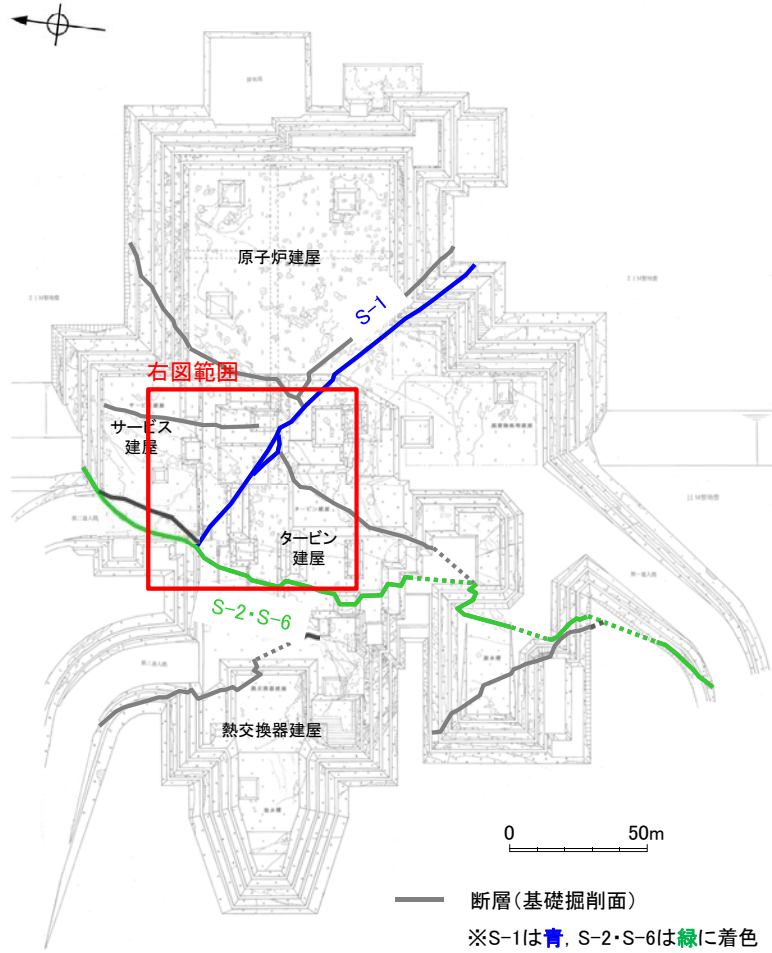


調査位置図

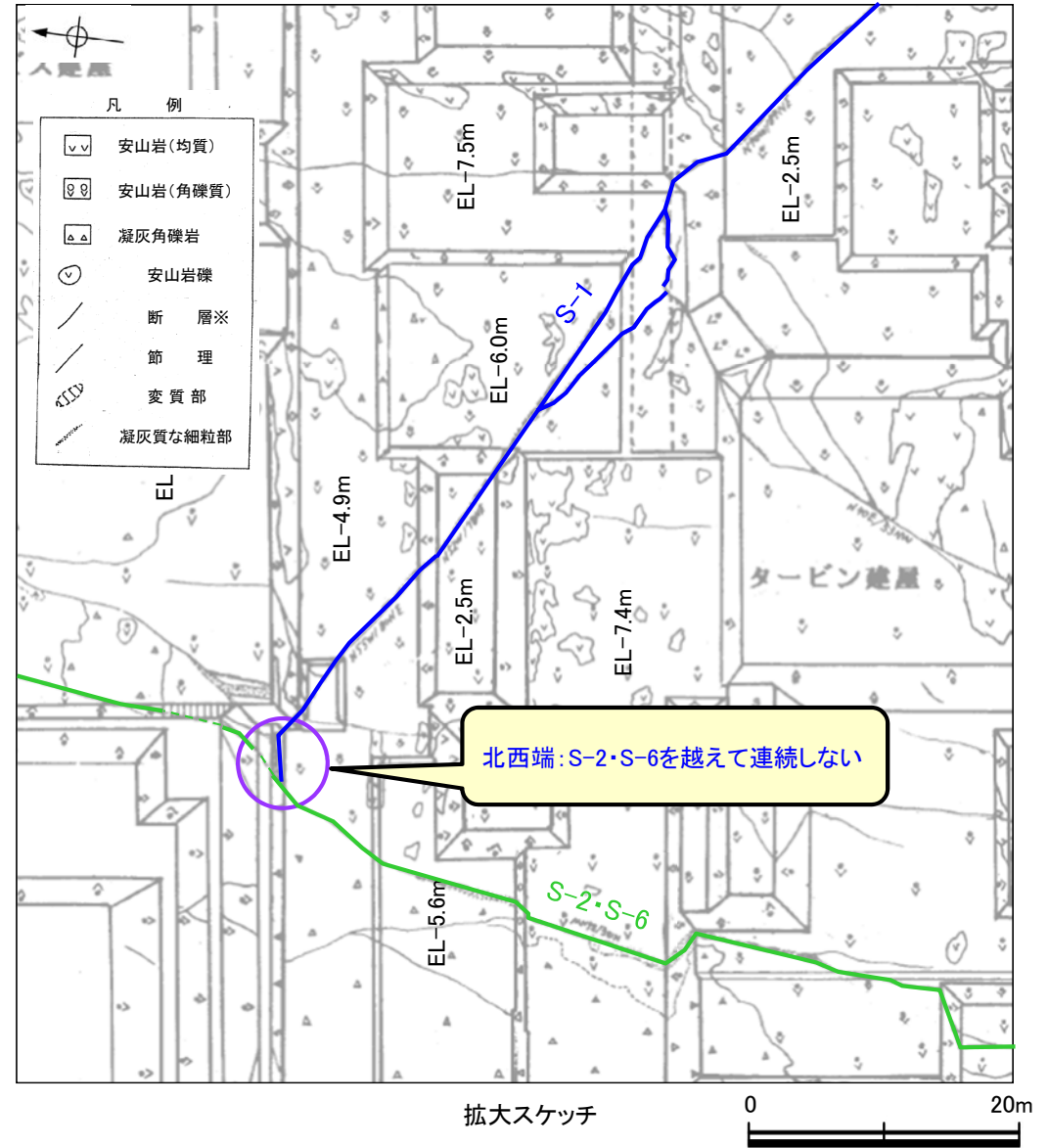
■S-1北西端の調査結果を以下に示す。

【S-1北西端の調査結果】
1号機基礎掘削面において、S-1はS-2・S-6を越えて連続しないことを確認。

※S-1は青、S-2・S-6は緑に着色



1号機基礎掘削面



拡大スケッチ

■S-1南東端の調査結果を以下に示す。

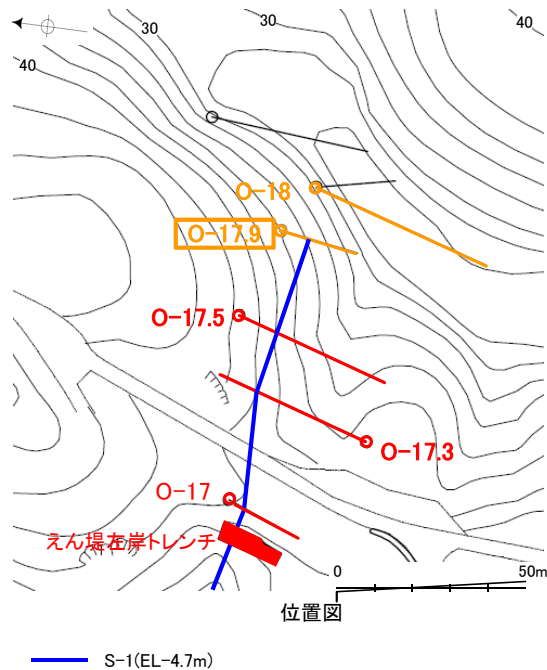
【S-1南東端の調査結果】

- ・基礎掘削面から南東方に追跡した結果、O-17.5孔までS-1を確認。
- ・O-17.3孔とO-17.5孔で確認したS-1の位置、走向・傾斜を考慮して、南東方への想定延長範囲を設定。
- ・**O-17.9孔の想定延長範囲内に、S-1が認められないため、S-1はこれ以上連続しない。**
- ・さらに、延長部のO-18孔においても、S-1が認められないことを確認している。

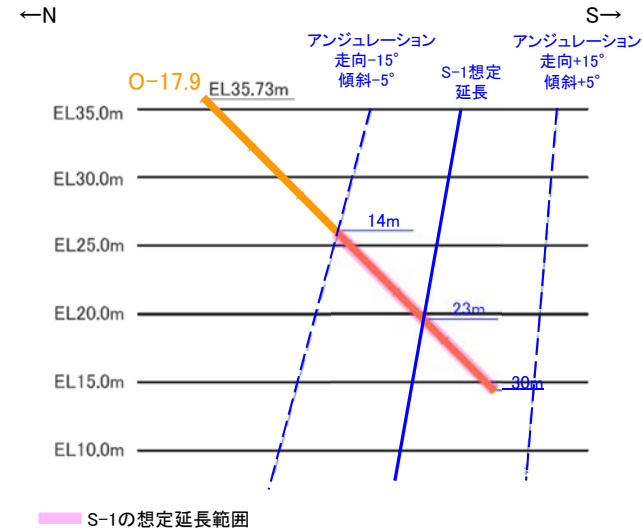
○南東端の止めとしているO-17.9孔の調査結果を以降に示す。

【O-17.9孔の調査結果】

- ・右の断面図に示すとおり、S-1の想定延長は、深度14m以深となる。
- ・想定延長範囲において、S-1は認められない。
- （想定延長範囲のコア写真は次頁参照）



赤: S-1が認められる箇所
橙: S-1端部においてS-1が認められない箇所

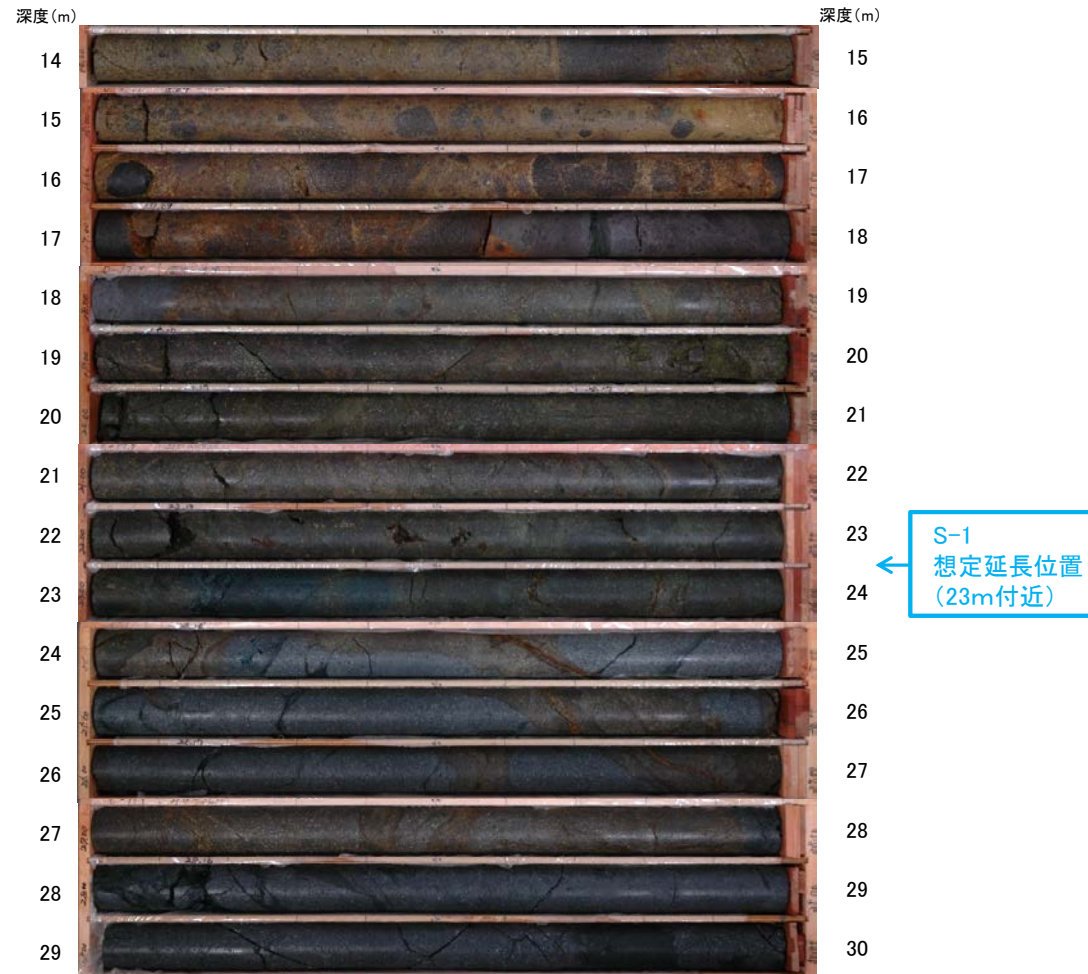


O-17.9孔断面図
(掘進方向)

・S-1想定延長範囲(深度14~30m)のコア写真を以下に示す。

柱状図はデータ集1 P.10-2-116

O-17.9孔(孔口標高35.73m, 掘進長30m, 傾斜45°)



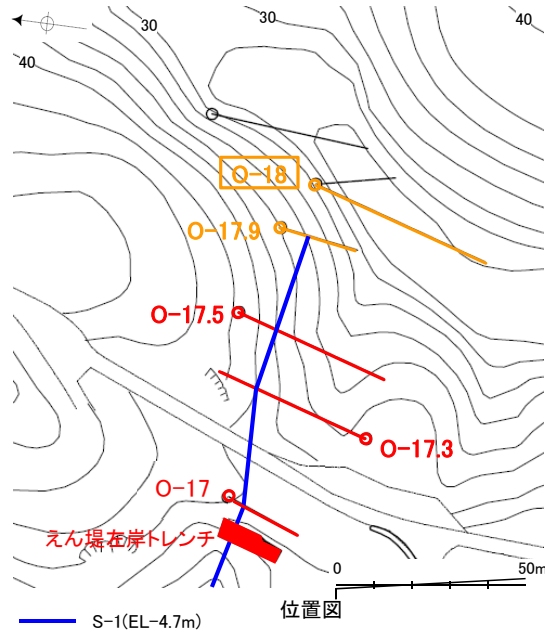
コア写真(深度14~30m)

O-17.9孔において, S-1の想定延長範囲(深度14~30m)にS-1は認められない。

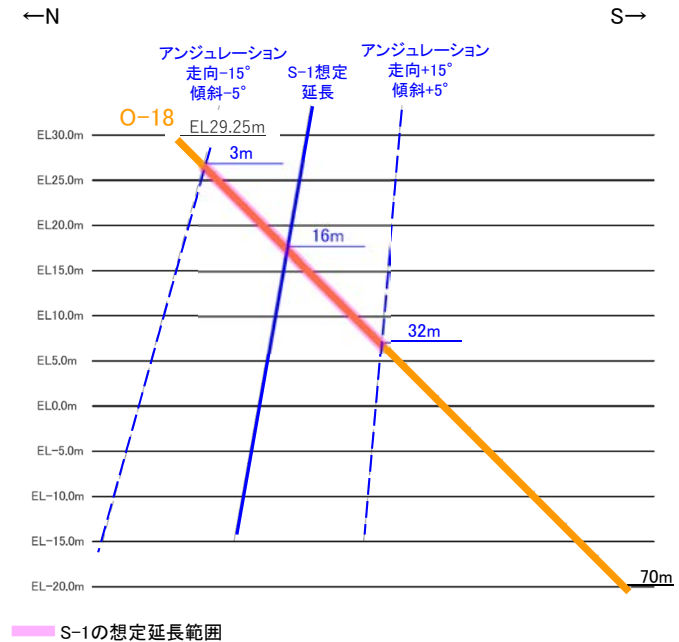
○南東端延長部のO-18孔の調査結果を以降に示す。

【O-18孔の調査結果】

- ・右の断面図に示すとおり、S-1の想定延長は、深度3m～32mとなる。
- ・想定延長範囲において、S-1は認められない。
- （想定延長範囲のコア写真は次頁参照）



赤:S-1が認められる箇所
橙:S-1端部においてS-1が認められない箇所

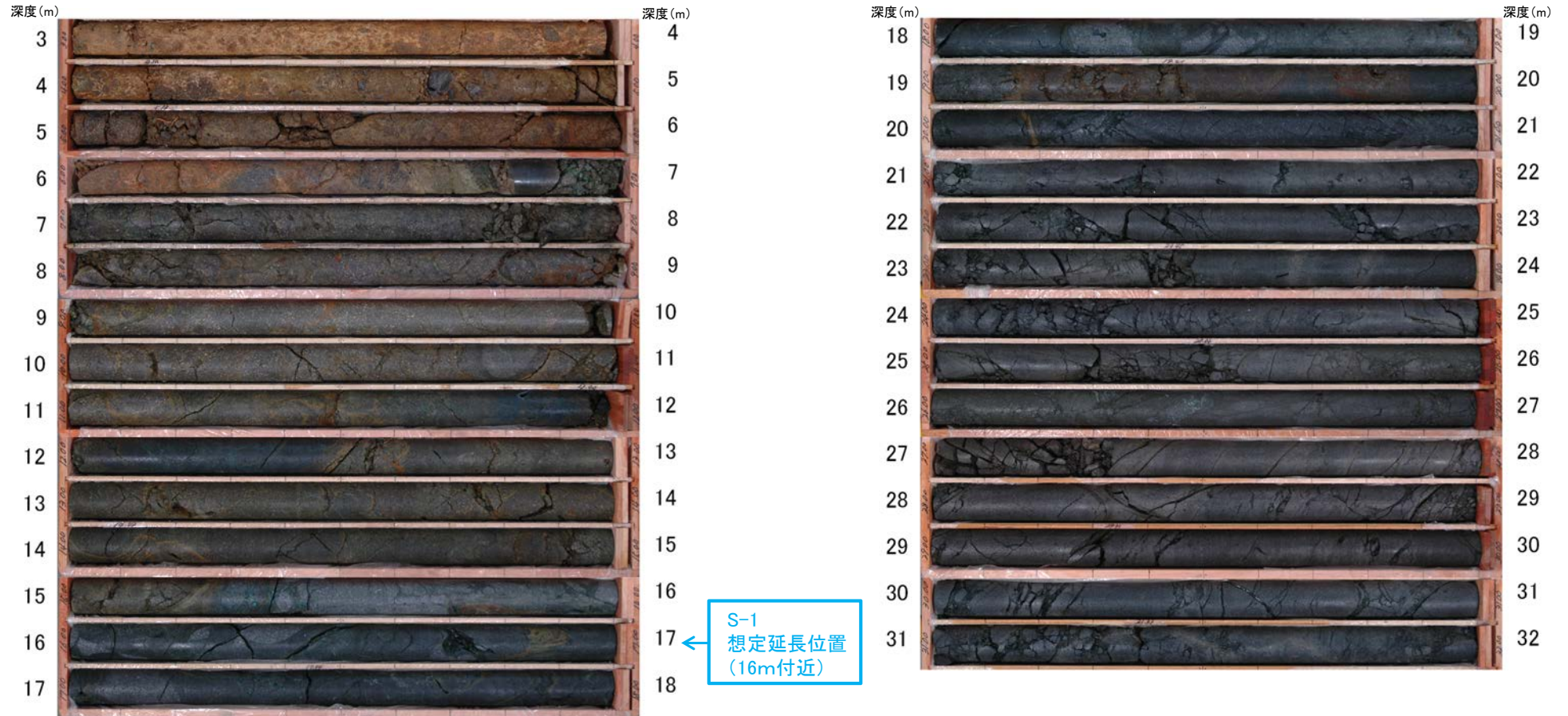


O-18孔断面図
(掘進方向)

・S-1想定延長範囲(深度3~32m)のコア写真を以下に示す。

柱状図はデータ集1 P.10-2-117~118

O-18孔(孔口標高29.25m, 掘進長70m, 傾斜45°)



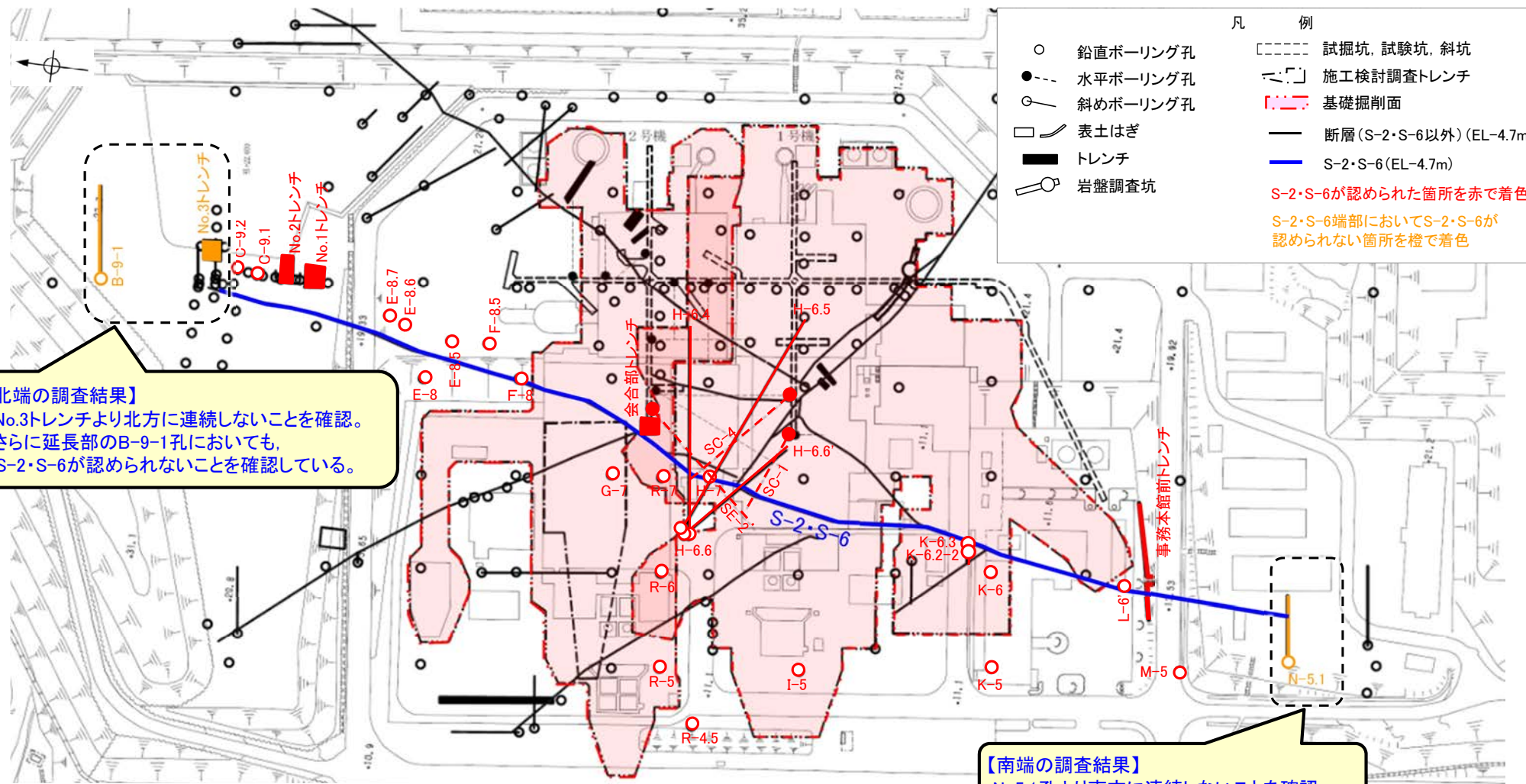
コア写真(深度3~32m)

O-18孔において、S-1の想定延長範囲(深度3~32m)にS-1は認められない。

(2) S-2・S-6端部の調査結果

S-2・S-6端部の調査結果 ー概要ー

■S-2・S-6端部の調査結果の概要を以下に示す。

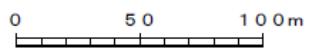


【北端の調査結果】
 ・No.3トレンチより北方に連続しないことを確認。
 ・さらに延長部のB-9-1孔においても、
 S-2・S-6が認められないことを確認している。

【南端の調査結果】
 N-5.1孔より南方に連続しないことを確認。

S-2・S-6端部の調査概要

調査位置図



位置	調査箇所	調査結果
北端	No.3トレンチ	北端の止め
	B-9-1孔	さらに延長部の止め
南端	N-5.1孔	南端の止め

	延長	走向/傾斜
S-2・S-6	600m	N11°E/60°NW*

* 走向は一般走向
傾斜はトレンチの値

S-2・S-6端部の調査結果 ー北端:No.3トレンチ①ー

■S-2・S-6北端の調査結果を以下に示す。

【S-2・S-6北端の調査結果】

- ・S-2・S-6を基礎掘削面から北方に追跡した結果、C-9.2孔までS-2・S-6を確認。
- ・C-9.1孔とC-9.2孔で確認したS-2・S-6の位置、走向・傾斜を考慮して、北方への想定延長範囲を設定。
- ・**想定延長範囲内に位置するNo.3トレンチで、S-2・S-6が認められないため、S-2・S-6はこれ以上連続しない。**
- ・さらに、延長部のB-9-1孔においても、S-2・S-6が認められないことを確認している。

○北端の止めとしているNo.3トレンチの調査結果を以降に示す。

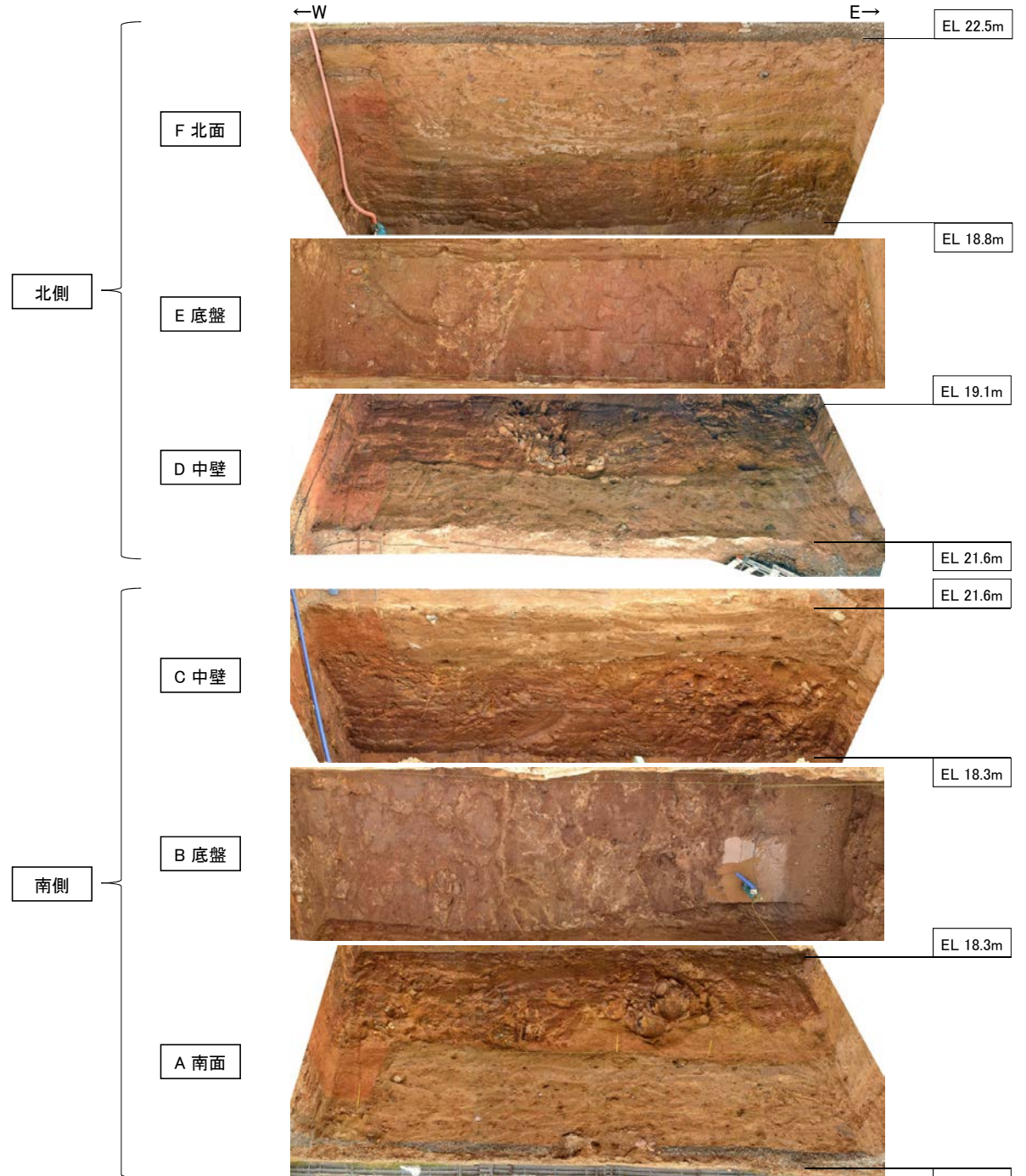
No.3トレンチは、下図に示すとおり、南側トレンチと北側トレンチからなり、それぞれの調査結果を次頁以降に示す。



北側

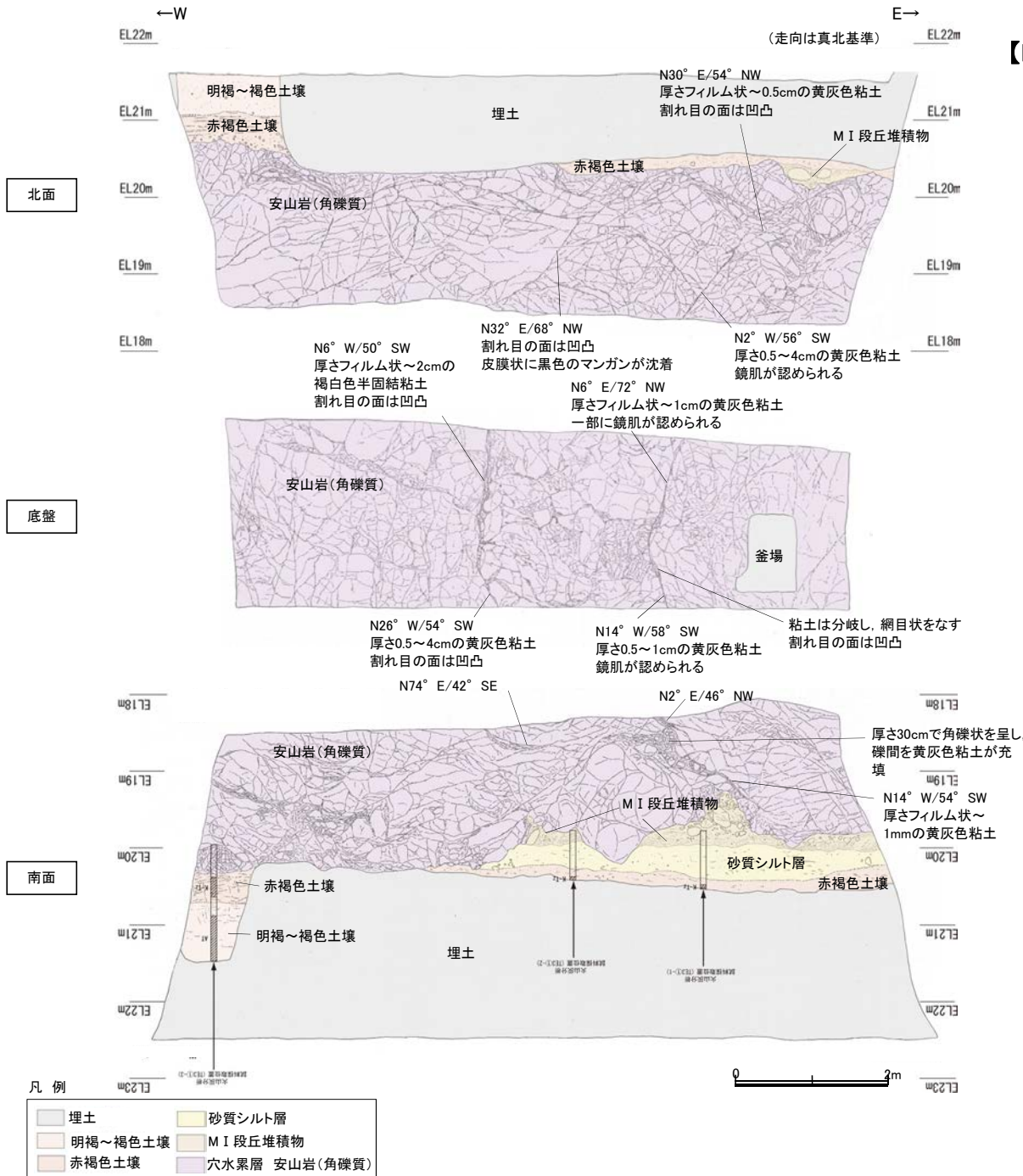
トレンチ状況写真(西側から撮影)

南側



トレンチ写真





【No.3南側トレンチの調査結果】

・No.3南側トレンチにおいて、S-2・S-6は認められない。

【露頭観察結果】

明褐～褐色土壌

- ・色調7.5YR5/6～5/4を呈し、一部で7.5YR4/6を帯びる。
- ・シルト質粘土からなる。
- ・締まっているが、指圧で跡が残る。
- ・壁状～弱い垂角塊状土壌構造が認められる。

赤褐色土壌

- ・色調5YR4/8～7.5YR5/6、ごく一部で弱いトラ斑が認められる。
- ・シルト質粘土からなる。
- ・よく締まっており、強い指圧で僅かに跡が残る。
- ・中程度の垂角塊状土壌構造が認められる。

砂質シルト層

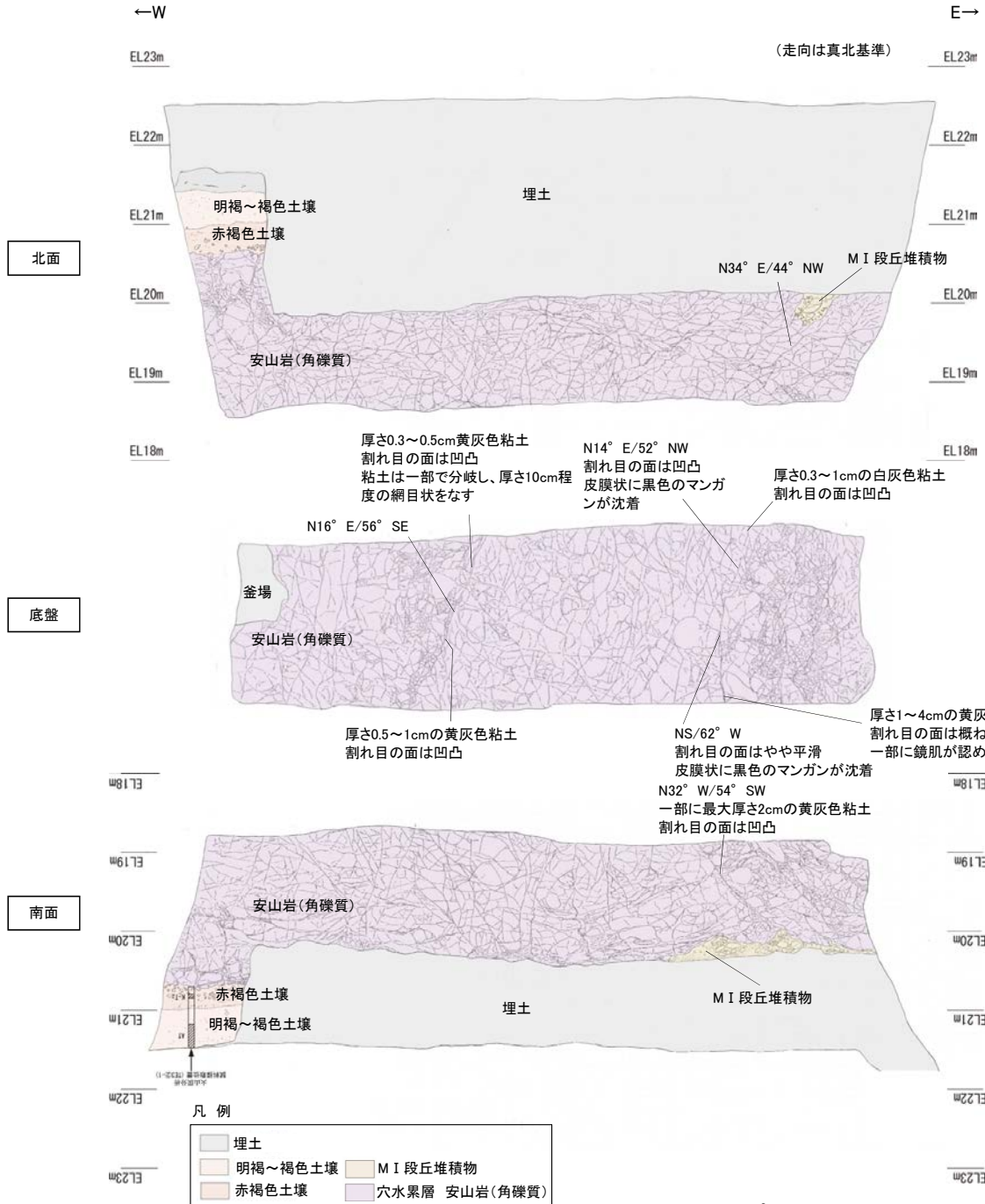
- ・色調7.5YR5/4～6/6
- ・シルトからなり、砂分が混じる。
- ・よく締まっており、強い指圧で僅かに跡が残る。
- ・径10cm程度の安山岩亜円礫が僅かに含まれる。

MI段丘堆積物

- ・シルト質砂礫層
- ・色調2.5YR6/2～7.5YR/5/3
- ・基質はシルト質細～粗粒砂からなり、径5～30cmの安山岩円～垂角礫を5～30%含む。径5cm以下の礫はクサリ礫化が進む。
- ・よく締まっており、強い指圧で僅かに跡が残る。北面では基質部は風化により粘土化し、褐色を帯びる。

【No.3北側トレンチの調査結果】

・No.3北側トレンチにおいて、S-2・S-6は認められない。



【露頭観察結果】

明褐～褐色土壌

- ・色調7.5YR5/6～5/4を呈し、一部で7.5YR4/6を帯びる。
- ・シルト質粘土からなる。
- ・締まっているが、指圧で跡が残る。
- ・壁状～弱い亜角塊状土壌構造が認められる。

赤褐色土壌

- ・色調5YR4/8～7.5YR5/6、ごく一部で弱いトラ斑が認められる。
- ・シルト質粘土からなる。
- ・よく締まっており、強い指圧で僅かに跡が残る。
- ・中程度の亜角塊状土壌構造が認められる。

MI段丘堆積物

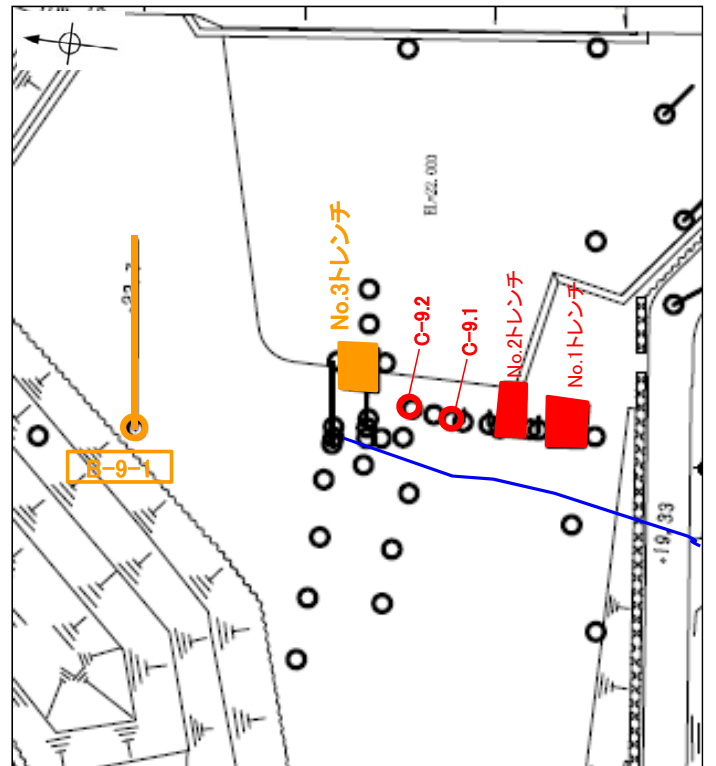
- ・シルト混じり砂礫層
- ・色調2.5YR6/2～7.5YR/5/3
- ・基質はシルト質細～粗粒砂からなり、径5～30cmの安山岩円～亜角礫を5～30%含む。径5cm以下の礫はクサリ礫化が進む。
- ・よく締まっており、強い指圧で僅かに跡が残る。南面では基質部は風化により粘土化し、褐色を帯びる。

No.3トレンチにおいて、S-2・S-6は認められない。

○北端延長部のB-9-1孔の調査結果を以降に示す。

【B-9-1孔の調査結果】

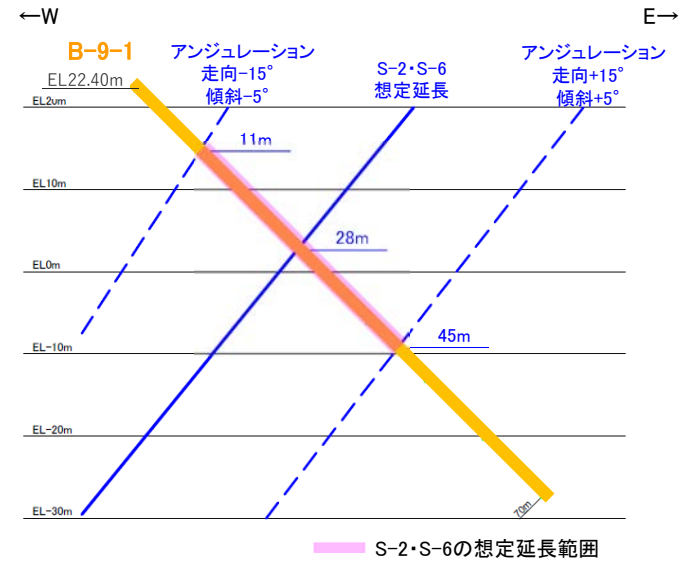
- ・右の断面図に示すとおり、S-2・S-6の想定延長範囲は、深度11～45mとなる。
- ・想定延長範囲において、S-2・S-6は認められない。
(想定延長範囲のコア写真は次頁参照)



調査位置図

- S-2・S-6(EL-4.7m)
- 斜めボーリング

赤：S-2・S-6が認められる箇所
橙：S-2・S-6端部においてS-2・S-6が認められない箇所

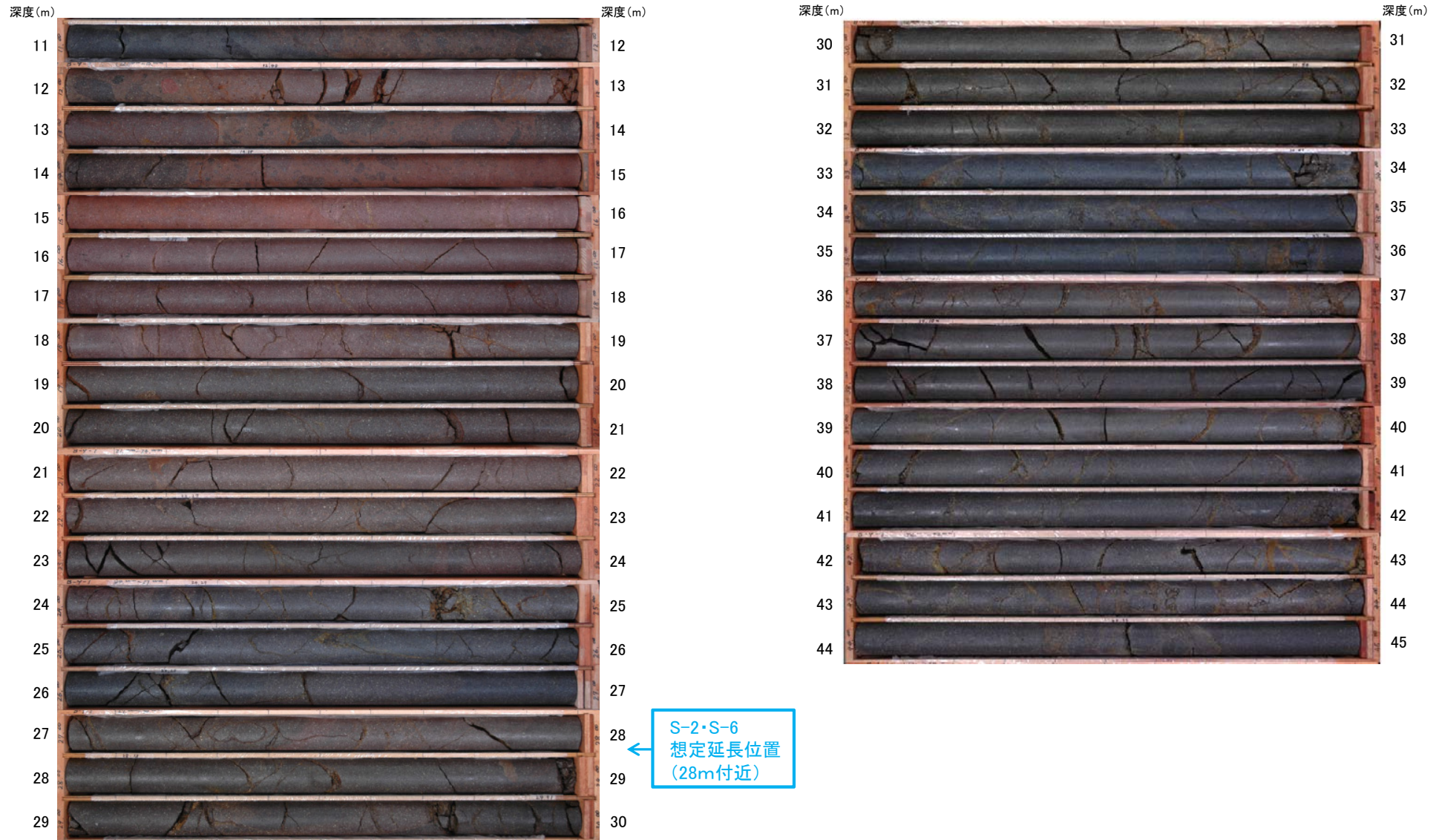


B-9-1孔断面図
(掘進方向)

・S-2・S-6想定延長範囲(深度11～45m)のコア写真を以下に示す。

柱状図はデータ集1 P.10-3-94～95

B-9-1孔(孔口標高22.40m, 掘進長70m, 傾斜45°)



コア写真(深度11～45m)

B-9-1孔において、S-2・S-6の想定延長範囲(深度11～45m)にS-2・S-6は認められない。

■ S-2・S-6南端の調査結果を以下に示す。

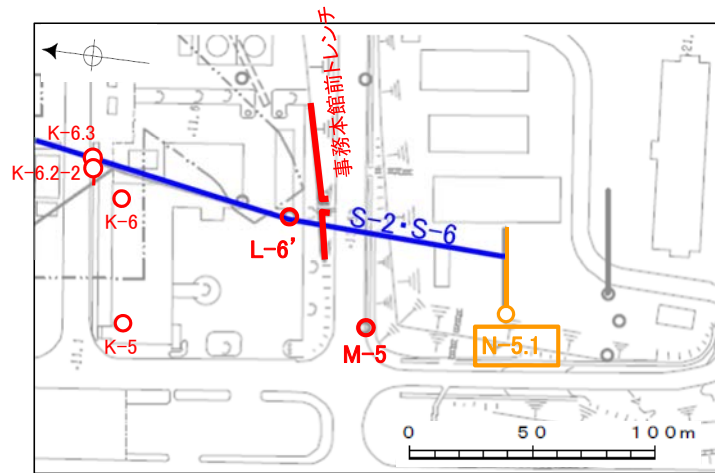
【S-2・S-6南端の調査結果】

- ・基礎掘削面から南方に追跡した結果、L-6' 孔、事務本館前トレンチ、M-5孔付近までS-2・S-6を確認。
- ・L-6' 孔と事務本館前トレンチで確認したS-2・S-6の位置、走向・傾斜を考慮して、南方への想定延長範囲を設定。
- ・N-5.1孔の想定延長範囲内に、S-2・S-6が認められないため、S-2・S-6はこれ以上連続しない。

○南端の止めとしているN-5.1孔の調査結果を以降に示す。

【N-5.1孔の調査結果】

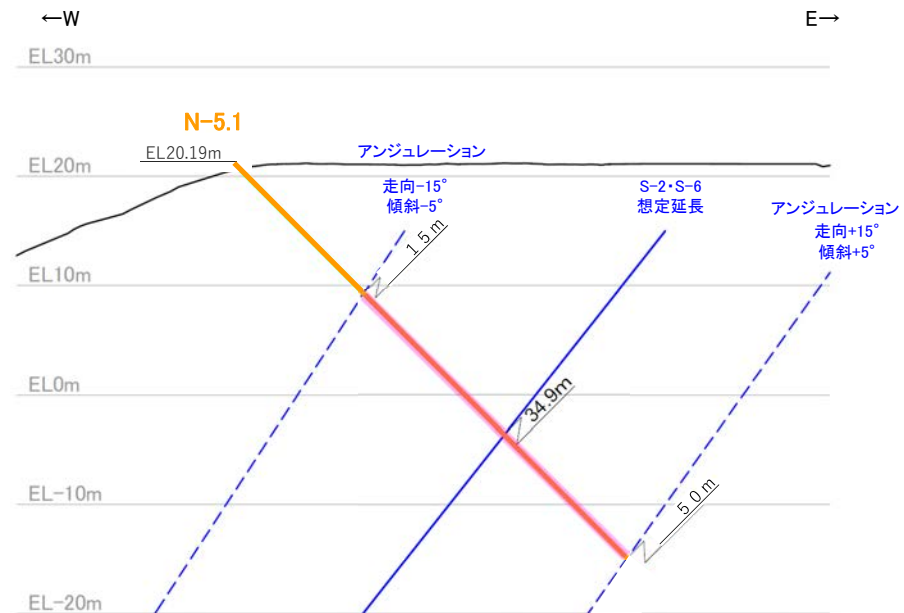
- ・右の断面図に示すとおり、S-2・S-6の想定延長範囲は、深度15～50mとなる。
- ・想定延長範囲において、S-2・S-6は認められない。
(想定延長範囲のコア写真は次頁参照)



調査位置図

- S-2・S-6(EL-4.7m)
- 斜めボーリング

赤:S-2・S-6が認められる箇所
橙:S-2・S-6端部においてS-2・S-6が認められない箇所



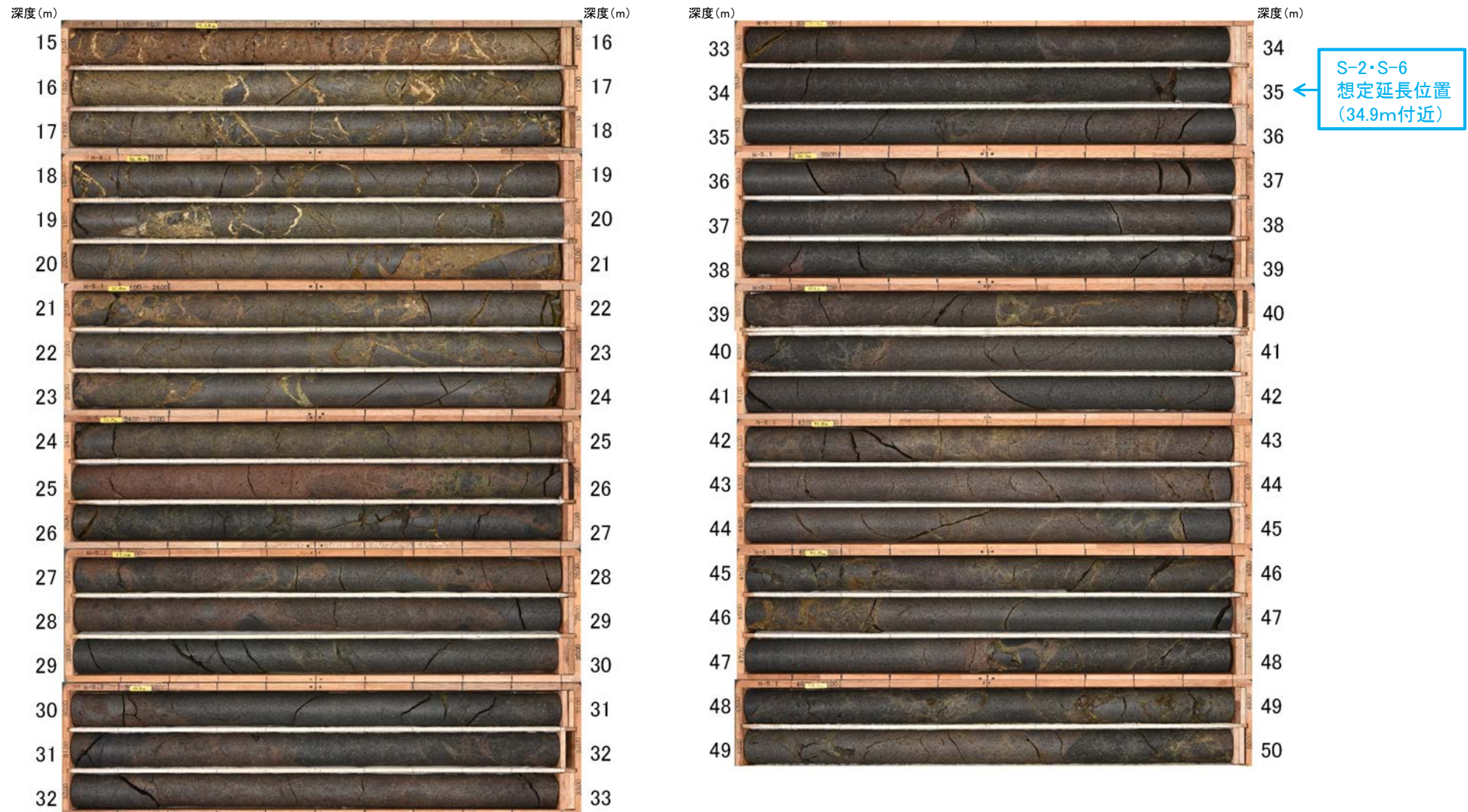
S-2・S-6の想定延長範囲

N-5.1孔断面図
(掘進方向)

・S-2・S-6想定延長範囲(深度15～50m)のコア写真を以下に示す。

柱状図はデータ集1 P.10-3-104～105

N-5.1孔(孔口標高20.19m, 掘進長50m, 傾斜45°)

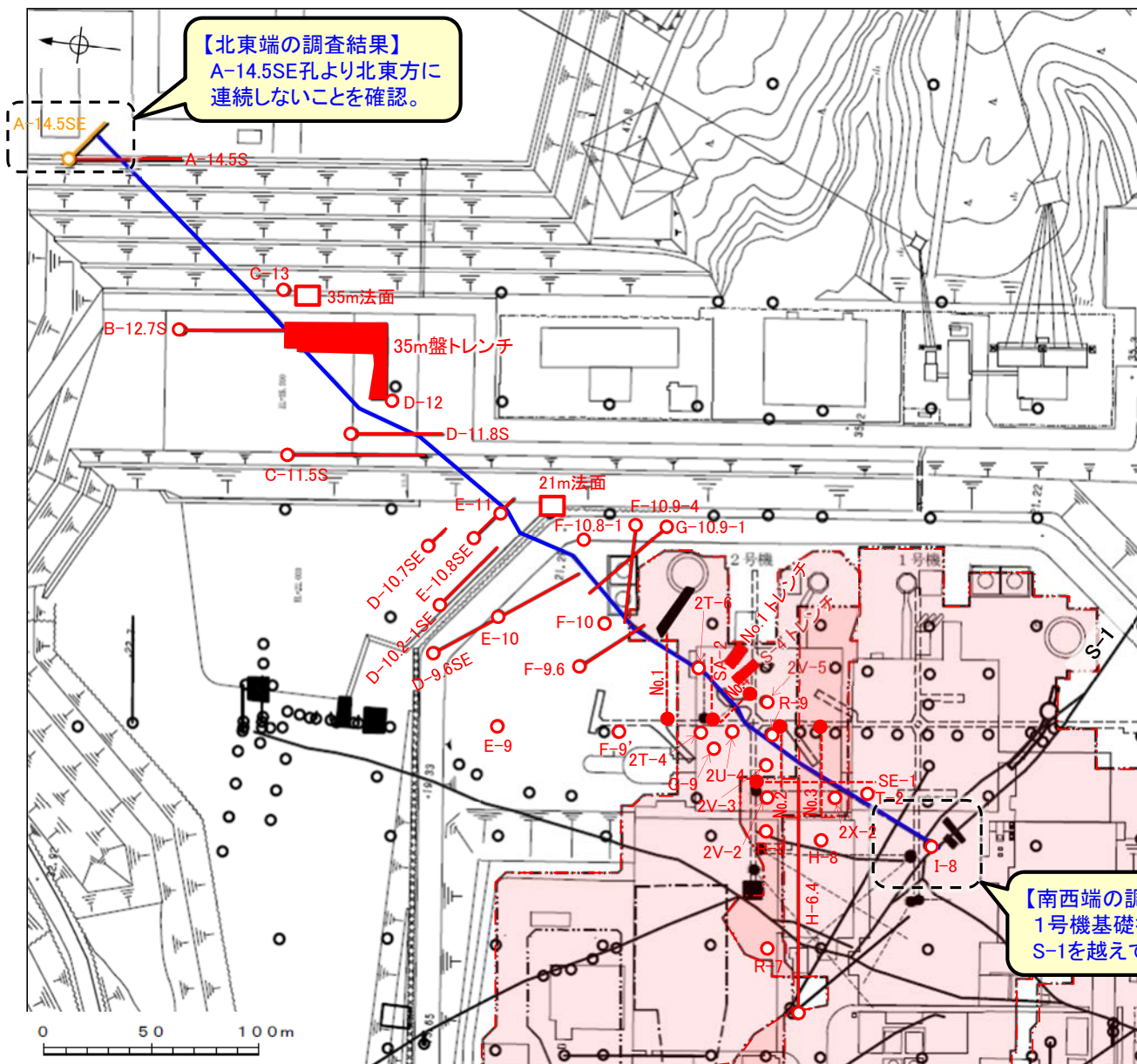


コア写真(深度15～50m)

N-5.1孔において、S-2・S-6の想定延長範囲(深度15～50m)にS-2・S-6は認められない。

(3) S-4端部の調査結果

■S-4端部の調査結果の概要を以下に示す。



調査位置図

凡 例

- 鉛直ボーリング孔
- 水平ボーリング孔
- 斜めボーリング孔
- 表土はぎ
- トレンチ
- 🔍 岩盤調査坑
- 試掘坑, 試験坑, 斜坑
- 📐 施工検討調査トレンチ
- 🔴 基礎掘削面
- 断層(S-4以外)(EL-4.7m)
- S-4(EL-4.7m)

S-4が認められた箇所を赤で着色
S-4端部においてS-4が認められない箇所を橙で着色

S-4端部の調査概要

位置	調査箇所	調査結果
北東端	A-14.5SE孔	北東端の止め
南西端	1号機基礎掘削面	南西端の止め

	延長	走向/傾斜
S-4	510m	N29°E / 66°NW*

* 走向は一般走向
傾斜は試掘坑の値

【南西端の調査結果】
1号機基礎掘削面において、
S-1を越えて連続しないことを確認。

S-4端部の調査結果 —北東端:A-14.5SE孔①—

■ S-4北東端の調査結果を以下に示す。

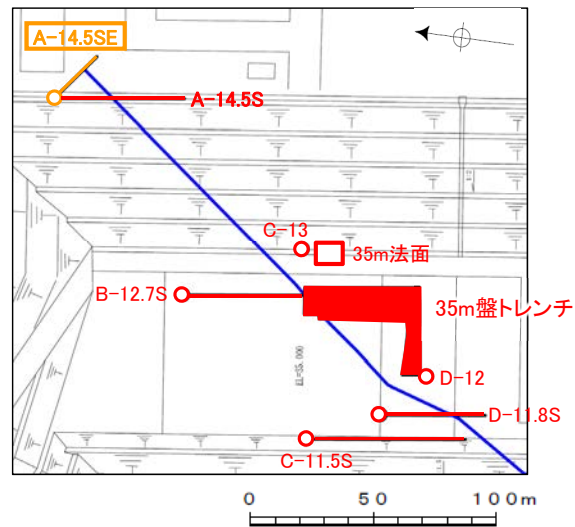
【S-4北東端の調査結果】

- ・基礎掘削面から北東方に追跡した結果、A-14.5S孔までS-4を確認。
- ・35m盤法面とA-14.5S孔で確認したS-4の位置、走向・傾斜を考慮して、北東方への想定延長範囲を設定。
- ・A-14.5SE孔の想定延長範囲内に、S-4が認められないため、S-4はこれ以上連続しない。

○北東端の止めとしているA-14.5SE孔の調査結果を以降に示す。

【A-14.5SE孔の調査結果】

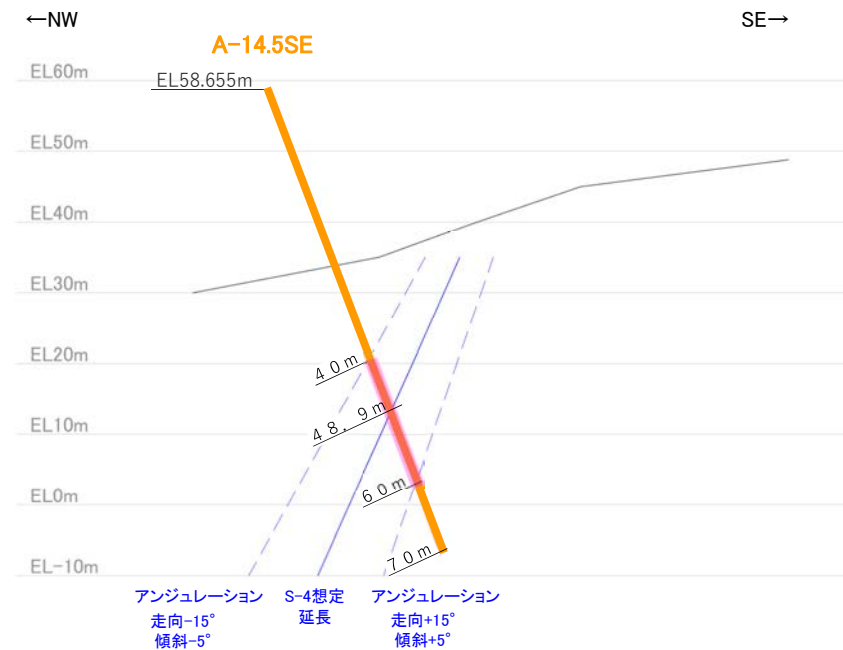
- ・右の断面図に示すとおり、S-4の想定延長範囲は、深度40～60mとなる。
 - ・想定延長範囲において、S-4は認められない。
- (想定延長範囲のコア写真は次頁参照)



調査位置図

- S-4 (EL-4.7m)
- 斜めボーリング

赤: S-4が認められる箇所
 橙: S-4端部においてS-4が認められない箇所



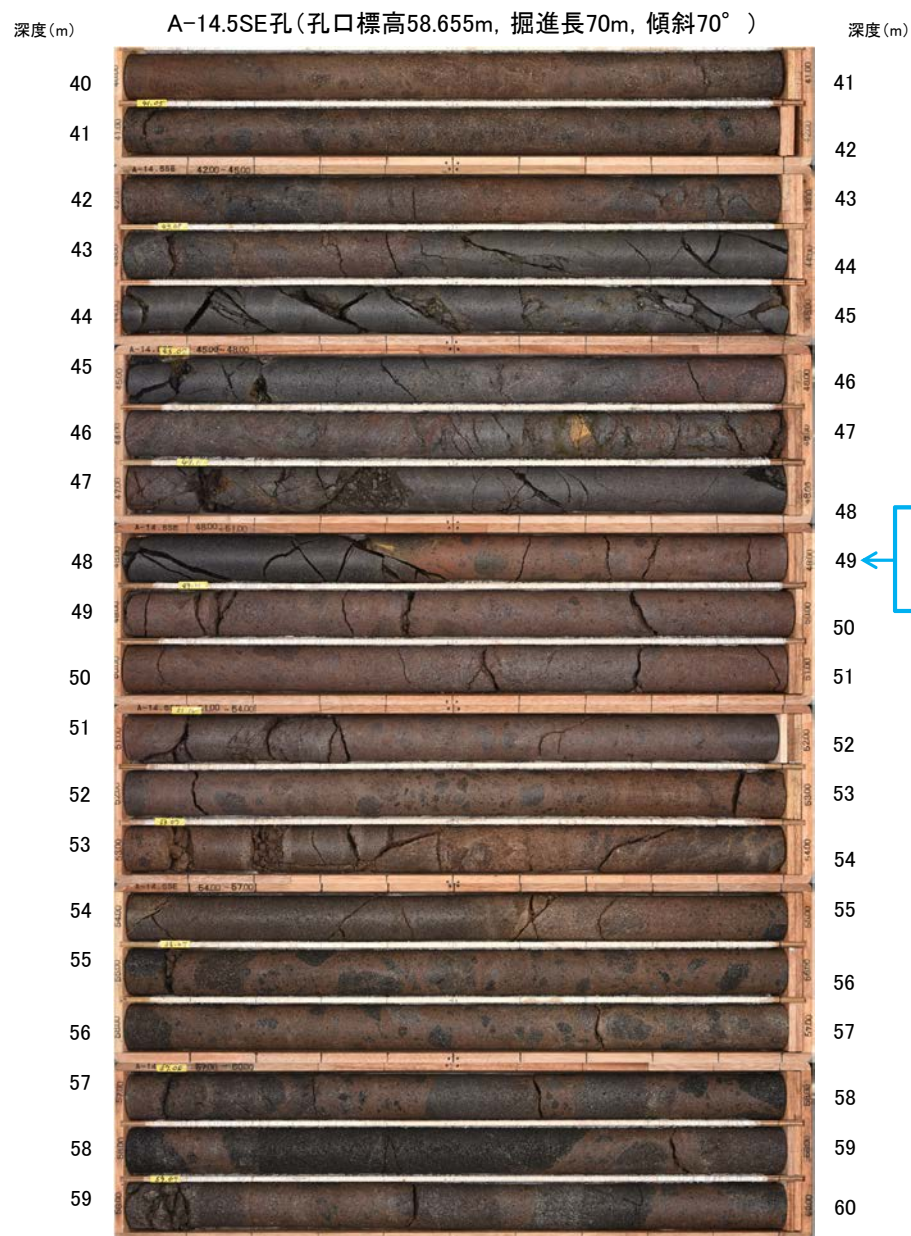
S-4の想定延長範囲

A-14.5SE孔断面図
(掘進方向)

S-4端部の調査結果 — 北東端:A-14.5SE孔② —

・S-4想定延長範囲(深度40~60m)のコア写真を以下に示す。

柱状図はデータ集1 P.10-3-154~155



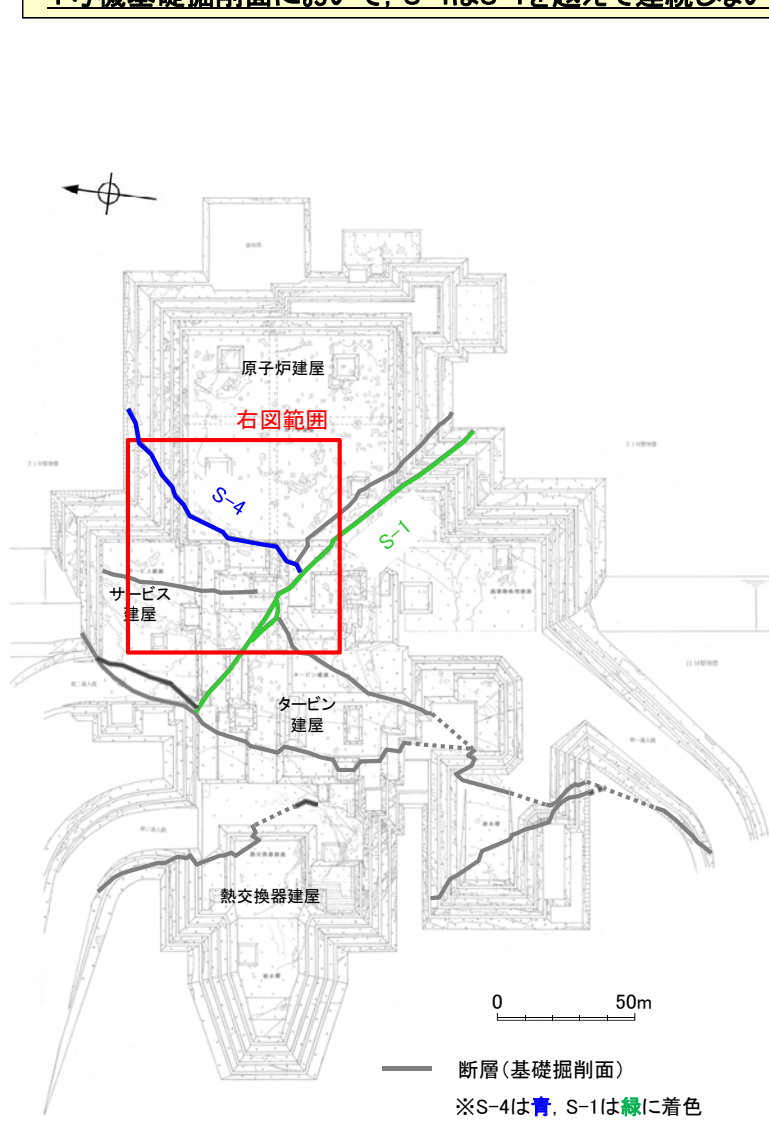
コア写真(深度40~60m)

A-14.5SE孔において、S-4の想定延長範囲(深度40~60m)にS-4は認められない。

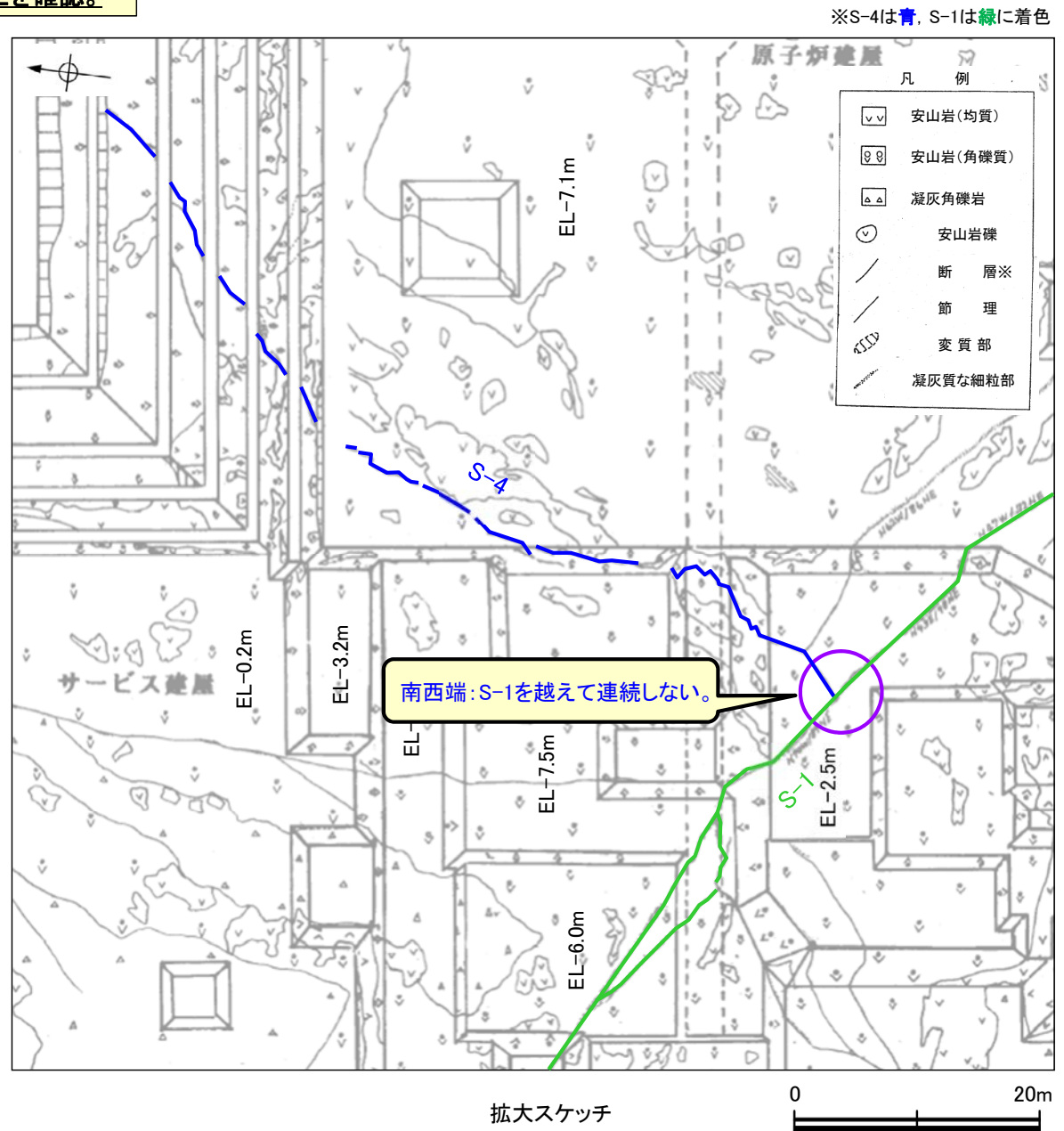
■S-4南西端の評価を以下に示す。

【S-4南西端の評価】

1号機基礎掘削面において、S-4はS-1を越えて連続しないことを確認。



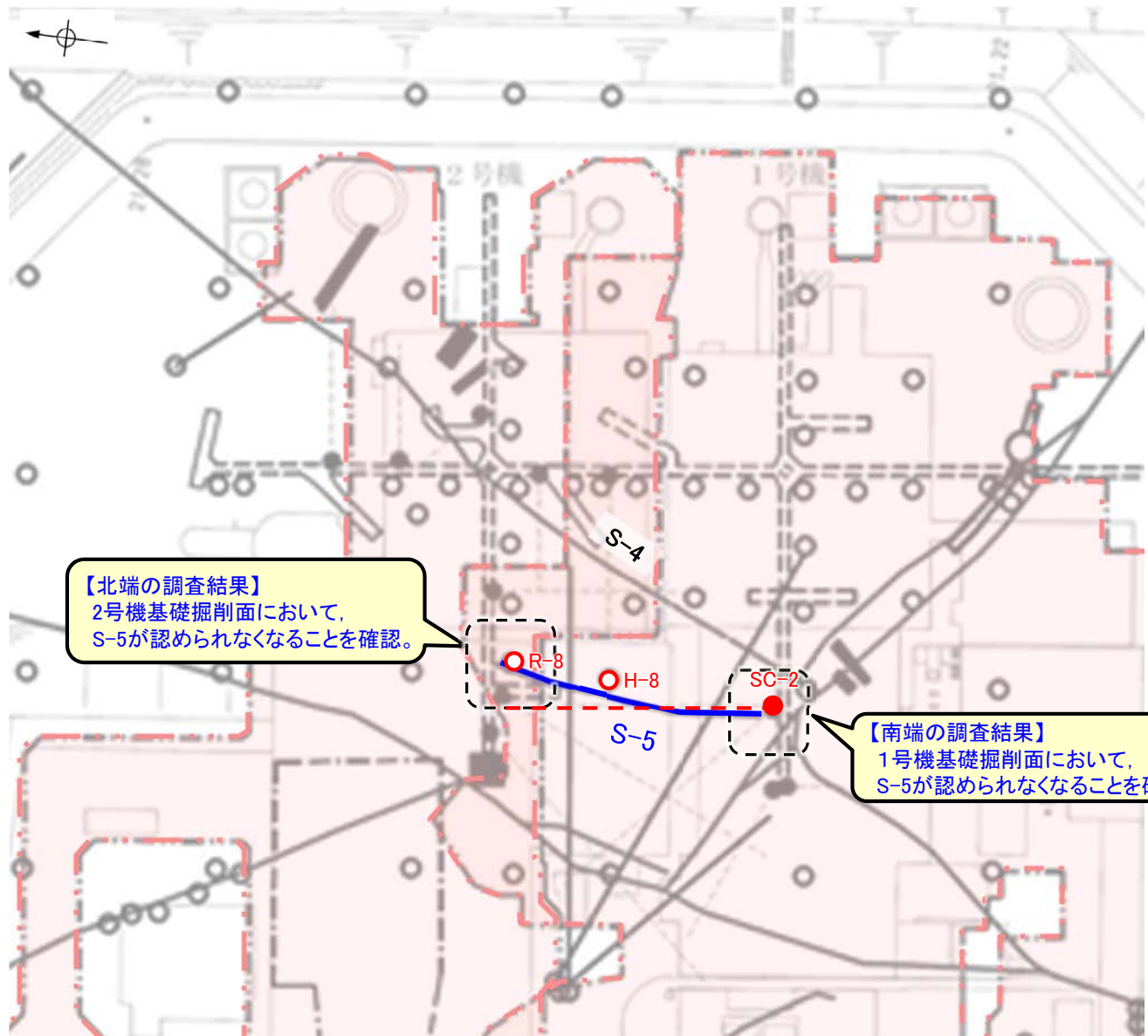
1号機基礎掘削面



(4) S-5端部の調査結果

S-5端部の調査結果 ー概要ー

■S-5端部の調査結果の概要を以下に示す。



【北端の調査結果】
2号機基礎掘削面において、
S-5が認められなくなることを確認。

【南端の調査結果】
1号機基礎掘削面において、
S-5が認められなくなることを確認。

凡 例

- 鉛直ボーリング孔
- 水平ボーリング孔
- ◡ 斜めボーリング孔
- 表土はぎ
- トレンチ
- ⌘ 岩盤調査坑
- ⋯ 試掘坑, 試験坑, 斜坑
- ┌─┐ 施工検討調査トレンチ
- ┌─┐ 基礎掘削面
- 断層(S-5以外)(EL-4.7m)
- S-5(EL-4.7m)
- S-5が認められた箇所を赤で着色

S-5端部の調査概要

位置	調査箇所	調査結果
北端	2号機基礎掘削面	北端の止め
南端	1号機基礎掘削面	南端の止め

	延長	走向/傾斜
S-5	70m	N4°E/70°SE*

* 走向は一般走向
傾斜はボーリングの値

調査位置図

